組之木原遺跡

平成７年度民間開発（宅地造成）に
伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

１９９６

群馬県勢多郡富士見村遺跡調査会

6．遺跡の位置と環境

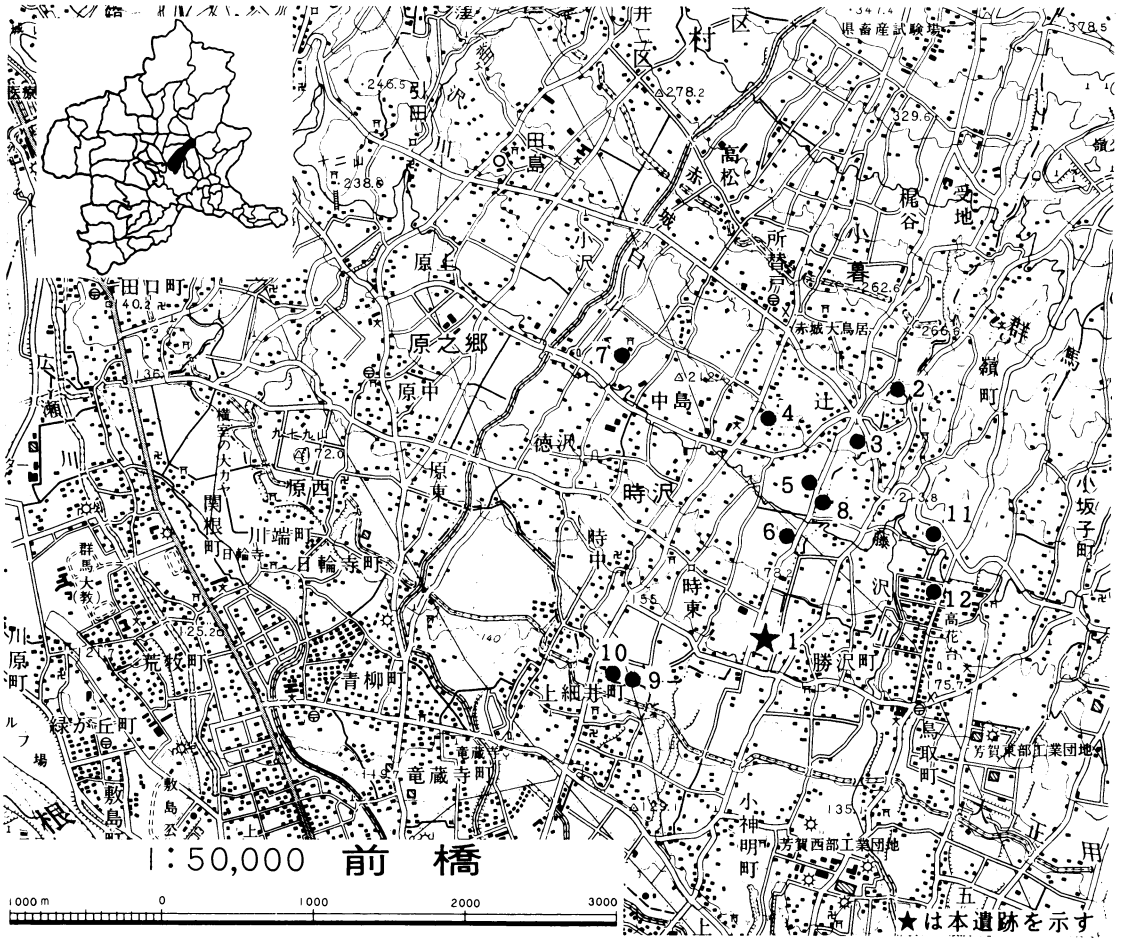
富士見村は、上毛三山の名峰赤城山の山頂から南西麓の裾野にかけてを村域とし、群馬県中央部の県都前橋と東・南方向で隣接しています。標高140mの村域最南端（時東）から赤城山最高峰黒桧山1,827.6mの標高差があり、標高400m付近を赤城山南麓の市町村を繋いで東西方向に走る国道353号を境に、北部は山岳地帯、南部は緩傾斜裾野地帯であります。

組之木原遺跡は、この南部に位置する富士見村大字時沢地区の最東端にあります。この時沢地区は、一級河川赤城白川の左岸にあり、東西の幅約2.5km、南北の幅2.0km程の地域であります。

赤城白川は、赤城山地蔵岳西の谷間を新坂平への登り口あたりを源に、（主）前橋・赤城線に沿って南下し、富士見村の中央部を縦断し、前橋市南橘地区で桃ノ木川に合流する。時沢地区付近を下流する赤城白川の川底は、堤内地（堤防の民地側）より高い天井川で、平常の水量は極めて少ないが、豪雨時は忽ち出水して急流となる河川であります。1947年９月のカスリン台風で上流域に発生した土石流で赤城白川が氾濫した大水害は、104人の尊い命を奪い、多くの負傷者を出し、流失・倒壊家屋87戸など壊滅的被害の記録が今に残っています。今は、改修整備が完成し、災害時の面影は何処にもありません。（『時沢とは、時によって沢となる、依ってかく名付けたり……』「富士見村誌続編」第四節　時沢郷と藤沢郷）

時沢の地名は、平安期の「和名抄」に記載される勢多郡の管郷で、深田．田邑．芳賀．桂萱．真壁．深渠．深沢．時沢．藤沢の九郷の１つ時沢郷に比定される地名であり、（「『日本地理志料』では、原之郷．田口．関根．川端．日輪寺．荒牧．小沢．小暮．石井．皆沢．嶺．勝沢ノ諸邑」としている。）何れにしても、古くから人々の生活があったことが窺える。また藤沢郷に比定される地名は無いが、河川の名で藤沢川がある。この河川は、赤城山鍋割山南西の赤城ゴルフ場東の谷間付近に源を発し、富士見村総合グランドの西を南流して、大字小暮24番地先から前橋市嶺町の境界を南流し、高花台の住宅団地の中央から勝沢町を経て南東流して桃ノ木川に合流する。勝沢町に隣接する高花台団地の造成工事にさきがけ昭和48年からの発掘調査で、平安期の集落の跡が発見されていることから、組之木原遺跡の東に隣接する前橋市勝沢町を中心とした藤沢川の流域が藤沢郷に推定されている。

「時沢」は、室町期に七谷川に改称され、更に不動堂村と呼ばれるようなり、明治９年中島村と合併して、古郷名「時沢」を村名としたという。明治22年に時沢他13か村が合併し、合併した13か村から富士山が見えることから、古来「富士見十三州」という言葉に因み、村名を『富士見村』としたという。（「富士見村誌　続編」）



第２図　遺跡の位置と周辺の遺跡

５．周辺遺跡一覧表

番号	遺跡名	所在地	時代	種別	備考	群馬県遺跡台帳No.
1	組之木原遺跡	時沢字組之木原	縄文、古墳、平安	集落跡など	本報告書	
2	広面遺跡	小暮字広面	縄文、平安、近世	集落跡など		2176
3	寺間遺跡		平安	集落跡など		
4	横堀遺跡					
5	百駄山遺跡	時沢字百駄山	縄文	包蔵地	散布多量多い	
6	上百駄山遺跡	時沢字上百駄山	縄文			
7	時沢古墳群	時沢		墳墓		2178他
8	孫田遺跡		縄文、平安			
9	東紺屋谷戸		奈良、平安			
10	西紺屋谷戸		奈良、平安			
11	東公田古墳	前橋市	古墳	墳墓		
12	芳賀北部団地遺跡	前橋市	縄文、古墳	集落跡など	縄文～中近世	

注：群馬県遺跡台帳１（東毛編）及び富士見村誌をもとに作成した。包蔵地の遺跡名は便宜的に小字名をあてた。

基準点は、国土地理院の２級基準点　第503号、第506号から遺跡の北西地点にＡ－０点を測設（「組之木原遺跡平面図」参照）した。

グリッドは、経線（南北）を北から南へアルファベット順にＡ、Ｂ、Ｃ……、緯線（東西）を西から東へアラビア数字で１、２、３、……、を序列し、４ｍ×４ｍのグリッド（方眼枠）を設定した。

水準点　ベンチ・マークは、２級基準点　第503号　H159.03mから測設した。

４．基本土層

本遺跡は、後世の土地利用が活発であったと思われ、遺構確認面までの表層は薄く、撹乱された部分があり、それらの影響が最も少ないＤ区に於ても表土の厚さは20～30cm程度であった。ここでは、Ｄ区のテスト・トレンチを利用して標準層位とした。

表土（耕作土）下は、直ちにローム層となり、ローム層は、平均１ｍ前後の堆積で、その下部は旧河道の存在を示す礫層となっている。

標準層位

Ⅰ層：耕作土

II層：黄褐色ローム　ＤＰ３％

III層：明黄褐色ローム　ＳＰ５％

IV層：暗黄褐色ローム　ＹＰ１％

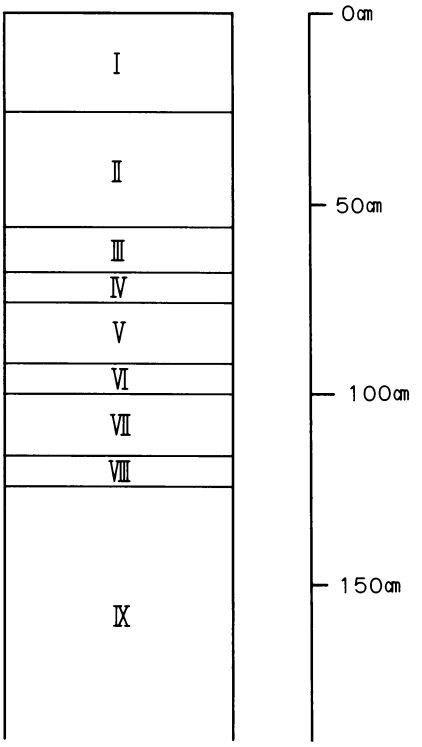
Ⅴ層：褐色ローム　白色パミス３％

VI層：明黄褐色ローム　白色パミス２％
ガラス質１％

Ⅶ層：灰黄色ローム

Ⅷ層：灰褐色シルト

IX層：礫層



第１図　標準堆積土層図

28日　住居跡レベリング調査完了遺跡平面図（1/500）測量完了、調査地埋戻開始

1月10日　調査地埋戻・整地・現場発生ゴミ処分、現場事務所撤去　調査業務完了

整理作業

1月5日　測量図面・記録写真の整理開始

8日　遺物の洗浄・注記開始

16日　遺物接合復元・石膏入れ作業開始

2月8日　測量図・修正・整理・編集の開始

16日　土層注記のワープロ原稿処理開始

23日　遺物観察表作成開始

3月1日　遺物（土器）の実測図化作業開始

2日　住居跡・ピット・土坑の寸法測定開始

5日　住居跡・ピット・土坑などパーソナルコンピューター図化処理作業開始

28日　原稿執筆作業開始

4月3日　原稿ワープロ入力処理開始

15日　遺物観察表ワープロ入力処理開始

20日　遺物写真撮影

30日　報告書原稿執筆・編集作業完了

2．調査の方法

試掘時の区分に従い、調査区を4分割しA～D区と呼称した。調査区の位置は別添「組之木原遺跡平面図」に示す通りとした。各区ともパワーショベルによる表土掘削後、ジョレンによる精査を行ない、遺構・遺物を検出した。住居跡は、基本的に直交するベルトを残し、地層断面図を作成し、カマドも同様とした。

図面縮尺は、遺構の平面・断面図は1/20で、カマドの平面・断面図は1/10で記録した。

遺跡の全体図は、「組之木原遺跡平面図　S＝1/500」として実測した。

撹乱坑は、底面まで掘り出し、地層確認を行ない、先土器時代・縄文時代の遺構確認のため、当初2m×2mのピットを掘り下げ、トレンチ状に連繋して確認に努めた。

3．遺跡の測量基準点とグリッドの設定

基準点　A－0点　X　47,300.000m

Y－66,000.000m

水準点　A区　BM_1＝162.500m

C区　BM_2＝163.000m

D区　BM_3＝164.500m

Ⅰ　調査の概要・遺跡の位置と環境

1．調査に至る経緯と経過

富士見村大字時沢1000－3．1001－1．1004．ほかの土地について、宅地造成工事に伴う都市計画法（昭和43年法律第100号）第29条の開発行為の許可申請にさきがけ同法第32条（公共施設の管理者の同意等）の規定により、富士見村に「事前協議書」が提出され、富士見村教育委員会で調査検討したところ、文化財保護法（昭和25年法律第214号）第57条の2（土木工事等の発掘に関する届出及び指示）に規定する「周知の埋蔵文化財包蔵地」であることから、試掘調査を実施したところ、古墳時代から平安時代にかけての住居跡10数軒が確認された。このことから村教育委員会と開発行為者（岩崎建設株式会社・所在地富山県東礪波郡福野町松原新1506-1・代表取締役岩崎行雄）の間で協議調整のうえ、調査面積2,200㎡について発掘調査を実施することになった。

発掘調査は、富士見村教育委員会のもとに組織する富士見村遺跡調査会の指導のもとスナガ環境測設株式会社で平成7年9月21日から着手した。

発掘調査の経過は、次の通りである。（調査日誌抄）

平成7年9月21日　バックホウなど重機器材等の搬入
22日　作業事務所設置．現況写真撮影．除草・整地など作業開始
26日　表土掘削重機作業開始（職員5人・作業員13人）．ジョレン掛プラン確認開始
29日　水準点（BM_1）．A区グリッド杭設置測量開始．基準点座標設置測量開始
30日　遺跡平面測量開始
10月4日　表採一括遺物上げなど開始
5日　水準点（BM_2）．住居跡精査開始．遺構出土状況写真撮影開始
6日　C区グリッド杭設置測量開始
7日　床・カマド・壁の精査開始．遺物分布図作成開始．遺物上げ開始．遺物出土状況写真撮影開始
12日　テスト・トレンチ．テスト・ピットの発掘開始
13日　地層断面図・注記・ピットセクション図作成開始
30日　D区グリッド杭設置測量開始
31日　水準点（BM_3）開始など
12月22日　H-1．2．3．4．5．6．7．8．9．10．11．12．13．14．15．16．17．18．19．20．21．22．23．24．25．26．27の全住居跡調査完了
25日　完了検査－羽鳥主任（村調査会）
27日　M-24グリッド焼土範囲調査完了

組之木原遺跡

5．周辺遺跡一覧表…… 5
6．遺跡の位置と環境…… 6
II．遺構と遺物
1．縄文時代…… 9
2．古墳時代…… 9
3．奈良・平安時代……12
III．ま と め……21
出土遺物観察表……24
ピット・土坑表……27

図版目次

第1図　標準堆積土層図…… 4
第2図　遺跡の位置と周辺の遺跡…… 5
第3図　組之木原遺跡平面図…… 7
第4図　3・5号住居跡・カマド……28
第5図　6号住居跡・カマド……29
第6図　7号住居跡・カマド……30
第7図　26号住居跡・カマド……31
第8図　27号住居跡・カマド……32
第9図　1・2号住居跡・カマド……33
第10図　4・9号住居跡・カマド……34
第11図　10・11号住居跡・カマド……35
第12図　12号住居跡・カマド……36
第13図　13・14号住居跡・カマド……37
第14図　15号住居跡・カマド……38
第15図　17号住居跡・カマド……39
第16図　16・18号住居跡・カマド……40
第17図　19号住居跡・カマド，20号住居跡…41
第18図　20号住カマド・柱穴，22号住カマド…42
第19図　23号住居跡・カマド，24号住居跡…43
第20図　25号住居跡・カマド，竪穴状遺構…44
第21図　1・2号掘立柱建物跡……45
第22図　8号住居跡，21号住居跡・カマド…46
縄文時代の遺物……47
遺物実測図　1……48
遺物実測図　2……49

写真図版

図版1……53
図版2……54
図版3……55
図版4……56

佐々木智恵子、測量図・遺構図・遺物図のパーソナルコンピューター解析と整理・校正を板垣宏、校正・編集・版下作成を新保一美・神津芳夫、遺物写真撮影を荻野博巳、製版写真を勝田貞幸、文章清書を勝田貞幸・須永薫子、事務を須永豊・柴崎信江が担当した。

13 本調査に際して御協力を戴きました富士見村教育委員会を始め、関係諸機関、開発行為者、地元住民の皆様、調査及び整理に際して御指導、御助言を戴きました各方面の方々に衷心より感謝申し上げます。

凡　　例

1 遺跡の位置の基準

基準点　国土地理院の三角点及び水準点　　座標系　第IX系

A・0点座標値　X　47,300.000m　Y　−66,000.000m

水準点　BM.1＝162.500m　　BM.2＝163.000m　　BM.3＝164.500m

2 遺跡の位置図

国土地理院発行5万分の1「前橋」を加筆して使用した。

3 実測図の縮尺

遺跡平面図　S＝1：500（全体図）

遺構実測図　S＝1：40及びS＝1：80を原則とした。

遺物実測図　S＝1：3を原則とした。

上記の以外の縮尺を使用したときは、その度毎に表示した。

4 遺構の略号は次を使用した。

住居跡　H　　竪穴状遺構　T　　掘立柱建物跡　K

土坑　D　　柱　穴　P

5 土層断面の土色名及び土器類の色調名は「新版標準土色帖」による。

目　　次

序　例言　凡例　目次　図版目次　写真図版

Ⅰ．調査の概要・遺跡の位置環境

1．調査に至る経緯と経過…… 2

2．調査の方法…… 3

3．遺跡の測量基準点とグリッドの設定…… 3

4．基本土層…… 4

例　　言

1　本書は、都市計画法第29条の規定する民間開発行為（宅地造成）に伴う埋蔵文化財発掘調査報告であります。

2　富士見村遺跡調査会組織

会　長	教育長	鈴木清茂	監　事	文化財調査委員	狩野直人
副会長	社会教育課長	品川良治		学校教育課長	青木鶴男
理　事	教育委員会委員長	関口光治	事務局員	社会教育課主任	羽鳥政彦
	文化財調査委員代表	柳井久雄			
	社会教育課係長	樺沢幹男			

3　発掘調査は富士見村教育委員会のもとに組織された富士見村遺跡調査会（会長鈴木清茂）の委託を受けスナガ環境測設株式会社（前橋市青柳町211―1　代表取締役須永眞弘）が実施した。

4　調査担当　新保一美　（スナガ環境測設株式会社）
　調査員　板垣　宏　（　　同　　）
　　同　　神津芳夫　（　　同　　）

5　遺跡名　組之木原遺跡

6　所在地　富士見村大字時沢1003番地外

7　期　　間　発掘調査　平成７年９月21日～平成７年12月21日
　　調査整理　平成７年12月22日～平成８年４月30日

8　調査面積　　A＝2,200㎡

9　出土遺物及び図面等の資料は、富士見村教育委員会が一括して保管する。

10　発掘調査の主な作業分担
　発掘調査は、富士見村遺跡調査会の指導のもとにスナガ環境測設株式会社で調査にあたり、調査・測量計画を須永眞弘（測量士第52614号）、調査の指揮を新保一美、調査・測量を板垣宏・神津芳夫・勝田貞幸、安全管理・外渉事務・遺構写真の撮影を神津芳夫、発掘建設機械運転を須永眞弘・金子正人・都丸保男、作業事務を須永豊・柴崎信江が担当した。

11　発掘調査に参加した方々
　石川サワ子、内山恵美子、山崎勘治、田子尚志、中野鶴市、小沼あき、新保勝太郎、新保松乃、飯島いし、斉藤まき子、大沢光子、高坂なみ、高坂やすの、関根時太、内田三郎、三俣光江、青木もとよ、登坂　正、川島　幹

12　本書は、富士見村遺跡調査会の指導のもとにスナガ環境測設株式会社が作成にあたり、第１章までの執筆を須永眞弘・第２章以下の執筆を新保一美が担当した。遺物の注記・復元を新保一美・神津芳夫・須永　豊・柴崎信江・田子尚志・都丸保男、遺物の実測・計測・拓本を

序

関東平野の北西に見事な裾野を敷いて聳える赤城山は、群馬県のほぼ中央に位置し、自然の風光に恵まれ、四季の変化に富み、榛名山、妙義山と伴に上毛三山の名山の一峰であります。

富士見村は、赤城山頂から南西麓にかけてを村域とし、その北部域は緑豊かな山林と赤城山頂に広がる自然豊かな景観の県立赤城公園であります。その南部域は養蚕・米麦・畜産・蔬菜などを主産とする純農村地帯も今、養蚕の低迷などもあり兼業農業化が進み、都市近郊農業への変容と隣接する県都前橋市のベットタウン化や人口増加など市街化が進んでいます。

富士見村では、中央公民館・老人福祉センター・総合グランドなど公共施設建設や都市計画区域を定めるなど、教育・文化・スポーツ・生涯学習など、農工商業の調和のある生活環境の整備拡充を進めているところであります。

赤城山南麓の緩傾斜地帯は、先土器時代の人々の生活を窺う遺跡が宮城村苗ケ島など各所から発見されています。

富士見村では、小暮地区所皆戸の県道（前橋・赤城線）工事現場などで先土器時代の石器が発見さるなど、縄文、弥生、古墳、歴史時代の古代遺跡・遺物の包蔵地や中・近世代の数多くの文化財を今に遺しています。

富士見村教育委員会では、近年、農村基盤総合整備事業の一環である圃場整備事業など公共の開発事業や都市計画法に規定する民間開発行為などによる宅地造成などの工事にさきがけ、数多くの埋蔵文化財発掘調査を進めています。

この組之木原遺跡は、民間開発行為の宅地造成工事にさきがけて、実施した埋蔵文化財発掘調査で、古墳・奈良・平安時代などの住居跡27軒、掘立柱建物跡２棟、土坑ピット65基、竪穴状遺構１基の遺構と縄文土器片、土師器、須恵器片、鉄製品、勾玉など多数の遺物を検出しています。富士見村の歴史に新たな事実を書き加えることができました。

最後に、発掘調査に御協力、御指導を頂きました関係諸機関、開発行為者の皆様、調査に携わった方々に衷心より感謝申し上げます。

平成８年４月

富士見村遺跡調査会

会長　鈴　木　清　茂

II　遺構と遺物

概　要

A区は、表土が20cm弱で遺存状態は悪いが、2軒の住居跡を検出した。C区は、旧地権者の話によると、桑の抜根処理をし、深掘りをしてそれを埋めたとのことであったが、撹乱にもかかわらず、6軒の住居跡を検出した。D区は、最も遺存度が高く、重複住居を含んで19軒の住居跡と2ケ所の角柱穴列等を検出した。この柱穴列は、調査区の北限近くに位置するために、列状のみの調査となったが、掘立柱建物跡と考えたい。

縄文時代の遺構については、C区とD区に若干の遺物散布がみられたため、テスト・ピットを設定して遺構・遺物の検出を試みたが、遺構の確認には至らなかった。

古墳時代については、C区とD区に6軒の住居跡が検出され、うち1軒はFAの純層堆積が認められる。

奈良・平安時代については、20軒の住居跡のほか1基の竪穴状遺構、2棟の掘立柱建物跡のほか、M—24グリッドに焼土の広がりがあり、薄手の甕の体部等をその基底から出土しているため、床面の検出は見ないものの、住居跡の可能性がある。

時期不明の遺構としては、8号住居跡と21号住居跡、それにF-17グリッドの焼土範囲がある。いずれも出土遺物に乏しくかつ小片であるため、年代決定の確証を得るに至らなかった。

1．縄文時代

表土除去の完了時点で、C区・D区に縄文時代の遺物片が散布していた。量的には多くはないが、念のためテスト・ピットを設定し、遺構・遺物の検出に努めた。

しかしながら、該期の遺構はまったく検出できず、遺構確認面での表採遺物と、後代の住居跡に流れ込んだと思われる若干の遺物が出土したのみであった。

これらを大別すると、竹管文系、平行沈線系、浮線文系、爪形文、ユニオン・ジャック状の対角線文、無文のもの、それに縄文施文のあるものである。

胎土に繊維を含むものや羽状縄文は見られず、縄文施文はRLを主とした小片が多い。諸磯b期に集中した遺物出土状況であると思われる。他に石器類と黒曜石片が数点出土している。

2．古墳時代

3号住居跡

N－18グリッドからO－18グリッドにかけて位置する。南北に通路があるため住居跡の1/3弱の調査である。方位はN－21°－W、調査範囲は東西2.2m南北3.7mで三角形状に3.1m²を掘り、深さ

は39cm床標高162.86mを測る。

床面は平坦で堅緻である。壁は直に立ち上がる。柱穴は認められないが、カマド右隅に、径65cm深さ23cmの方形の貯蔵穴を有する。貯蔵穴の脇、壁寄りには白色粘土が積み上げた状態で検出され、一部は床面検出時に貯蔵穴を覆う状態で散布しているのが確認されている。この粘土がカマドの補強材なのか土師器制作にかかわる材料なのかは、住居跡の部分的調査であったため判断できなかった。

カマドは東壁のやや南寄りに付設され壁内に燃焼部を持ち、それを囲む形で粘土による袖が形成される。煙道部へは緩やかに立ち上がり、壁外に延びる。方位N－86°－E、幅90cm長さ146cmを測る。

遺物は土師器で、口径の割に身部が浅く垂直に立ち上がる口縁の模倣坏と器肉の厚く大きな高坏のそれぞれ一部の他に甕の底部と鎌と思われる鉄製品が、また住居内北東隅の床面に放射状に並べられた6点の菰石が出土している。

5号住居跡

R－18・19グリッドからS－17・18・19グリッドにかけて位置する。方位はN－102°－Eで、東壁を残して掘削を受けているため、規模は遺物の出土状況からの推定値である。東西（4.3）m×南北3.5m、調査面積12.6m²でカマド前とカマド脇の壁面に一部白色粘土が散布していたため、床面レベルをこの高さとし、深さ37cm床標高162.35mを測る。形状は横長の方形であり、柱穴・貯蔵穴は検出されなかった。壁は開き気味に立ち上がっている。

カマドは東壁の北寄りに付設されるが、袖部は全く確認できなかった。燃焼部はほぼ壁ラインにその中程を置くことから、本来は住居内に袖を有したものと考えられる。恐らくはカマド脇壁面の白色粘土部分が延長して袖を形成したのであろう。幅50cm長さ103cm、主軸方位N－117°－Eを測る。

遺物はカマド前から床面密着で土師器甕の一部と模倣坏が出土しており、住居跡西寄りにこれと同レベルで甕の体部が出土している。他に須恵器大甕の体部や小片が出土した。

6号住居跡

T－18グリッドからU－17・18・19グリッド、さらにV－17・18グリッドに位置する。住居跡の西側部分を南北に近代の溝状遺構に切られ、その周辺を撹乱されている。方位はN－63°－Eで、東西6.7m×南北4.7m、調査面積25.9m²の方形を呈し、深さ56cm、床標高161.65mを測る。

床面は不明確であるが、僅かに残るカマド前の焼土と灰層からの推定である。床面には小礫が散見される。柱穴・貯蔵穴は確認されず、壁は直に立ち上がる。

カマドは北壁の東寄りに付設され、燃焼部から急激に立ち上がる形態である。壁面に残る焼土からの判断であるが、現状では煙道部の確認はできなかった。両袖と思われる部分に菰石状の石

が床面に密着して出土している。幅99cm長さ(56)cm、主軸方位N－25°－Wを測る。住居跡の規模・カマドの位置と形状からは、古墳時代の住居と思われる。

遺物は模倣坏を初めとする土師器の甕・坏、須恵器の坏・高台埦・蓋等の古墳時代から近代におよんで出土し、また床面近くから黒曜石の小片が出土している。量的には8世紀中葉の遺物がかなりの比重を占める。

7号住居跡

K－25・26、L－25・26グリッドからM－25・26グリッドにかけて位置する。北側に村道が走るため一部未調査となる。方位はN－48°－Eで東西 5.1m×南北4.7mのほぼ正方形を呈し、調査面積20.3m²、深さ24cm床標高163.55mを測る。

床面直上には、一面に炭化材と焼土が散乱し焼失住居であると思われる。柱穴は4基確認されたがP_1は径34cm深さ9cm、P_2は径39cm深さ9cm、P_3は径35cm深さ13cm、P_4は他のものより浅く小さい柱穴が2基並ぶ形態を取っている。径20cm深さ9cmのものと径19cm深さ7cmの2基を測る。

貯蔵穴はカマド右の北東隅に径76cm深さ13cmの擂鉢状に下がる形状で確認できたが、調査区外となるため完掘には至らなかった。壁はほぼ直に立ち上がり、床面はカマド前のみ堅緻であった。

カマドは地山の掘り残しに粘土を貼って袖を作り、燃焼部の中心が壁ラインにかかり、緩やかに立ち上がっているが、煙道部はこれも調査区外となるために確認できなかった。幅118cm長さ91cm、主軸方位N－32°－Wを測る。

遺物は緩やかに開く口縁を持つ土師器の模倣坏3点と、カマドから口縁が垂直に立ち上がる小型甕が1点、それと一対になる単孔の甑、さらに砥石1点が出土している。

26号住居跡

F－18グリッドからG－17・18グリッドを経てH－18グリッドにかけて位置する。北は13号住居跡と南東部は25号住居跡と重複するが、そのいずれよりも本跡の方が古い。方位はN－26°－Wで東西4.1m×南北4.9m、調査面積16.2m²で深さ42cm、床標高163.73mのやや縦長の方形を呈す。

床面は堅緻で、壁は直に立つ。柱穴は認められないが住居内の南東隅に径58cm深さ25cmの貯蔵穴状の掘り込みが認められる。

カマドは粘土で構築した袖部を住居内に持ち、小型の石を支脚とする典型的な古墳時代の形態を示すが、重複する25号住居跡の床面下にあるため、押しつぶされていた。幅96cm長さ164cm、主軸方位N－71°－Eを測る。

遺物は須恵器大甕の破片が主である。

27号住居跡

J－16・17グリッドからK－16・17グリッドを経てL－16・17グリッドにかかる。北側を竪穴

状遺構、南東部に芋穴状の遺構が重複するがいずれよりも本跡の方が古い。方位はN－13°－Eで東西4.7m×南北4.5m、調査面積17.0㎡、深さ40cm、床標高163.29mを測る方形の住居である。覆土にはFAの純層がレンズ状に堆積し、FA中にはサンドイッチ状に薄く小粒の軽石を挟み、FAの下層と上層にはFPに近似した粗粒の軽石が見られる。このことからFA降下時の火山活動の様子が窺い知れよう。

床面は堅緻であり、西壁は開き気味に立ち上がるが、他の3壁は直に立ち上がる。西壁の中央からやや南寄りには、一段の平坦な面を持つ掘り込みがあり、本跡と同時期の土器片が出土することから入口施設の可能性が考えられる。東壁を除く3方向に壁周溝が廻る。柱穴は3基確認され、北東隅の1基は竪穴状遺構によって掘り起こされたものと思われ、P_1径47cm深さ37cm、P_2は径27cm深さ46cm、P_3径42cm深さ14cmを測るしっかりした造りである。貯蔵穴は径48cm深さ33cmで上層に土器片が出土する。この貯蔵穴の南には壁に沿って東西に延びる長円形の掘り込みがある。平安時代の坏小片を出土するものの埋土は新しく、芋穴であると思われる。しかしながらこの穴の底部に径40cm深さ23cmのピットが確認された。住居跡の外部に当たるが、P_1・P_3の芯々間の延長線上と東壁の延長線上の交点に、この柱穴の芯を置くことから、住居跡と一体になる可能性があると思われる。

カマドは燃焼部を住居内に置き、長く引く袖を粘土で覆い、緩やかに立ち上がる部分から天井までを粘土で覆い、さらに緩やかに立ち上がる煙道の先端に丸く穴を開け、外部へと続く形態である。燃焼部には菰石状の支脚石が立つ。幅110cm長さ174cm、主軸方位N－97°－Eを測る。

遺物はカマドの本来の位置に甕の底部があり、手前側に散乱する状態で集中的に出土する。土師器の坏、埦、小型甕、甕破片、須恵器大甕破片等の他に西壁沿いで蛇紋岩製の精緻な勾玉を出土している。

3．奈良・平安時代

1号住居跡

O－7・8グリッドからP－7・8グリッドにかけて位置する。2号住居跡と重複し、本跡の方が古い。方位はN－8°－Eで東西3.4m×南北4.3m、調査面積11.6㎡で、深さ23cm、床標高162.47mを測る。南壁2.9mを最短とする台形状を呈する。

床面は平坦で堅緻である。壁は直に立ち上がる。柱穴・貯蔵穴は認められない。

カマドは東壁のやや南寄りに付設され、袖は地山を掘り残し、住居内に若干入り込む。燃焼部の殆んどが壁内に位置する。幅127cm長さ138cm、主軸方位N－93°－Eを測る。

遺物は破片のみで、土師器の甕と坏が出土している。甕は器肉が薄く、口縁が緩やかに外反し、底部はヘラによる削ぎ落としが見られる。坏は平底を呈し、緩やかに内湾する口縁を持つ。他に鎌と思われる鉄製品と小振りの菰石が出土している。

2号住居跡

Ｐ－７・８グリッドに位置し、１号住居跡と一部を重複する。本跡の方が新しい。撹乱を受けており本跡の西側部分は削り取られ、Ｂスコリアを含む埋土が本跡の一部を覆っていた。したがって計測値は調査範囲内での推定値である。方位はＮ－35°－Ｗ、東西2.4ｍ×南北2.7ｍのほぼ正方形を呈し、調査面積4.7㎡、深さ23㎝、床標高162.38ｍを測る。

貯蔵穴はカマドの反対側の北側隅にあり、径83㎝深さ36㎝を測るが、柱穴は検出されなかった。床面はカマド前のみ堅緻である。

カマドは東壁の南寄りに付設され、地山を掘り残した袖が低く住居内に入り込む。燃焼部は壁内に収まるが、貯蔵穴の確認面に比して、東壁際の床面が緩やかに上がっているので、あるいは東壁がやや西側に寄ることも想定される。いずれにしても撹乱のため明確な資料は得られなかった。カマドの幅は79㎝、長さ172㎝、主軸方位Ｎ－138°－Ｅを測る。

遺物は土師器の甕、坏と土師質の高台埦底部、灰釉片１点が出土している。

4号住居跡

Ｎ－20・21グリッドからＯ－20・21グリッドにかけて位置し、その東側と南側は大きく掘削された形跡が残る。方位はＮ－15°－Ｅで、規模は東西4.7ｍ×南北３ｍ、調査面積13.3㎡で深さ20㎝、床標高163.05ｍを測る。形状は縦長の方形で床面はカマド前のみ堅緻である。カマドの南側と南壁際を除いて三方に壁周溝が廻る。

カマドは東壁のやや南寄りに、地山を掘り残した袖が僅かに住居内に留る形で構築され、燃焼主体部は完全に壁外に置かれている。幅140㎝長さ134㎝、主軸方位Ｎ－100°－Ｅを測る。

遺物は小片のみで、土師器の甕と坏の一部、須恵器の坏、高台埦の底部、蓋の一部等が出土している。

9号住居跡

Ｆ－14・15グリッドからＧ－14・15グリッドにかけて位置する。住居跡の西壁部分は調査区外となるため未調査である。方位はＮ－９°－Ｅで東西（3.3）ｍ×南北5.2ｍ、調査面積13.7㎡の方形で深さ35㎝、床標高163.71ｍを測る。

床面は全面が堅緻であり、壁周溝が調査範囲内で全て確認されていることから、カマド部分を除いて一周するものと思われる。壁は直に立ち上がる。柱穴は対角線上にP_1が径45㎝深さ６㎝、南東隅にP_2が径36㎝深さ21㎝で確認されたが、貯蔵穴は確認できなかった。

カマドは東壁のやや南寄りに付設され、燃焼部を壁外に置き、比較的急に立ち上がって煙道部へと続く。灰かき穴は７㎝程の深さで明瞭な方形を呈する。幅73㎝長さ183㎝、主軸方位Ｎ－104°－Ｅを測る。

遺物の殆どはカマドよりの出土で、土師器の小型台付甕が２点、小型甕が２点出土する。

10号住居跡

H－14・15グリッドからI－13・14・15グリッドにかけて位置する。方位はN－8°－Eで東西4.1m×南北5.5mの縦長方形を呈し、調査面積19.0m²、深さ20cm、床標高163.55mを測る。

床面はカマド前を除いて比較的軟弱である。北西の隅には小礫が散見できる。貯蔵穴は検出できない。壁は直に立ち上がり北壁の東隅には入口施設と思える箇所があるが、外部の撹乱坑と一体になるため、断定できない。カマドの右側部分を除いて壁周溝が廻る。

カマドは東壁の南寄りに付設され、燃焼部を壁外に置き、緩やかに立ち上がって煙道部へと続く。幅75cm長さ130cm、主軸方位N－101°－Eを測る。

遺物は滑石製の、円を4個線刻した紡錘車が床面直上で出土し、須恵器の把手付高台埦と壷の頸部、回転ヘラ切りの土師質の坏の他に土師器の甕の一部、平底傾向の強い坏などが出土している。

11号住居跡

J－13・14グリッドからK－13・14グリッドに位置する。本住居跡の西側半分は調査区外に延びる。したがって規模・形状は調査範囲の計測値である。方位はN－13°－E、東西（2.4）m×南北5.6m調査面積11.6m²で、深さ38cm、床標高163.20mを測る方形の住居である。

床面は堅緻であり、カマド部分を除いて壁周溝が確認できることから、一周する壁周溝を持つと思われる。壁はほぼ直に立ち上がる。柱穴はP_1径60cm深さ58cm、P_2径39cm深さ14cmを確認している。貯蔵穴は検出されない。

カマドは地山を掘り残して、僅かに住居内に入り込む袖を作り、燃焼部の中程を壁ラインに置き、急に立ち上がって煙道部へと続く。幅132cm長さ126cm、主軸方位N－101°－Eを測る。

遺物は薄手の器肉を持つ土師器甕の、口縁から体部にかけてと口径が大きく、口縁を開く丸胴の甕などが、カマドより出土している。

12号住居跡

K－14・15・16グリッドとL－14・15・16グリッドからM－15グリッドにかけて位置する。方位はN－10°－Eで、東西5.2m×南北6.8m、調査面積29.2m²で、深さ32cm、床標高163.17mを測る縦長の方形である。

床面は平坦で全面堅緻である。壁周溝がカマド前を除いて全周する。壁は直に立ち上がる。主柱穴は4基確認され、P_1径50cm深さ63cm、P_2径67cm深さ73cm、P_3径63cm深さ75cm、P_4径100cm、深さ54cmと、いずれも深くてしっかりした柱穴である。貯蔵穴はカマド右、住居の南東隅にあり、径67cm深さ33cmを測る。

カマドは東壁の南寄りに付設され、僅かに地山を掘り残した袖が住居内に留まる。燃焼部は壁ラインにその中央を置く、やや急に立ち上がって緩やかに煙道部へと上がる構造である。幅123cm

長さ168cm、主軸方位N－101°－Eを測る。

遺物は土師器甕の口縁、坏の口縁、須恵器の坏、蓋、瓶の口縁、砥石、鉄製品等が出土し、貯蔵穴からは土師器片がP_1、P_2からは土師器坏の口縁から底部にかけての破片が出土している。

13号住居跡

E－18・19グリッド、F－18・19グリッドからG－18グリッドにかけて位置する。北壁を調査区境に置き、南壁の一部は26号住居跡と重複するが、本跡の方が新しい。方位はN－15°－Eで東西3.8m×南北4.2m、調査面積13.1㎡、深さ22cm、床標高164.09mを測る方形の住居である。

床面は軟弱で壁は直に立ち上がる。柱穴は4基確認されP_1径26cm深さ21cm、P_2径53cm深さ29cm、P_3径49cm深さ14cm、P_4径56cm深さ15cmを測る。貯蔵穴はカマド右の南東隅に付設され、径71cm深さ18cmの三連の形態となる。西壁際の柱穴が住居隅に位置していることから、貯蔵穴とした三連のうちの隅際の一つは柱穴となる可能性も残している。北東隅の一基は隅をはずして置かれているが、入口施設等との関連も考えられる。

カマドは東壁の南寄りに付設され、砂質凝灰岩の截り石を使用して袖から壁面に至る燃焼主体部を補強して構築され、主軸をやや南に振っている。袖は住居内に入り込み燃焼部は壁ラインに中央を置く。幅120cm長さ140cm、主軸方位N－114°－Eを測る。

遺物はカマドと貯蔵穴を中心に土師器の小型台付甕や甕の体部、内外共に黒色の須恵器の坏等が出土している。

14号住居跡

H－17・18・19グリッドとI－17・18・19グリッドからJ－17・18・19グリッドにかけて位置する。表土掘削時に既に床面が露呈しておりサブ・トレンチによる確認後、焼土と炭化粒の散布範囲を示標として住居範囲とした。したがって計測値は推定である。方位はN－2°－Eで東西4.7m×南北5.5mの方形の住居であり、床標高164.03mを測る。柱穴・貯蔵穴は確認できなかった。

カマドは燃焼主体部の底部と灰かき穴が確認されたのみである。地山を掘り残した右袖の痕跡が壁内に残るが左袖は残っていない。規模は幅125cm長さ127cm、主軸方位N－90°－Eを測る。

遺物はカマド内より土師器の小型甕口縁と坏の小片、また器肉が厚く糸切り後に高台を貼付し、接合部を回転ヘラにより調整した須恵器高台埦の底部が出土している。

15号住居跡

H－19・20グリッドとI－19・20グリッドに位置する。主軸方位N－18°－E、東西4m×南北5.4m、調査面積17.0㎡、深さ26cm、床標高163.93mを測る。南壁2.7mがすぼまる縦長の台形を呈する。床面は堅緻で壁は直に立ち上がる。柱穴は6基検出され、P_1径35cm深さ11cm、P_2径34cm深さ11cm、P_3径35cm深さ9cm、P_4径32cm深さ12cm、P_5径34cm深さ21cm、P_6径30cm深さ13cmを測

る。カマド前を除いて壁周溝が全周する。東壁の北端にはなだらかな勾配を持つ掘り込みがあり、住居部分と覆土を一にし、この部分の柱穴が北壁際に押しやられるかのように付設されていることから、入口施設に関わるものと考えられる。また住居外のカマド右に径43cm深さ23cmのピットが検出されている。

カマドは東壁のやや南寄りに付設され、地山を掘り残した袖が僅かに残り、左袖は壁面とする。燃焼部は壁外に置かれ緩やかに立ち上がって煙道部へと続く。灰かき穴が床を削るように住居内に及んでいる。幅93cm長さ170cm、主軸方位N－108°－Eを測る。

遺物は回転糸切りの痕を残す須恵器の坏2点、土師器では平底の坏数点と口縁部から体部にかけての甕等が出土している。他にFPを利用して作った紡錘車がある。また住居外のピットからは須恵器の足高高台を持つ大振りの埦と土師器の平底を呈する坏が出土している。

16号住居跡

J－19・20グリッドからK－19・20グリッドにかけて位置する。17号住居跡の内側に構築され、本跡の方が17号住居跡より新しい。方位はN－16°－Eで東西2.9m×南北3.1m、調査面積6.9㎡で深さ33cm、床標高163.44mを測り、ほぼ正方形を呈する。床面は軟弱であり、17号住居跡より数cm低い。壁は直に立ち上がる。柱穴・貯蔵穴は認められない。

カマドは東壁の南寄りに付設され、主体部を石で組み、平板上の安山岩で支脚を構成している。燃焼部は壁外に置き、一段高く水平に延びる煙道部を構成する。幅108cm長さ99cm主軸方位N－117°－Eを測る。カマド右の南壁際には方形で平坦な面を持つ安山岩の台石が据えられていた。

遺物は回転糸切りの痕を残す須恵器の坏と糸切り後ヘラ調整を施す高台埦、土師質で回転糸切り後高台貼付、底部ヘラ調整を施す高台埦（高台部欠損）と土師器の小型甕口縁部が出土している。

17号住居跡

I－19・20グリッドとJ－19・20グリッドからK－19・20グリッドにかけて位置し、内部に16号住居跡を含む。本跡の方が16号住居跡より古い。北壁沿いに耕作用トレンチャーによる撹乱が壁を抜いて走る。方位はN－5°－Eで東西6.1m×南北6.5m、調査面積34.4㎡で深さ32cm、床標高163.61mを測る。

床面はカマド前のみ堅緻であり、壁周溝が東壁の南端と西壁のやや北寄り、およびカマド前を残してほぼ全周する。壁は直に立ち上がる。柱穴は4基確認され、P_1径42cm深さ9cm、P_2径47cm深さ12cm、P_3径48cm深さ14cm、P_4径49cm深さ23cmを測る。P_3については16号住居跡によりその本来の形状を損なわれた可能性も考えられる。貯蔵穴は認めれれないが、その想定される位置から円形と方形の2基の台石が並べて据えられている。

カマドは東壁のやや南寄りに付設され、両袖が住居内に入り込むが、燃焼部は完全に壁外に置

かれ、緩やかに煙道部へと続く。大きく残されたカマドの割には、焼土の残りは少なかった。幅114cm長さ173cm、主軸方位N－87°－Eを測る。

遺物は回転糸切り後回転ヘラ調整の施された須恵器の坏、P_3内から回転糸切り後高台貼付、底部ヘラ調整の埦(高台部欠損)、土師器では底部を鋭利に削り落とす甕の底部、平底の坏2点などが出土している。

18号住居跡

F－21・22グリッドからG－21・22グリッドにかけて位置する。北壁は調査区外となり、南側は19号住居跡と重複する。本跡の方が19号住居跡より古い。耕作用トレンチャーの跡が南北に2条走り、床面下に及んで大量のビニルが埋まっていた。方位はN－5°－Eで東西3.4m×南北4.7m調査面積13.6㎡で、深さ21cm、床標高164.20mを測る縦長の方形である。床面は軟弱で壁は直に立ち上がる。西壁の北寄りには入口施設状の傾斜面を持つ。柱穴は認められないがカマド右、住居跡の南東隅に径76cm深さ33cmの貯蔵穴を持つ。

カマドは東壁のやや南寄りに付設され燃焼部は壁外に置かれ、主体部の左寄りに安山岩の支脚が置かれていた。灰かき穴はほぼ方形で壁内に床面を削って存在する。燃焼部から緩やかに立ち上がって煙道部へと続く。幅99cm長さ114cm、主軸方位N－101°－Eを測る。

遺物は土師器の甕体部、小型甕の口縁部、須恵器の底部ヘラ調整が施された高台埦2点の他、埋土中より単孔の甑片や口端部に下垂した鍔を持つ羽釜片が出土している。

19号住居跡

G－21・22グリッドからH－21・22グリッドにかけて位置する。北側は18号住居跡、南側の大半が20号住居跡と重複する。そのいずれも本跡よりも古い。方位N－5°－Eで東西3.2m×南北4mの主軸を最長とする台形で、調査面積10.0㎡、深さ37cm、床標高164.05mを測る。

床面は北側を除いて堅緻で、20号住居跡と同レベルにあり、壁は直に立ち上がる。西壁から南壁の一部にかけてL字状に壁周溝が廻る。柱穴は認められないが、カマド右、住居の南東隅に径65cm深さ23cmの貯蔵穴がある。

カマドは主体部を石材によって補強し、燃焼部を壁外に置き、先端部を直に立ち上げている。主体部の手前には黒色の炭化物が広がり、16号住居跡のカマドと同様灰かき穴は存在しない。カマドの規模は幅120cm長さ121cm、主軸方位N－93°－Eを測る。

遺物は須恵器高台埦の他に土師器の甕および小型甕が出土している。

20号住居跡

G－21・22グリッドからH－21・22グリッドにかけて位置する。北側の約半分を19号住居跡と重複する。本跡の方が古い。方位はN－3°－Wで東西4.0m×南北4.1m、調査面積16.6㎡で深さ

30cm、床標高163.99mを測る。西壁を最長とする変形した方形である。床面は19号住居跡と同レベルで堅緻な面を持つ。東壁の北側と西壁の南側から南壁にかけてL字状に二ケ所の壁周溝を確認する。柱穴はP_1径37cm深さ35cm、P_2径36cm深さ35cm、P_3は径43cm深さ20cm、P_4は径38cm深さ53cmで4基確認され、いずれも中心をほぼ壁ラインに置き、丁寧にローム地山を掘り込んだ、いわゆる壁柱穴である。P_1には底部に根石が置かれている。貯蔵穴はカマド右、住居の南東隅に位置し、径63cm深さ39cmを測り、ほぼ正方形をなしている。

カマドは東壁のやや南寄りに付設され、燃焼部を壁外に置き緩やかな傾斜で煙道部へ上がる。この傾斜の中程に、手前に傾いて平板状の安山岩が位置する。これは天井補強用の石と考えられる。規模は幅85cm長さ136cm、主軸方位N－91°－Eを測る。灰かき穴には黒色炭化粒が堆積している。

遺物はカマド内から須恵器甕の体部、土師質の蓋、土師器の甕片、平底の坏が、住居内からは須恵器で糸切り未調整の坏、回転ヘラ切りの坏底部、底部ヘラ調整の高台埦(高台欠損)、土師質では糸切り未調整の坏、ヘラ調整の高台埦底部、糸切り未調整の高台埦(高台欠損)、土師器では平底の坏を主とした多くの坏片と、貯蔵穴底部から須恵器埦と土師器小型台付甕の一部、また、上層部からは墨書土器を出土している。

22号住居跡

G－23•24グリッドからH－23•24グリッドにかけて位置する。方位はN－15°－Eで東西3m×南北4m、調査面積8.0㎡で、深さ42cm、床標高163.98mの縦長の方形である。

床面はカマド前のみ堅緻であり、僅かな起伏がある。北西の隅は砂質土で小礫が露呈している。壁は緩やかに開いて立ち上がり、南壁の西際は張り出し状に地山を掘り残している。カマドの左手から西壁の殆どにかけての3方を壁周溝が廻る。柱穴は北東隅にP_1径33cm深さ28cmと南壁の西寄りにP_2径40cm深さ26cmが認められる。貯蔵穴はカマド右から南壁にまで達し、長軸126cm短軸70cm深さ18cmを測る。住居規模と貯蔵穴の割合、さらに土器量からすると、あるいはカマド屋的な施設とも考えられる。

カマドは東壁のやや南寄りに付設され、燃焼部は壁内に置かれる。地山を掘り残した部分に粘土を貼り、しっかりと補強された袖が住居内に入り込む。燃焼部先端の左右には石が据えられ、その位置から緩やかに立ち上がっている。幅115cm、長さ163cm、主軸方位N－98°－Eを測る。

遺物は灰釉の皿、長頸壷の一部、高台埦の口縁部、須恵器甕の体部、回転糸切りの坏、底部切り離し後胎土を重ねてヘラ調整をした坏、土師質高台埦、土師器甕3個体分と砥石2点を出土する。さらにP_2の中段からは内面に「中」のヘラ書きされた土師質の高台埦が出土している。

23号住居跡

J－22・23グリッドからK－22・23グリッドにかけて位置する。住居跡の南東隅は村道が走る

ため未調査となる。方位はN－20°－Eで東西3.9m×南北4m、調査面積10.8㎡、深さ24cm、床標高163.75mを測り方形を呈する。床面は軟弱で壁は直に立ち上がる。カマド左から西壁一面にかけて逆L字状に壁周溝が廻る。柱穴・貯蔵穴は認められない。

カマドは北壁のやや東寄りに付設され、壁面から外に延びる。燃焼部は壁外に置かれ、手前に明確な灰かき穴を持つ。焼土に乏しく、砂質土の面で底部を検出した。燃焼部から急な立ち上がりを示す。幅110cm長さ141cm、主軸方位N－26°－Eを測る。

遺物は灰釉片、須恵器坏、土師質坏、土師器甕、坏等の破片が出土している。

24号住居跡

G－24・25グリッドからH－24・25グリッドにかけて位置する。東側に村道が走るため、住居跡の西壁際のみの調査となった。方位はN－16°－Eで東西0.8m×南北4.5m、調査面積2.5㎡で深さ28cm、床標高164.19mを測る。床面は比較的堅く、壁は直に立ち上がる。壁際には壁周溝が廻る。柱穴は確認できなかった。

遺物は須恵器坏と土師器坏2点のいずれも破片である。

25号住居跡

G－18・19グリッドからH－18・19グリッドにかけて位置する。26号住居跡と本跡の北西部を重複する。本跡の方が新しい。方位はN－11°－Eで東西3.7m×南北4.2m、調査面積12.5㎡の方形で深さ32cm、床標高163.80mを測る。西壁際は投棄されたような状態で石が散乱していた。床面は軟弱で壁は直に立ち上がる。東壁のカマド左には壁周溝が確認されたが、その他の壁際には確認されなかった。柱穴は認められないが、カマド右には浅い貯蔵穴、径57cm深さ30cmが付設される。

カマドは東壁の南寄りに付設され、燃焼部は壁内に置く。右袖は地山を掘り残して住居内に入り込む、燃焼部からは緩やかに立ち上がる。カマド内には安山岩が散乱する。幅95cm長さ121cm、主軸方位N－106°－Eを測る。

遺物は須恵器の糸切り未調整の坏、ヘラ調整の高台埦、土師質の高台埦、土師器では平底の坏、甕、小型台付甕の底部2個体分の他、灰釉陶器（坏）等が出土している。また、土錘5点が出土している。

竪穴状遺構

J－16・17グリッドからK－16・17グリッドにかけて位置する。26号住居跡の北東隅を切り本跡のほうが新しい。不整円形を呈し、内部に3基の床下土坑状の掘り込みを持つ。

埋土中からは土師器甕と小型台付甕の底部、平底の坏片、須恵器糸切り未調整の高台埦などの平安時代の特徴を示す土器片が出土する。土器捨て場にしては遺物量が少なく、住居跡に比すと

出土量が多い感がある。住居を作るための掘り方だったのかどうかも不明である。渇水期にもかかわらず底部には僅かの湧水がある。

掘立柱建物跡

1号掘立柱建物跡

F－16グリッドからF－17グリッドを経てF－18グリッドにかけて位置する。東西6.75m方位N－89°－Wで、北側は、調査区外となるため、最南端の一列4基が確認されたのみで、いずれもいわゆる角柱穴である。東端の一基は13号住居跡と重複するが、本跡の方が古い。P_1東西77cm×南北67cm深さ52cm。P_2東西66cm×南北69cm深さ51cm。P_3東西52cm×南北59cm深さ68cm。P_4東西60cm×南北56cm深さ38cmで、P_4は13号住居跡の床面からの深さである。柱間は芯々間で220cmあり、等間隔となる。この列以南に10基余りのピットが存在するが、位置・形状から直接本遺構と関わる可能性のあるものは認められない。P_1からは真間期の甕の口縁部の破片、甕体部の破片P_3からは真間期の甕頸部の破片、器肉の薄い甕の底部の破片、坏片が出土しP_4からは国分期の甕、頸部片が出土するが、これは13号住居跡からの流れ込みとも思える。

形状等については、東西3間が言えるのみで、残念ながら言及することはできない。本跡の東方には小型の柱列が確認できることから、奈良時代に於ては、北側の調査区外に掘立柱建物の倉庫群のような建物が並ぶ可能性も考えられる。

2号掘立柱建物跡

F－20グリッドに位置する。北側は調査区外となるため、柱穴列3基が確認されたのみである。いずれもいわゆる角柱穴で、方位N－74°－W、東西3.4mであり、P_1東西46cm×南北48cm深さ25cm、P_2東西53cm×南北48cm深さ33cm、P_3東西50cm×南北57cm深さ35cmで柱間は芯々間で125cmを測る。

P_2からは真間期の土師器甕の頸部小片が出土している。

時期不明遺構

8号住居跡

R－19・20グリッドからS－19・20グリッドにかけて位置する。住居跡の東側は大きく撹乱され、木根が埋められていた。埋土中には土師器・須恵器の破片が散乱しており、その上部を二次堆積のBスコリアが一面に覆っていた。本跡はテスト・ピットの掘り下げ中に西壁の一部が検出されたもので三角形状に残る床面と北壁の一部からの推定値であるが、方位はN－56°－E、東西(3.3)m×南北 3.2m確認面積2.1m²で深さ43cm、床標高162.35mを測る。

埋土は2％程のBPを含む黒灰褐色の中締中粘細砂の一層である。床面はやや堅い。壁は直に立ち上がる。柱穴・貯蔵穴・カマドは一切検出されなかった。

遺物も流れ込み以外は出土しない。

21号住居跡

F－23・24グリッドからG－23・24グリッドにかけて位置する。北側は調査区外でカマド前面を大きく撹乱されている。方位N－10°－Eで東西2.7m×南北(1.1)m、調査面積2.6m²で深さ18cm、床標高164.39mを測る。形状は方形を呈すると思われる。

床面は軟弱で壁は開き気味に立ち、柱穴・貯蔵穴は認められない。

カマドも掘り方側面が残る程度で、焼土粒を含む土を除去し、砂の面で底部をとらえている。位置は南壁の東寄りにあり、主軸を東に振った方形を呈す。袖部分は撹乱のため確認できない。方位N－156°－E、幅48cm長さ52cmを測る。

遺物はカマド右の壁面に近いところから須恵器大甕の体部とカマド内から内外ともにヘラ磨きのされた硬質の土師片が出土したのみである。

III　ま と め

本遺跡地には少量の縄文土器片が散布するため、縄文遺構と先土器時代の遺物の確認のため、すでに検出されている遺構の外にテスト・ピットを掘り繋ぐ調査を試みた。しかしながら遺構も遺物も検出できず、結果的にC区・D区の範囲で、かつて台地を開析したであろう旧河川の存在が確認できたのみであった。

河床は礫によって構成され、礫上端による斜度は、D区内のG－17グリッドとG－23グリッド間で34.5/1000、D区G－23グリッドとC区M－23グリッドの間に於いては48/1000を測り、それぞれ1m西へ行く毎に3.5cm下がり、1m南へ行く毎に約5cm下がる地形を示していた。河道は23ラインから8m西へ行くと礫床レベルが上がっていることから、2条の南下流路をとるものと思われ、蛇行による変流と考えることができる。これが舌状台地等の微地形形成の一助をなしたものと思われる。さらに水流を止めた時点でロームを覆ぶり、遺構確認面となる台地を形成したものであろう。

古墳時代については、いずれも模倣杯を伴出しているが、その形態には僅かな差異が生じていることから、時期を分けて考えるべきであろう。したがって同一集落を形成したのではなく、まばらに住居が点在したものと思われる。うち1軒についてはFAの純層により埋土されているが、他の住居跡にはそれが見られないことからも、このことが知れよう。

27号住居跡は前述の如く良好なFAを堆積している。FA火山灰の間には小粒の軽石が挟まれ、灰層の直上直下には粗粒の軽石を含んでいる。これらの覆土の在り様から、FA噴出期の火山活動の様子を窺い知ることのできる好資料を得ることができた。

この住居跡のカマドは、粘土によって構築され、カマボコ状の典型的な古墳期の形態を示し、遺物もカマド上やその手前から土器類が数多く出土し、西壁際の床面からは、蛇紋岩製とみられる勾玉を出土している。

3号住居跡からは多量の白色粘土と放射状にならぶ菰石が検出されているが、住居跡の全貌がつかめぬため、いずれもその用途・目的についての判断材料に欠けている。

7号住居跡はいわゆる焼失住居であり、カマド内より、小型の甕と単孔の甑が一対として出土している。

奈良・平安時代については、D区の全域に遺構が密集し、さらに該区の北側および西側に集落が広がる可能性が高い。

構造的にみると、10号住居跡と15号住居跡、さらに18号住居跡のほか、古墳時代の27号住居跡の壁面には、位置はそれぞれ異なるものの、スロープ状の掘り込みが見られ、あるいは入口施設的な構造の可能性をもっている。但し床面はそう堅くなく、18号住居跡を除いて3軒ともその前面には壁周溝が存在する。壁周溝の形態とその意図するところを併せ考えて、今後の解明を待つものである。

12号住居跡には深いしっかりした主柱穴が4基あり、上屋構造の堅牢さを思わせ、20号住居跡には、深くはないがしっかりと壁面に掘られた、いわゆる壁柱穴が4基検出されている。

カマドでは、16号住居跡と19号住居跡の、いずれも重複する住居内に築かれたものが、石組み構造であり、16号住居跡に於ては天井部の補強に、19号住居跡に於ては燃焼部外縁の補強に石が使われている。

19号住居跡のカマドと同様の形態に13号住居跡と25号住居跡のカマドがあり、この2基については砂質凝灰岩の截り石が使用されている。

22号住居跡は、小規模ながら大量の土器等を出土している。また、住居跡の南東隅はローム地山が住居内に張り出すように掘り残されている。さらに床面積の割りに大きな貯蔵穴と、しっかりしたカマドの様相から、居住空間と考えるよりも、むしろカマド屋と考える方が妥当と思われる。

遺物では、10号住居跡出土の紡錘車が、滑石を丁寧に加工し、上面に計4個の二重円が1対3に刻まれている。それぞれの芯円は貫通していない。同じ文様のものが、S．57　桧峯遺跡とS．62　天神遺跡（いずれも前橋市教育委員会）の両遺跡から出土している。前者は「三叉錐痕？」とし、軸円を交点とした十文字に配列され。後者は「円形刻線」として側面に2個並んでいる。撚糸についての知識はないが、あたかも糸の道筋を暗示する感がある。斯道のご教示を得られれば幸いである。

この住居跡からは、須恵器の把手付高台埦（把手部欠損）と長頸壷の口縁部が出土している。高台埦の内面口端部には黒色吸炭部があり、灯明具として利用された可能性が高い。長頸壷の内面には、タールが付着しており、油壷として利用されたものであれば、紡錘車を含む三点の間か

ら、製糸に関わる生活の一端が窺われる。

また、15号住居跡からは、FP軽石を利用した紡錘車が出土し、重量調整のためか、背が高く大振りの形をしている。

20号住居跡の貯蔵穴からは、文字は判読できないが、△形の内部に一文字記されている。△形の中に一字を入れる例は、伊勢崎市の上植木光仙房遺跡等に類例を見ることができる。

22号住居跡の P_2 中段からは内面に「中」とヘラ書きされた土師質の高台埦が出土している。

25号住居跡からは、土錘が出土しており、この区域で漁労も行われていたことが窺える。

K－1、K－2の2棟の掘立柱建物跡については、南端一列のみの検出であり、多くを語ることはできない。隣接区の調査が可能となることを望むものである。

今回の調査では、D区に最も密集して住居跡が存在するが、管見による時代区分では、9世紀前半の土地利用が著しく、D区外縁部に沿って9・10・12・23・24号住居跡が大きな弧状に配列し、中央部を広場的に無使用空間としている。また10世紀前半にも半径を前記の半分にとった円弧状に14・16・22・18・25号住居跡が、同様に中央部を空間として存在させる傾向が見られる。集落ととらえるには調査面積が不足であるが、集落の中の一構成単位としてとらえることは可能であろう。その他の時期については、点在するのみで規格性は見いだせなかった。したがって、現状で見るような密集状態があったのではなく、時点時点において適切な空間が利用されていたことが判明する。

参考文献；群馬の考古学　群馬県埋蔵文化財調査事業団
芳賀団地遺跡群　第2巻　前橋市教育委員会
桧峯遺跡　前橋市教育委員会
天神遺跡　前橋市教育委員会

出土遺物観察表

注：法量は①口径②底径③胴部最大径④頸部径⑤裾部径⑥器高⑦長さ⑧幅⑨厚み⑩穿孔をcmで⑪重量をgで表し、（ ）は推定値を示す。

番号	出土位置	器形(種)	法　量	①胎土②焼成③色調④残存	器形・製作技法の特徴
1	H－1 カマド	坏(土師)	①(12.2) ⑥(2.7)	①密 輝石・軽石・黒雲母 ②良好③橙5YR6/6④1/4	平底気味から丸やかに内湾する体部と口縁。外面口縁部横ナデ、体部ヘラ削り。内面横ナデ。
2	H－2 カマド	高台付埦 (土師質)	②6.4⑥(2.3)	①密 輝石・頁岩・絹雲母 ②良③浅黄2.5Y7/3④1/3	器肉の厚い、ずんぐりとした形。外面右回転ロクロ整形、底部回転糸切り後高台貼付。接合部手持ちヘラ調整。
3	H－3 カマド	坏(土師)	①(12.6)②9.1 ⑥4.9	①稠密 黒雲母・頁岩を含む ②良好③橙2.5YR7/6 ④1/2	緩やかな稜を持ち、立ち上がりをわずかに締めて浅く開く口縁。外面口縁部横ナデ、底部ヘラ削り。内面口縁部横ナデ、底部ヘラナデ外面黒色吸炭、内面暗灰褐色吸炭部あり。
4	H－3 カマド	小型甕 (土師)	①13.5②6.4 ③15.2⑥13.8	①密 黒雲母・軽石を含む ②良好③にぶい橙色7.5YR7/4④70%	球形に近い体部から垂直に立ち上がる口縁。外面口縁部横ナデ体部斜位のヘラ削り、底部手持ヘラ削り。内面ヘラナデ、口縁部横ナデ外面のほとんどを黒褐色に吸炭、一部赤く焼ける。内面も同様。
5	H－4	坏(土師)	①(12.6) ⑥(3.7)	①密 輝石・雲母・軽石 ②良好③橙5YR6/6④1/4	平底傾向。底部外縁は接地せず。外面口縁部横ナデ、体部底部ヘラ削り。内面横ナデ。
6	H－4	坏(須恵)	①(12.2) ②(7.4)⑥3.1	①稠密 輝石・軽石②良好 ③灰白7.5Y7/1④1/3弱	上げ底。直線的な体部。外面左回転ロクロ整形、底部回転糸切り無調整。内面ロクロ水挽き。
7	H－4	高台付埦 (須恵)	②(7.5)⑥(2.5)	①稠密 輝石・軽石・頁岩 ②良好③灰白7.5Y7/1 ④1/4	整った高台部。外面右回転ロクロ整形、底部回転糸切り後高台貼付接合部回転ヘラ調整、底面ヘラナデ。
8	H－4	石斧 (短冊形)	⑦10.9⑧3.8 ⑨1.1⑪68.50	③灰10Y6/1	先端部剝離。チャート。流れ込み。
9	H－5	坏(土師)	①(12.2) ②(9.8)⑥(3.9)	①稠密 輝石・頁岩②良好 ③橙5YR7/6④30%	口縁中程から口端部を外反。外面口縁部横ナデ、底部ヘラ削り。内面横ナデ。器肌が滑らか。
10	H－5	甕(土師)	②7.2	①密 輝石・黒雲母・頁岩 ②良③橙7.5YR6/6	外面体部ヘラ削り、部分的にヘラナデ。内面ヘラナデ。内外に僅かな二次焼成痕あり。
11	H－6	坏(土師)	①(11.6)②(10.0)⑥(3.4)	①稠密 輝石・頁岩②良好 ③橙5YR7/8④10%	体部を直線的に開き、器肉の薄い底部を持つ。外面口縁部横ナデ、体部ヘラ削り。内面横ナデ。器肌が滑らか。
12	H－6	甕(土師)	①(24.4)	①密 黒雲母・輝石・石英・ 頁岩・長石②良好③にぶい 橙5YR6/4	肉厚で丸味を帯びる体部。外面口縁部横ナデ、体部ヘラ削り、内面口縁部横ナデ、体部ヘラナデ。内外面に二次焼成による黒色吸炭あり。
13	H－7 カマド	小型甕 (土師)	①9.5③12.2 ⑥8.8	①密 黒雲母・軽石・硬質頁 岩を含む②良③橙2.5YR6/ 6④完形	半球状の体部から緩やかな稜を持ち、内傾して立ち上がる口縁を持つ。外面口縁部横ナデ、体部ヘラ削り後ヘラ研磨。器肌が荒れる。内面口縁部横ナデ体部ヘラ研磨。口縁下部にヘラの当った痕跡が垂直に付く。底面から体側の一部黒色吸炭、内面は体部一面に煤付着
14	H－7 カマド	甑(土師)	①16.5⑥9.6 ⑩1.2	①稠密 黒雲母・軽石・粗礫 を含む②良好③橙2.5YR7/6 ④ほぼ完形	単孔で緩やかに開き弱い稜を持って開き気味に立ち上がる口縁。外面口縁部横ナデ、体部ヘラ削り。内面口縁部横ナデ、体部ヘラナデ13の小型甕とセット。
15	H－7 カマド	坏(土師)	①12.2②10.8⑥ 3.3	①密 黒雲母・軽石・頁岩 ②良好③褐灰5YR7/6 ④完形	浅い身部に明瞭な稜を付け緩く外反する口縁部を持つ。外面口縁部横ナデ、身部ヘラ削り、一部ヘラ研磨。内面口縁部横ナデ、底面ヘラナデ。部分的にヘラ研磨。
16	H－7 カマド	坏(土師)	①12.2②10.4 ⑥3.3	①密 軽石・頁岩・黒雲母② 良③にぶい黄橙10YR6/3 ④3/4	浅い身部から僅かに稜を作り、緩やかに外反する口縁を持つ。体部中程に沈線を周らし二段有稜とする。外面口縁部横ナデ、体部ヘラ削り。内面口縁部横ナデ、底部もナデ。外面底部黒色吸炭、内面過半も吸炭。
17	H－7	坏(土師)	①10.4⑥3.8	①稠密 黒雲母・軽石・長石 ②良好③にぶい橙7.5YR7/ 4④完形	小振りで丸い稜を持ち立ち上がりを開き、中程から直に立ち上げる二段有稜的。外面口縁部横ナデ、身部ヘラ削り。内面口縁部横ナデ身部ヘラナデ。外面底部と内面底部の70%に黒色吸炭。
18	H－7	砥石	⑧5.4⑨(8.7)⑪295		刃を立てて研いだと思われる痕跡あり。
19	H－7	石鏃	⑦1.8⑨0.25⑪0.39		黒曜石。無茎石鏃。
20	H－9 カマド	台付甕 (土師)	①(12.7)③15.5 ⑥(17.2)	①密 黒雲母・輝石・軽石 ②良好③橙5YR6/6④2/3	体部上半に最大径を持つ丸みを帯びた器形。外面口縁部横ナデ、脚部横ナデ、体部ヘラ削り。内面口縁部横ナデ、体部と脚部ヘラナデ器肌が荒れる。体内外に二次焼成痕（黒灰色）あり。
21	H－9 カマド	甕(土師)	①(12.0)②3.7 ③(15.3)④11.4 ⑥14.2	①密 輝石・黒雲母②良 ③橙7.5YR6/6④1/2	肩部に最大径を持つ丸味のある器形。僅かに底部をつくる。外面口縁部横ナデ、体部・底部ヘラ削り。内面口縁部横ナデ、体部ヘラナデ。体表部と内部底面に黒色吸炭あり。
22	H－9	甕(土師)	①(18.8) ③(22.2) ⑥(13.0)	①密 黒雲母・軽石②良 ③にぶい赤褐2.5YR5/4 ④1/5弱	体部中央に最大径をおく。外面口縁部横ナデ、体部ヘラ削り。内面口縁部横ナデ、体部ヘラナデ。体表に黒色二次吸炭あり。
23	H－10	長頸壺頸部 (須恵)	④4.4	①密 輝石・頁岩②良好③灰 7.5YR6/1④頸部の80%	右回転ロクロ整形、回転ヘラ切り。自然釉。内面3カ所にタール付着。
24	H－10	把手付高 台埦（須 恵）	①11.0②7.6 ⑥4.7	①密 輝石・軽石②良好 ③灰7.5YR6/1④50%弱	端正な高台埦に角棒状の把手痕が付く。外面左回転ロクロ整形、底部回転糸切り後高台貼付、接合部と底面回転ヘラ調整内面ロクロ水挽き。把手から80°程の口端内面に黒色吸炭があることから灯明用具と思われる。
25	H－10	坏 (土師質)	①10.8②8.8 ⑥3.8	①密 輝石・頁岩・雲母②良 ③橙5YR7/6④3/5	丸味を帯びる。外面右回転ロクロ整形。底部回転ヘラ切り未調整。体表の一部を手持ちヘラ調整。軟質土器。
26	H－10	石鏃	⑦2.9⑨0.3⑪1.12		チャート。
27	H－10	紡錘車 (石製)	上径3.7下径4.2 ⑨0.9⑩0.7⑪31.69	④完形	3連の二重円と対角上に1個の二重円が意図的に配列。滑石製。
28	H－11 カマド	甕(土師)	③(24.0) ⑥(24.2)	①稠密 黒雲母・石英・長石 ②良好③橙5YR6/6④4/5	器肉が薄い長甕。器肌が荒れる。外面縦位のヘラ削り。内面横位のヘラナデ。

番号	出土位置	器形(種)	法　　量	①胎土②焼成③色調④残存	器形・製作技法の特徴
29	H－12	蓋(須恵)	①15.0⑥2.9	①稠密 黒雲母・石英・軽石・頁岩②良好③灰7.5Y6/1④完形	丸い中心部から端部を水平に開き、末端を垂直に折り曲げる。外面左回転ロクロ整形、回転ヘラ切り。ひっくり返して摘み貼付。左回転ロクロ整形。自然釉がかかる。
30	H－12	蓋(須恵)	①(12.6)摘 径(2.6)⑥(2.2)	①密 軽石.輝石②良(低温)③灰N5/0④1/4	端部を薄く作る端正な摘み。外面左回転ロクロ整形、回転ヘラ切り
31	H－12 カマド	瓶 口縁(須恵)	①(7.4)⑥(2.4)	①密 軽石・輝石②良③灰白N7/0④口縁部の30%	小径の孔から大きく開く口端。外面左回転ロクロ整形。焼成時の自然釉痕あり。
32	H－12	臼玉(滑石製)	径1.5⑥0.6⑧0.3⑪1.85		半完製。
33	H－12	鉄製品釘？	⑦(6.1)⑧0.4⑪10.67		
34	H－13	台付甕(土師)	①(13.6) ③(14.6) ⑥(18.4)	①稠密 黒雲母・輝石・頁岩②良好③橙5YR6/6④1/2	体上半部に亘る極端でない最大径による安定感のある作り。外面口縁部横ナデ、体部ヘラ削り、脚部横ナデ。内面口縁部横ナデ、体部ヘラナデ、脚部横ナデ。二次焼成による黒色吸炭が内外にある。
35	H－13	甕(土師)	①(19.0) ⑥(16.0)	①密 黒雲母・軽石・石英・長石・頁岩②良③橙5YR6/8④1/4	明確なコの字口縁。外面口縁から頸部横ナデ、体表斜位のヘラ削り内面口縁から頸部横ナデ、体部ヘラナデ。
36	H－13	甕(土師)	①(16.0) ②(20.0) ⑥(17.0)	①密 黒雲母・輝石・軽石・頁岩②良③にぶい橙7.5YR6/4④1/5	体部半ばに最大径を持つ。ヘラ削りによる角張った体表。外面口縁部横ナデ、体部ヘラナデ。内面口縁部横ナデ、体部ヘラナデ。器肌が荒れる(内面)。内外に黒色二次吸炭あり。
37	H－13	坏(須恵)	①13.4②6.0 ⑥3.7	①稠密 雲母・軽石・頁岩②良③オリーブ黒5Y3/1④2/3	小径の底部から丸い体部に続き、口端部を外反する。外面右回転ロクロ整形。底部回転糸切り無調整。内面右回転ロクロ整形。内外面黒色。軟質土器。
38	H－14 カマド	高台付埦(土師質)	②(9.2)	①密 輝石・軽石②良好③灰白5YR8/1④底部1/5	端正な高台。丁寧な調整。外面左回転ロクロ整形。回転ヘラ切り？後高台貼付。接合部及び底面回転ヘラ調整。灰色二次焼成痕あり。
39	H－15	坏(土師)	①11.5②8.0 ⑥3.0	①稠密 黒雲母・頁岩②良好③橙7.5YR7/6④2/3	平底。外面口縁部横ナデ、底部ヘラ削り。内面口縁から身部過半横ナデ。中心部ヘラナデ。
40	H－15	坏(須恵)	①13.1②7.5 ⑥3.3	①密 輝石・軽石②良好(高温)③灰白7.5Y7/1④2/3	体部を緩やかに外反し、口縁部さらに外反。外面右回転ロクロ整形内面底部回転糸切り無調整。体部外面と内面口縁部に黒色吸炭。体表の一部自然釉。
41	H－15 カマド	鉄 鏃(鋤身か？)	⑦(7.8)⑧3.7 ⑪40.34		有茎。
42	H－15	坏(土師)	①(11.5) ②(8.0)⑥3.0	①稠密 黒雲母・頁岩②良好③橙7.5YR7/6④2/3	平底。口縁部横ナデ、底部ヘラ削り。口縁から身部過半横ナデ、中心部ヘラナデ。
43	H－15	石鏃？	⑦(1.9)⑧1.8⑨0.4⑪1.82		チャート。
44	H－15	紡錘車(軽石製)	上径4.5下径6.3 ⑩0.9⑪77.88	④完形	大振り。軸を偏芯。ＦＰ使用。
45	H－15	高台付埦(須恵)	①18.0②10.2 ⑥7.2	①密 頁岩②良好③表 灰7.5YR6/1 内 灰白10Y8/1④1/2弱	大型足高高台。外面右回転ロクロ整形、糸切り後高台貼付。内面ロクロ整形。ロクロ水挽き調整が底面に及ぶ。
46	H－16	高台付埦(土師質)	①(14.8)②6.9 ⑥4.9	①稠密 黒雲母・頁岩②良好③灰黄褐色10YR6/2④2/3	内端を接地する高台。外面右回転ロクロ整形、高台貼付後ヘラ調整軟質土器。
47	H－16	鉄製品釘	⑦7.5⑧0.8⑪11.33		
48	H－16	鉄製品釘？	⑦(4.9)⑧0.7⑪5.72		
49	H－17	高台付埦(須恵)	①(10.5)⑥3.7	①稠密 軽石・頁岩②良好③灰7.5Y6/1④3/4	小振りで端正な造り。平坦な底面から緩やかに開く口縁。外面右回転ロクロ整形、回転糸切り後高台貼付。高台及び接合部を回転ヘラ調整。内面丁寧な水挽き。
50	H－17	鉄製品釘	⑦(7.3)⑧0.4⑪4.04		
51	H－17	坏(土師)	①(12.2)②8.7 ⑥3.2	①稠密 黒雲母.石英②良好③橙5YR6/6④ほぼ完形	平底傾向。直に立ち上がる口縁。外面口縁部横ナデ。体部ヘラ削り内面口縁部から身部にかけて横ナデ。底面ヘラナデ。
52	H－17	坏(土師)	①11.6②8.8 ⑥3.3	①稠密 黒雲母・軽石・石英②良好③橙5YR6/6④4/5	丸底で内湾する口縁。外面口縁部横ナデ、底部ヘラ削り。内面口縁から身部にかけて横ナデ、底面ヘラナデ。
53	H－17	坏(土師)	①11.9⑥3.2	①密 黒雲母・軽石・頁岩・石英②良好③橙5YR6/6④完形	平底傾向。口縁部を内湾する。外面口縁部横ナデ、体部ヘラ削り。内面口縁部横ナデ、底部ヘラナデ。
54	H－18	甕(土師)	②(4.4) ⑥(13.2)	①密 輝石・黒雲母・軽石②良好③にぶい赤褐色5YR5/4④1/5	急激にすぼまる底部。外面体部ヘラ削り、底部ヘラ削り後ヘラナデ内面ヘラナデ。内外に二次焼成による黒色吸炭あり。
55	H－19	高台付埦(土師質)	①(17.2)②7.3 ⑥6.6	①密 黒雲母・頁岩②良③にぶい黄橙10YR7/3④1/3	大型の高台埦。外面左回転？ロクロ整形。内面水挽き。内外とも底部から体部にかけての黒色吸炭。
56	H－19	高台付埦(土師質)	①(13.2)②7.1 ⑥5.2	①稠密 輝石・黒雲母・軽石②良③灰白2.5Y8/1④1/3	すっきりと立ち上がる体部から口端部を水平に開く。外面右回転ロクロ整形、底部回転糸切り後高台貼付、接合部回転ヘラ調整。内面水挽き。体表に黒色吸炭。内面口端部に暗灰色吸炭。
57	H－19	高台付埦(土師質)	①(16.6)②7.0 ⑥7.3	①密 輝石・頁岩・軽石・石英②良好③灰白2.5YR7/1④1/3	ふくよかな体部に口端部僅かに外反。外面左回転ロクロ整形、底部回転糸切り後高台貼付。接合部ヘラ調整。外面底部と体部、内面底部から体部黒色吸炭あり。
58	H－19	壺(灰釉)	③(16.4) ⑥(14.7)	④1/3底～肩	外面右回転ロクロ整形。内面ロクロ水挽き。
59	H－19	鉄製品釘？	⑦6.5⑧0.5⑪12.60		
60	H－20	坏(須恵)	①(12.8)②6.0 ⑥3.5	①密 黒雲母・粗粒・石英・頁岩②良好③灰5Y6/1④3/4	小径の底部から丸く体部を持ち、僅かに外反する口縁を持つ。外面右回転ロクロ整形、糸切り無調整。内面右回転ロクロ整形。

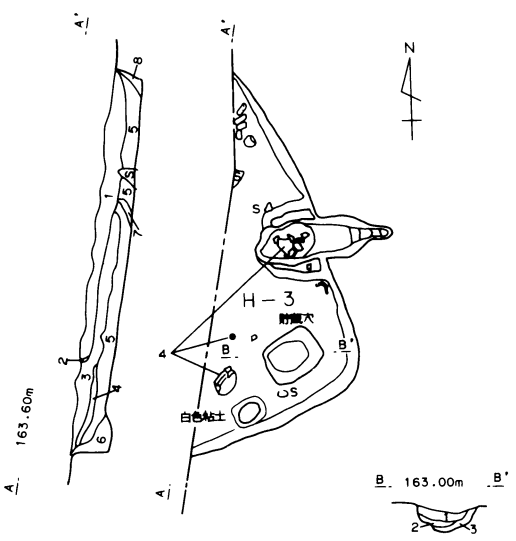
番号	出土位置	器形(種)	法　量	①胎土②焼成③色調④残存	器形・製作技法の特徴
61	H－20	坏(土師)	①(11.6)②7.8 ⑥3.5	①稠密 黒雲母・軽石 ②良好③橙7.5YR7/6 ④4/5口辺部一部欠損	平底。外面口縁部横ナデ。指頭圧痕。ヘラ削り。内面口縁から底面にかけて横ナデ。底面中央ヘラナデ。
62	H－21	坏(須恵)	②(4.0)⑥(1.9)	①密 輝石・軽石・頁岩②良好③明褐灰色7.5YR6/1④10%	平底味が強い。外面左回転ロクロ整形。内外に黒色痕あり。
63	H－22	高台付埦(土師質)	①(16.4) ②(7.0)⑥7.7	①稠密 輝石・黒雲母・頁岩 ②良好③灰白10YR8/2 ④1/5	底部から直に開き口縁部外反。体半ばから器肉を薄くする。外面右回転ロクロ整形。内面ロクロ水挽き。軟質土器。体内ににぶい黄褐色吸炭、体表に灰黄褐色吸炭。
64	H－22	甕(土師)	①(20.6) ⑥(17.7)	①稠密 黒雲母.輝石.軽石 ②良好③橙7.5YR7/6 ④1/7	下部を内傾化するコの字口縁。外面口縁部横ナデ、体部ヘラ削り。内面口縁部横ナデ、体部ヘラナデ。体表に黒色二次焼成痕あり。
65	H－22	坏(土師質)	①(14.0)⑥5.1	①密 黒雲母・頁岩・軽石②良③にぶい橙7.5R7/4 ④1/2弱	平坦な底から丸く開き、口端部を外反する。外面右回転ロクロ整形回転糸切り後高台貼付、接合部回転ヘラ調整。内面右回転ロクロ整形。軟質土器。
66	H－22	長頸壺(灰釉)	④6.6	①密 頁岩②良好③灰白2.5Y8/1④接合部のみ	肩部に丸味を持たせた体部に作り上げた頸部を接合。外面ロクロ水挽き。内面回転ヘラ調整、接合部回転ヘラ調整。刷毛塗り。
67	H－22	坏(須恵)	①(12.7)②6.0 ⑥4.0	①稠密 頁岩・軽石・雲母②良③灰白5Y R7/1④2/5	小径の底部から丸く体部を作り出し、口端部を緩く外反。外面右回転ロクロ整形、糸切り後胎土を貼りヘラ調整。安定度を増すための負荷か。内面ロクロ水挽き。軟質土器。
68	H－22	高台付皿(灰釉)	①(15.1)②7.1 ⑥3.2	①稠密 輝石・頁岩②良好③灰白2.5Y R8/1④4/5	外面左回転ロクロ整形。底部ヘラ調整後高台貼付。接合部回転ヘラ調整。施釉(刷毛)。内面ロクロ整形後底面の半分程を手持ちヘラ調整。(灰釉)
69	H－22	甕(土師)	①(19.0) ⑥(14.0)	①稠密 黒雲母・軽石 ②良好③橙5Y R7/6 ④1/3(二体で)	コの字終末。胎土が柔らかい。表面凹凸あり。外面口縁部横ナデ、頸部ヘラナデ、体部斜位を基本とするヘラ削り。内面口縁横ナデ、頸部下から粗い横ナデ、体部から下へヘラナデ。
70	H－22	鉄製品釘	⑦8.5⑧1.0⑪16.82		
71	H－22	坏(土師質)	①14.2②8.0⑥5.5	①密 黒雲母・頁岩②良③にぶい黄橙10Y R7/3④口辺部1/3欠損	体部を緩やかに開き、口端部を外反する。外面右回転ロクロ整形、回転糸切り後高台貼付。高台及び接合部回転ヘラ調整。内面ロクロ水挽き。軟質土器。
72	H－22	砥石	⑦7.5⑧5.4⑪135		
73	H－22	砥石	⑦(9.3)⑧3.3⑪178		
74	H－23 カマド	坏(須恵)	①(10.5) ②(6.8)⑥(4.2)	①稠密 輝石.頁岩.軽石②良好③灰白7.5YR7/1④30%	小振りの整った形。口端部を外反する。外面左回転ロクロ整形。外面自然釉。外面に灰色(7.5Y5/1)二次焼成痕あり。
75	H－24	坏(土師)	①(12.6) ⑥(2.3)	①稠密 輝石・軽石②良好③にぶい橙7.5YR6/4 ④1/5弱	内湾する口縁。平底傾向。外面口縁部横ナデ。内面口縁から底部に至る横ナデ。二次焼成痕あり。
76	H－25	土錘	⑦4.4⑧2.5 ⑩0.45⑪27.65	①稠密 黒雲母・軽石②良好 ③にぶい黄橙10YR7/2④完形	偏芯。比重あり。ずんぐりとする。外面ヘラナデ。灰白色二次焼成痕。
77	H－25	土錘	⑦5.1⑧2.1 ⑩0.50⑪18.35	①稠密 黒雲母・軽石②良好 ③にぶい黄橙10YR7/2④完形	両端を細くしぼる。外面ヘラナデ灰白色二次焼成痕。
78	H－25	土錘	⑦4.0⑧2.5 ⑩0.70⑪20.63	①稠密 黒雲母・頁岩②良好 ③にぶい黄橙10YR7/2④完形	丸味を帯びる。外面ヘラナデ。灰白色二次焼成痕。
79	H－25	土錘	⑦3.3⑧2.2 ⑩0.70⑪12.16	①稠密 黒雲母.頁岩.軽石②良好③にぶい黄橙10YR7/2④完形	丸味を帯びる。外面ヘラナデ。灰白色二次焼成痕。
80	H－25	土錘	⑦3.4⑧2.1⑩ (0.6)⑪(5.97)	①稠密 黒雲母.頁岩.軽石②良好③にぶい黄橙10YR7/2④1/2	丸味を帯びる。外面ヘラナデ。灰白色二次焼成痕。
81	H－25	坏(土師質)	①(12.2)②8.6 ⑥3.5	①稠密 黒雲母・軽石・頁岩 ②良③橙7.5YR7/6 ④1/3強	平底から緩やかに開く安定した形。外面口縁部横ナデ、底部手持ちヘラ削り。内面口縁部横ナデ、底面ヘラナデ。軟質土器。
82	H－25	坏(須恵)	①12.6②5.6 ⑥3.6	①稠密 黒雲母・石英・軽石・頁岩②良好③灰白7.5Y7/1④完形	小径の底部から丸やかに開く体部。外面右回転ロクロ整形、底部回転糸切り無調整。内面ロクロ水挽き。
83	H－26	坏(土師)	①11.6⑥3.9	①稠密 黒雲母・軽石・頁岩 ②良好③橙5YR6/6④完形	丸い身部から明瞭な稜を持ちやや開き気味に立ち上がる。口端内面は角度を持って開く。外面口縁部横ナデ、身部ヘラ削り。内面口縁から身部大半にかけて横ナデ。身部中心のみヘラナデ。
84	H－27	甑(土師)	①(22.0) ④(19.7) ⑥(25.0)	①稠密 輝石・軽石②良好③にぶい橙7.5YR7/4④3/5	口縁部と胴部最大径を一致する。外面口縁部横ナデ、体部櫛状工具による縦位の削り。内面口縁部横ナデ、体部横位の櫛状工具によるナデ。外面に二次焼成痕による黒色吸炭あり。
85	H－27	小型甕(土師)	⑪11.1⑥17.0	①密 黒雲母・軽石・頁岩②良好③橙7.5YR6/6④4/5	胴中央に最大径を持つ。端正なつくり。外面口縁部横ナデ、体部縦位のヘラ削り、底部ヘラ削り。内面口縁部横ナデ、体部ヘラナデ。体表から口縁にかけて黒色吸炭あり。
86	H－27 カマド	甕(土師)	①(19.3)②8.0 ⑥27.4	①稠密 黒雲母・輝石・長石 ②良好③にぶい橙7.5YR7/4④口辺部2/3欠損	中央部に最大径を持つ。外面口縁部横ナデ、体部ヘラ削り、底部ヘラナデ。内面口縁部横ナデ、体部ヘラナデ。下半1/3の接合部に櫛状工具によるナデ痕。体表に黒色吸炭。部分的に赤色塗彩痕あり。
87	H－27	勾玉(石製)	⑦4.3⑧1.2⑩0.20⑪19.69		蛇紋岩か。
88	H－27 カマド	埦(土師)	②7.8③13.2	①稠密 黒雲母・軽石・頁岩 ②良好③橙2.5YR6/6④体部2/3	球を押しつぶしたような形。外面ヘラ削り。内面ヘラナデ、一部ヘラ研磨。内外面体側に黒色二次焼成痕あり。

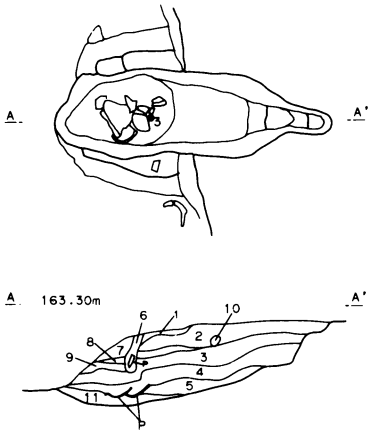
番号	出土位置	器形(種)	法　　量	①胎土②焼成③色調④残存	器形・製作技法の特徴
89	H－27	坏(土師)	①12.0⑥5.2	①稠密 軽石・頁岩・輝石 ②良好③橙 5 YR6/8 ④完形	丸味を帯びたふくよかな形。器肌が荒れる。赤色塗彩痕が内外に残る。外面口縁部横ナデ後横位ヘラ研磨。身部ヘラ削り後ヘラ研磨。内面口縁部横ナデ後横位のヘラ研磨。体表の一部に吸熱による赤色変成あり。内面に赤色塗彩痕あり。
90	H－27	坏(土師)	①(12.6)②5.6 ⑥(6.2)	①稠密 黒雲母・頁岩②良好 ③にぶい黄橙10YR6/4 ④1/2	扁平な底部から丸い体部をつくり口端部を内湾する。外面口縁部横ナデ、体部ヘラ削り後ヘラナデ、底部ヘラ削り後ヘラナデ。内面口縁部横ナデ、体部放射状ヘラ研磨。内外に吸炭による黒色変化あり
91	H－27 カマド	坏(土師)	①(14.2)②8.0 ⑥5.3	①稠密 黒雲母②良好③明赤褐2.5YR5/6④口辺部1/4欠損	半球に口縁を付ける形態。内外面赤色塗彩。外面口縁部横ナデ後ヘラ研磨、身部ヘラ研磨。内面口縁横ナデ後横位のヘラ研磨痕が残る部分あり。体上半部斜位のヘラ研磨。外面底部に二次焼成黒色吸炭痕あり。
92	T－1	坏(須恵)	①(12.4) ②(6.2)⑥(3.9)	①密 黒雲母・軽石・頁岩② 良③灰白10Y R8/1④1/4	体部から口縁にかけて直に開く。外面左回転ロクロ整形、回転糸切り無調整。内面水挽き。軟質土器。

ピット・土坑表

（　）は推定値を示す

番　号	位　　置	法　　量(cm) (長径×短径×深さ)	平面形	備　考	番　号	位　　置	法　　量(cm) (長径×短径×深さ)	平面形	備　考
P－1	E－16G	(67)×(60)×38	方　形		35	G－20G	44×40×23	円　形	
2	E－16G	60×59×43	円　形		36	G－20G	58×53×12	円　形	
3	F－16G	33×27×42	円　形		37	G－16G	60×52×27	円　形	
4	E－16G				38	G－16G	49×47×5	円　形	
	F－16G	77×67×52	方　形	K－1－1	39	G－16G	29×26×15	円　形	
5	F－17G	37×29×25	楕円形		40	G－16G	37×36×6	円　形	
6	F－17G	69×66×51	方　形	K－1－2	41	H－16G	21×20×17	円　形	
7	E－17G				42	H－16G	50×43×36	円　形	
	F－17G	54×50×6	円　形		43	H－16G	26×25×20	円　形	
8	F－17G	59×52×68	方　形	K－1－3	44	I－16G	56×47×31	円　形	
9	F－16,17G	61×60×55	方　形		45	I－16G	36×33×32	円　形	
10	F－17G	65×49×25	楕円形		46	I－16G	(53)×(44)×39	円　形	
11	F－17G	79×75×47	方　形		47	I－16G	(40)×(40)×47	円　形	
12	F－15G	50×46×9	円　形		48	I－16,17G	70×55×19	方　形	
13	F－15G	41×40×9	円　形		49	I－16G	52×(42)×11	円　形	
14	G－15G	66×58×10	円　形		50	I－16G	56×(47)×15	円　形	
15	G－14G	45×43×40	円　形		51	J－16G	94×88×24	円　形	
16	G－15G				52	J－21G	60×58×6	円　形	
	H－15G	216×85×34	不定形		53	I－22G	67×62×20	円　形	
17	H－15G	44×42×32	円　形		54	G－24G	105×81×15	楕円形	
18	H－15G	36×34×38	円　形		55	H－15G	33×25×19	楕円形	
19	I－17G	44×42×33	円　形		56	H－15G	25×24×10	円　形	
20	I－17G	25×23×23	円　形		57	H－15G	54×48×22	円　形	
21	I－17G	22×22×22	円　形		58	I－15G	39×38×36	円　形	
22	F－19G	96×91×33	円　形		59	I－15G	39×38×43	円　形	
23	F－19G	94×68×65	不定形		60	M－14G	59×55×16	円　形	
24	F－20G	48×46×25	方　形	K－2－1	61	K－19G	46×42×24	円　形	
25	F－20G	53×48×33	方　形	K－2－2	62	K－19G	43×40×12	円　形	
26	F－20G	34×30×33	円　形		63	I－20G	40×36×30	円　形	
27	F－20G	54×44×43	楕円形		64	L－16G	76×71×3	円　形	
28	F－20G	108×61×18	長方形		65	F－17G	78×72×35	方　形	
29	F－20G	73×67×44	円　形		66	F－17G	81×67×65	円　形	
30	G－19,20G	112×102×9	円　形		67	F－20G	57×50×35	方　形	K－2－3
31	G－19G	57×52×33	円　形		68	L－17G	41×32×27	楕円形	
32	G－19G	56×40×25	楕円形		69	F－18G	60×56×38	方　形	K－1－4
33	G－19G	43×37×29	円　形		70	F－17G	57×40×40	楕円形	
34	G－20G				71	F－18G	51×49×13	方　形	
	H－20G	117×109×33	円　形		D－1	L－17G	238×99×50	長楕円形	

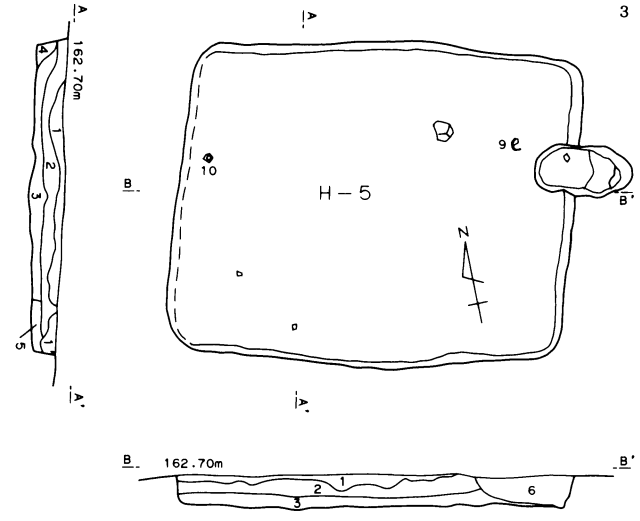


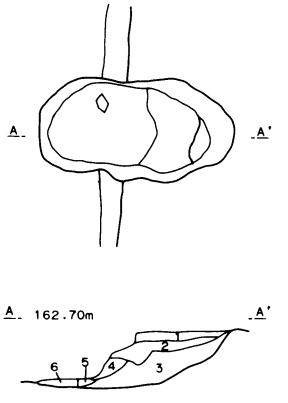


3号住居跡セクション
1　黒褐色　中締弱粘細砂　ＢＰ３％ＦＰ３％遺物粒２％
2　暗褐色　弱締弱粘微砂
3　黒褐色　中締弱粘細砂　ＢＰ２％ＦＰ３％遺物粒１％
4　黒灰色　弱締中粘コロイド細砂　ＢＰ１％ＦＰ２％遺物粒２％
5　暗褐色　中締中粘コロイド細砂　ＣＰ・ＢＰ２％ＦＰ３％遺物粒・炭化粒１％
6　暗褐色　弱締弱粘微砂コロイド　白色粘土７％炭化粒３％焼土粒２％ＦＰ１％
7　暗灰褐色　中締弱粘微砂コロイド　ＣＰ１％白色粘土２％遺物粒３％灰２％
8　暗褐色　弱締弱粘細砂　ＦＰ２％ローム粒２％

3号住居跡　カマドセクション
1　暗褐色　弱締弱粘細砂　微小遺物粒１％
2　灰褐色　高締弱粘微砂（粘土）ＦＰ粒３％
3　灰色　高締弱粘微砂（粘土）焼土５％
4　暗灰橙色　中締弱粘細砂　焼土粒７％灰を含む
5　橙灰色　中締高粘微砂（焼土）
6　暗灰褐色　弱締弱粘コロイド細砂
7　褐色　高締弱粘細砂（粘土）ローム粒・焼土粒５％
8　黄灰色　高締弱粘細砂（粘土）ＦＰ粒・小ローム粒２０％
9　灰褐色　高締弱粘細砂（粘土）ローム粒２０％
10　暗褐色　高締中粘微砂　ローム粒３％
11　黒灰色　弱締弱粘微砂　灰と炭の混在

貯蔵穴セクション
1　暗灰褐色　中締弱粘コロイド細砂　灰と焼土粒１０％
2　暗灰褐色　中締弱粘コロイド微砂　ロームブロック７％
3　灰褐色　中締中粘細砂　ローム粒１０％

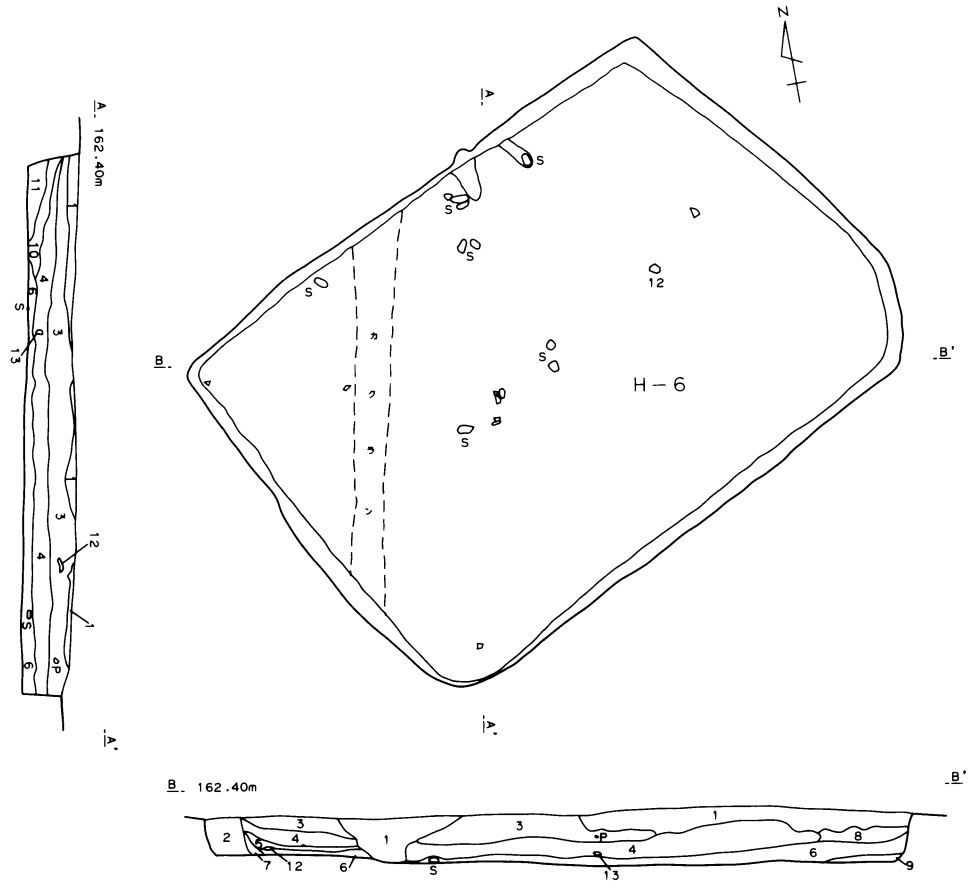




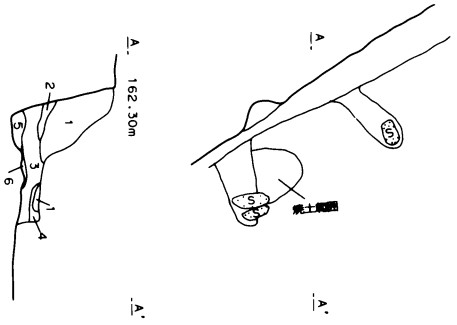
5号住居跡セクション
1　黄褐色　中締微粘細砂　ＢＰ・ＣＰ３％
1'　黄褐色　中締微粘細砂　ＢＰ１％ローム粒３％
2　暗褐色　中締微粘細砂　ＣＰ２０％
3　黒褐色　中締微粘細砂　ＣＰ１５％
4　暗黄褐色　中締微粘細砂　黄褐色ローム３０％
5　黒褐色　中締弱粘微砂　ＣＰ３０％
6　褐色　弱締微粘細砂　ローム粒・ＣＰ５％

5号住居跡　カマドセクション
1　灰褐色　中締弱粘細砂　ＢＰ２％
2　暗灰褐色　中締弱粘細砂　ＢＰ２％ＦＰ１％炭・ローム粒２％
3　暗褐色　中締弱粘微砂　ＢＰ２％ＦＰ２％焼土粒２％ローム粒３％
4　灰褐色　中締弱粘微砂　ＢＰ１％ローム粒１０％
5　灰褐色　中締中粘微砂と焼土ブロック6/4
6　暗褐色　弱締弱粘細砂　焼土粒２％ＢＰ１％ＦＰ１％炭化粒３％

第４図　３・５号住居跡・カマド

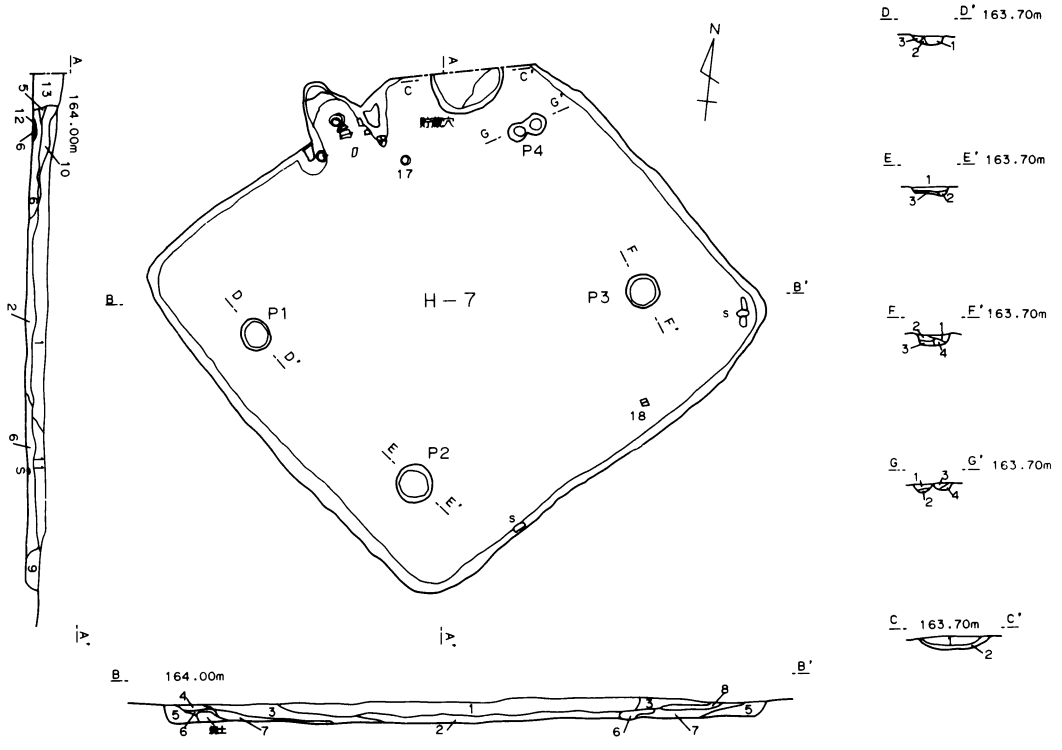


6号住居跡セクション
1　灰褐色　弱締微粘砂質土　ＢＰ７％
2　暗灰褐色　弱締中粘細砂　ロームブロック桑根混入
3　褐色　高締微粘細砂　ＣＰ・遺物粒３０％
4　暗褐色　中締弱粘細砂　ＣＰ１５％
5　暗褐色　弱締中粘微砂　ＣＰ３％
6　暗黄褐色　高締中粘微砂とロームブロックの混在
7　暗黄褐色　弱締中粘微砂とロームブロックの混在
8　暗褐色　高締弱粘細砂　ＣＰ・遺物粒３％
9　暗褐色　弱締中粘細砂　ロームブロックに斑文が入ったもの
10　暗黄褐色　高締中粘細砂　ＣＰ・遺物粒１０％
11　黄褐色　中締中粘微砂　ＣＰ７％焼土粒３％
12　暗橙色焼土ブロック
13　暗黄褐色ロームブロック



6号住居跡　カマドセクション
1　暗褐色　中締弱粘細砂　ローム粒３％ＢＰ・ＦＰ１％小礫を含む
2　暗灰褐色　中締弱粘細砂　ローム粒５％
3　黒灰褐色　中締弱粘細砂　ローム粒２０％
4　暗褐色　中締弱粘細砂　ローム粒５％
5　黒褐色　中締弱粘細砂　ローム粒５％炭を含む
6　暗赤褐色　中締微粘細砂　焼土ブロック

第５図　６号住居跡・カマド



7号住居跡セクション
1　黒褐色　中締弱粘細砂　3mmφＣＰ１５％混入
2　灰褐色　中締微粘砂質土　2cmφ炭(MAX)を７％含む
3　暗黄褐色　中締微粘細砂　ＣＰ５％ローム粒３％
4　黄褐色　中締微粘細砂　ＣＰ１％
5　暗褐色　中締弱粘細砂　ＣＰ１％
6　赤褐色　４と明黄橙色焼土の混在
7　灰褐色　３と２の混在
8　暗黄褐色　中締中粘ローム
9　褐色　弱締微粘粗砂　(根による攪乱土)
10　黒褐色　中締中粘微砂　５に炭化物が混入
11　褐色　高締中粘粗砂　2cmφ(MAX)のＣＰを１５％含む
12　暗橙色焼土ブロック
13　暗灰褐色　弱締弱粘細砂　ＦＰ２％ローム粒５％焼土粒３％炭２％

P－1セクション
1　暗褐色　中締弱粘細砂と黄褐ロームブロック２０％
2　黄褐色　中締弱粘細砂ローム
3　灰褐色　中締弱粘細砂　炭１０％

P－2セクション
1　灰褐色　中締弱粘細砂　灰１０％
2　暗灰褐色　中締弱粘細砂　ローム粒３％
3　黄褐色　中締弱粘細砂　ローム・焼土粒３％

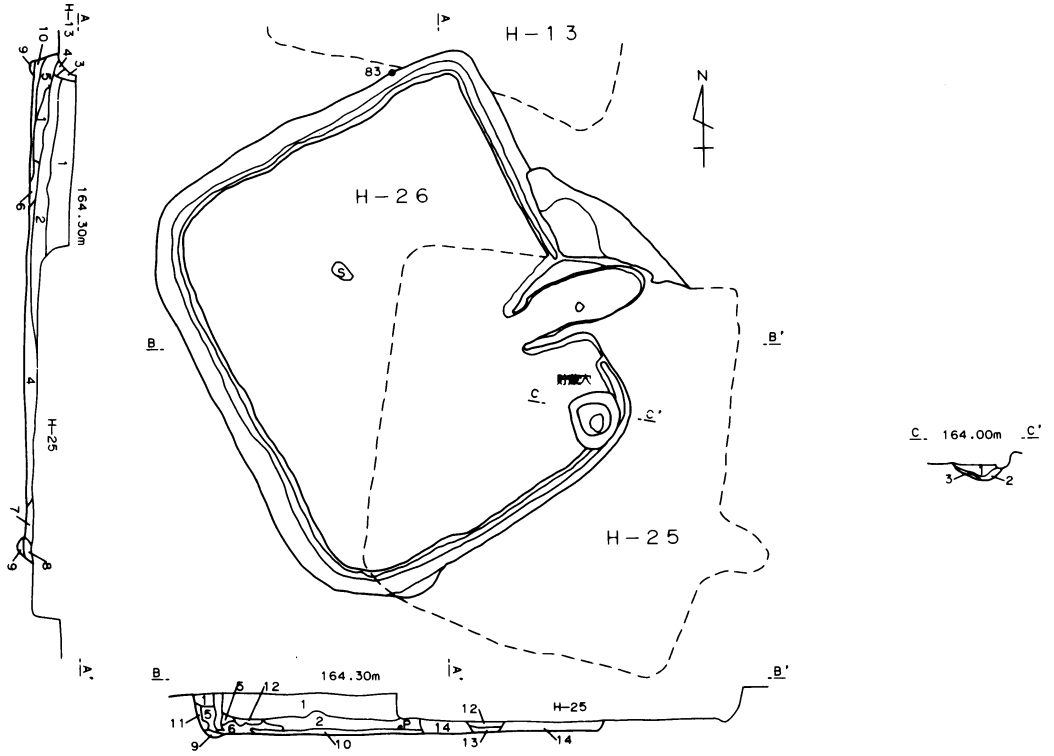
P－3セクション
1　灰褐色　中締弱粘細砂　暗橙褐色ロームブロック１０％
2　暗褐色　中締弱粘細砂　ロームブロック３％
3　暗灰褐色　中締弱粘細砂　ローム７％
4　暗黄褐色　中締弱粘細砂　ロームブロック

P－4セクション
1　暗灰色　中締弱粘細砂　ローム粒５％
2　黄褐色　中締弱粘細砂ローム
3　暗赤褐色　中締弱粘細砂　ロームブロック５％
4　灰褐色　弱締弱粘細砂　ローム粒７％

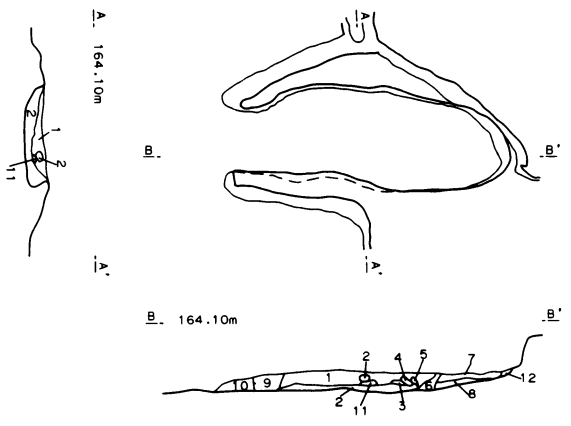
貯蔵穴セクション
1　暗灰褐色　弱締弱粘細砂　ＦＰ２％ローム粒５％
　　焼土粒３％炭２％
2　灰白色　弱締中粘細砂と黄褐色ローム5/5

7号住居跡　カマドセクション
1　黒褐色　中締弱粘微砂　焼土粒３％ＦＰ３％
2　暗褐色　弱締弱粘細砂　ＦＰ２％焼土粒２％
3　暗灰色　弱締弱粘細砂　ＦＰ２％焼土粒２％炭７％
4　灰褐色　中締中粘細砂　ＦＰ１％焼土粒２％
5　灰褐色　弱締弱粘細砂　ＦＰ２％焼土粒２％炭あり
6　暗灰色　弱締中粘細砂　白色粘土７％焼土粒７％
7　暗橙褐色　中締弱粘細砂　焼土ブロック
8　橙褐色　中締弱粘細砂　焼土
9　灰褐色　弱締中粘細砂　ＦＰ２％焼土粒２％
10　暗褐色　中締弱粘細砂　ＢＰ２％ローム粒２％

第６図　７号住居跡・カマド



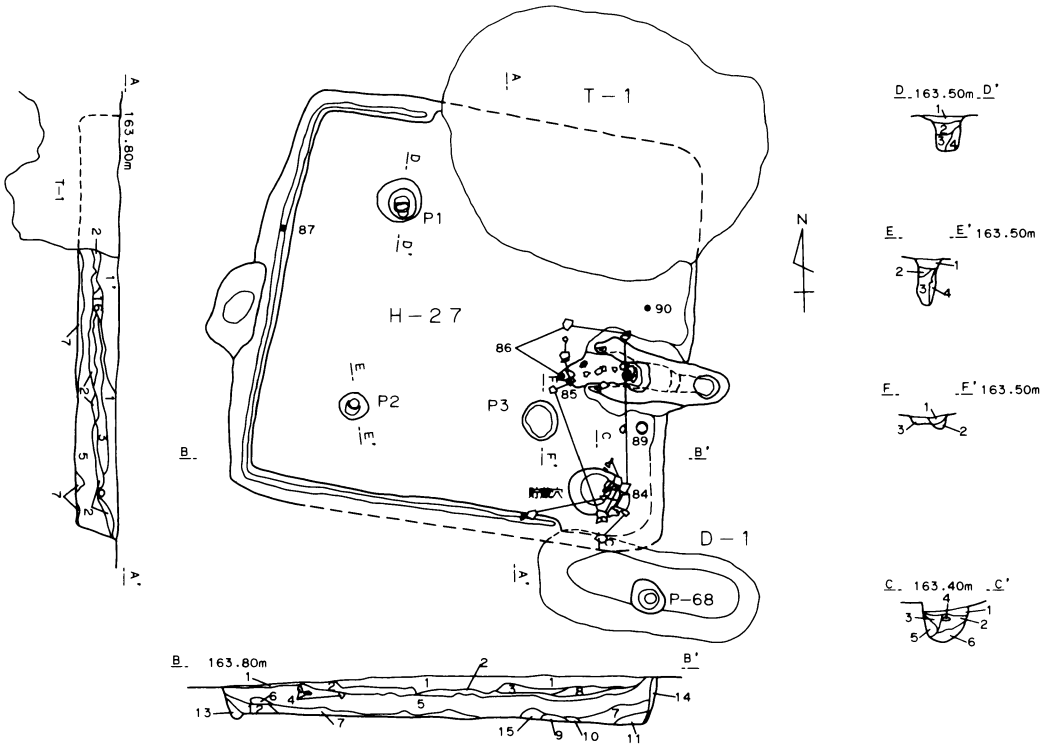
26号住居跡セクション
1　褐色　中締弱粘細砂　ＢＰ３％ＦＰ３％ローム粒１％
2　暗褐色　中締中粘微砂　ＢＰ１％ＦＰ１％ＣＰ２％
3　褐色　中締弱粘細砂　ＢＰ１％ＦＰ２％
4　暗灰褐色　中締中粘コロイド細砂　ＢＰ１％ＦＰ３％ローム粒３％
5　褐色　中締中粘細砂　ＢＰ２％ＦＰ１％ローム粒１０％
6　明褐色　中締弱粘粗砂　ローム粒１０％
7　灰褐色　中締弱粘細砂　ＢＰ１％ＦＰ２％ローム粒１％
8　暗黄灰色　中締中粘細砂　ＢＰ１％ローム粒７％
9　黄灰色　中締中粘粗砂　ローム粒１５％
10　暗褐色　中締中粘微砂　ローム１５％
11　褐色　中締中粘微砂　ＦＰ２％
12　灰褐色　中締中粘細砂　ＢＰ２％
13　灰白色粘土に褐色細砂３０％
14　暗褐色　中締中粘微砂　焼土２０％



貯蔵穴セクション
1　暗褐色　弱締弱粘細砂
　ローム粒５％
2　黒褐色　弱締中粘微砂
　ローム粒２％
3　黄褐色ロームに暗褐色
　弱締弱粘細砂３０％と
　ＣＰ２％を含む

26号住居跡　カマドセクション
1　灰白褐色　中締弱粘粗砂焼土粒３％と暗褐色
　中締中粘細砂ＦＰ２％との7/3
2　青灰色　弱締弱粘微砂　焼土粒３％炭５％の灰層
3　灰褐色　中締中粘コロイド細砂　ローム粒２％
4　黒色炭層
5　橙褐色　中締弱粘細砂　焼土ブロック
6　灰橙色焼土ブロック
7　暗褐色　中締中粘細砂　焼土Ｂ３０％
8　青灰色　弱締中粘微砂　灰層
9　褐色　弱締中粘細砂　小ＢＰ３％ローム粒２％炭２％
10　灰褐色　中締中粘細砂　ローム粒３％
11　灰橙色　弱締弱粘細砂焼土ブロックと暗灰色弱締弱粘
　微砂4/6
12　灰褐色　弱締弱粘細砂　ＦＰ１％

第７図　26号住居跡・カマド



２７号住居跡　カマドセクション
1　暗灰色　中締弱粘細砂　ＣＰ２％焼土粒３％
2　暗灰褐色　中締弱粘粗砂　ＦＰ２％焼土粒３％
3　黒褐色　弱締弱粘コロイド細砂　焼土粒５％
4　黒灰色　弱締弱粘微砂　（灰層）
5　橙褐色　中締弱粘細砂　焼土ブロック
6　灰褐色　中締弱粘細砂　粘土ブロック
7　褐色　中締弱粘微砂　ＣＰ３％
8　灰褐色　高締弱粘微砂　ＣＰ３％白色粘土５％
9　暗灰橙色　高締弱粘細砂　ＣＰ２％（粘土２０％）
10　暗灰褐色　中締弱粘細砂　ＣＰ３％橙褐焼土ブロック１５％
11　灰白色　中締弱粘微砂　（粘土）焼土ブロック１０％
12　灰褐色　中締弱粘細砂　ＣＰ３％焼土７％
13　灰橙色　中締弱粘微砂　焼土ブロック１０％
14　暗赤褐色　中締弱粘細砂　ロームブロック２％焼土粒３％
15　暗黄褐色　弱締弱粘粗砂
16　褐色　中締弱粘微砂

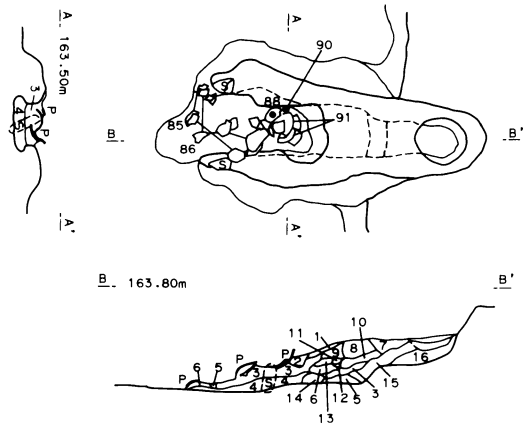
Ｐ－１セクション
1　暗灰褐色　中締中粘細砂　ＢＰ２％ローム粒３％焼土粒１％
2　暗灰褐色　弱締中粘細砂　ローム粒５％
3　灰褐色　弱締中粘コロイド細砂
4　黄褐色　中締中粘細砂　ハードローム

Ｐ－２セクション
1　暗灰褐色　中締弱粘コロイド細砂　ＢＰ２％ＦＰ１％ロームブロック５％
2　褐色　中締中粘細砂　ＢＰ１％ローム粒３％礫数点
3　暗褐色　中締中粘粗砂　ローム粒２％
4　灰層　中締中粘細砂と褐色ソフトローム3/7

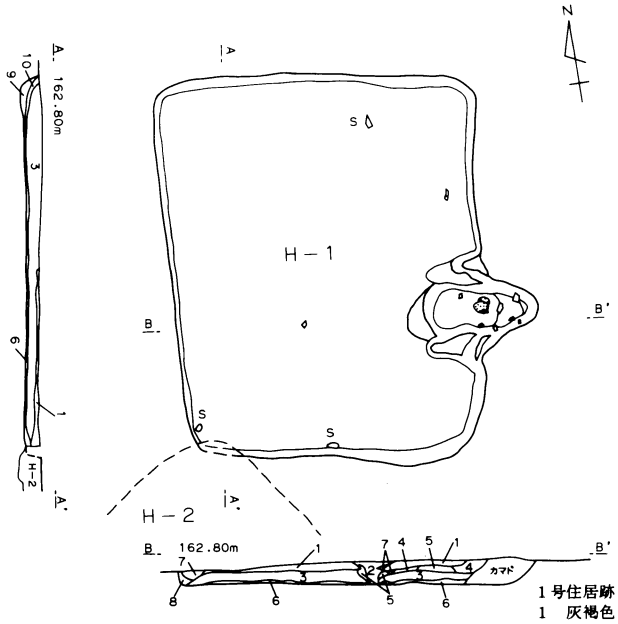
Ｐ－３セクション
1　暗褐色　中締中粘細砂　ＢＰ１％ＦＰ３％
2　黄灰褐色　中締中粘細砂　ローム粒３％
3　黄褐色ハードロームと黄灰褐色中締中粘細砂ＦＰ２％の6/4

貯蔵穴セクション
1　黒褐色　中締弱粘コロイド細砂　ＦＰ２％
2　灰褐色　弱締中粘細砂　ＦＰ２％ロームＢ１０％
3　灰褐色　弱締中粘細砂　ロームＢ７％遺物粒あり
4　暗褐色　弱締中粘細砂　ＣＰ２％
5　灰褐色　中締中粘粗砂　ロームＢ５％
6　暗灰色　中締中粘微砂　ローム５％炭化粒あり、５が６０％

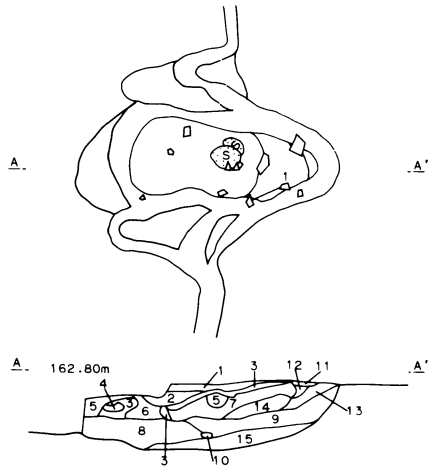
２７号住居跡セクション
1　暗褐色　中締弱粘細砂　ＢＰ２％ＦＰ５％
1’褐色　中締弱粘粗砂　ＢＰ２％ＦＰ５％ローム粒２％遺物粒１％
2　暗黄褐色　高締弱粘ＦＡ純層
3　暗褐色　弱締弱粘微砂　白色小粒Ｐ２％
4　灰黄褐色　弱締弱粘微砂　スコリア状ＦＡ
5　黒褐色　中締中粘細砂　ＣＰ１５％
6　暗灰褐色　弱締弱粘粗砂　小ＣＰ３％
7　黒灰褐色　中締弱粘コロイド細砂　ＣＰ３％
8　灰褐色　中締中粘細砂　ＢＰ１％ＦＰ２％
9　黄褐色　中締中粘細砂　ローム
10　暗灰褐色　中締中粘微砂　粘土ブロック
11　灰褐色　中締弱粘粗砂　黄色ローム３０％
12　黒褐色　中締中粘細砂　ＣＰ２％ローム粒・焼土粒あり
13　暗褐色　中締中粘微砂　ローム粒２％
14　暗褐色　中締中粘細砂　ＦＰ２％
15　灰黄色　中締中粘粗砂　ローム粒５％
16　灰褐色　中締中粘微砂　ＢＰ２％ＦＰ５％ローム粒２％遺物粒１％



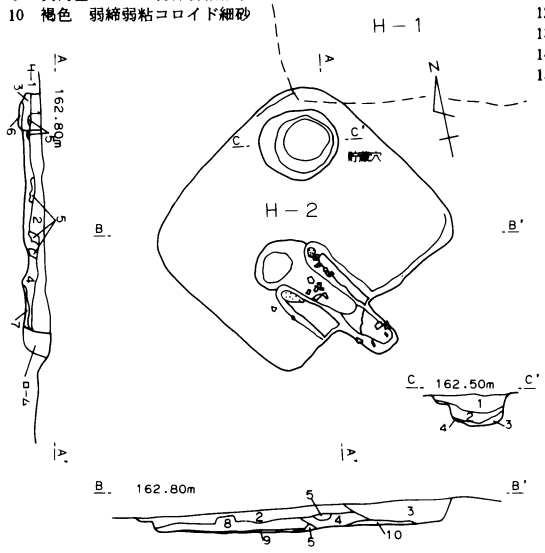
第８図　27号住居跡・カマド



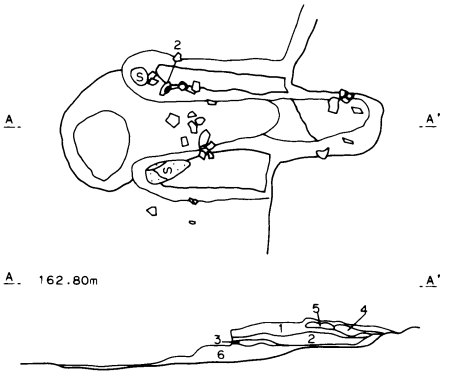
1号住居跡セクション
1　暗黄褐色　弱締弱粘微砂　ＣＰ５％ローム粒３％
2　暗黄褐色　弱締弱粘細砂　ＢＰ３％ＣＰ３％
3　黒褐色　中締弱粘細砂　ＣＰ２０％ローム粒５％
4　暗褐色　弱締弱粘細砂　ＣＰ５％ローム粒３％
5　黄灰褐色　ロームブロック
6　暗褐色　中締弱粘微砂　ＣＰ３％ローム粒微小
7　暗褐色　弱締弱粘細砂　ＣＰ５％
8　褐色　弱締弱粘細砂　ロームブロック３％
9　黄褐色ローム　弱締弱粘細砂
10　褐色　弱締弱粘コロイド細砂



1号住居跡　カマドセクション
1　灰褐色　弱締微粘細砂　ＦＰ・ＢＰ３％混入
2　暗褐色　中締中粘細砂　粗粒ＢＰ１％ローム粒３％
3　黄灰色　中締中粘微砂　ロームブロック
4　黒褐色　中締中粘細砂　ローム粒３％
5　暗褐色　中締中粘粗砂　ＢＰローム粒１％
6　暗褐色　中締中粘細砂　ローム粒３％
7　暗褐色　中締中粘微砂　ローム粒３％ＢＰ１％焼土粒１％
8　黒褐色　中締中粘細砂　粗粒ＢＰ３％焼土粒１％炭化粒１％
9　褐色　中締中粘細砂　ＢＰ・ＦＰ１％焼土粒３％
10　赤橙色　高締微粘焼土ブロック
11　黄橙色　中締中粘微砂（焼土化した粘土）
12　８と１１の混在
13　褐色　中締弱粘微砂　焼土粒３％
14　暗褐色　中締中粘細砂　ロームブロック・焼土粒１％ＢＰを含む
15　暗褐色　弱締弱粘微砂と炭・焼土微粒の混在



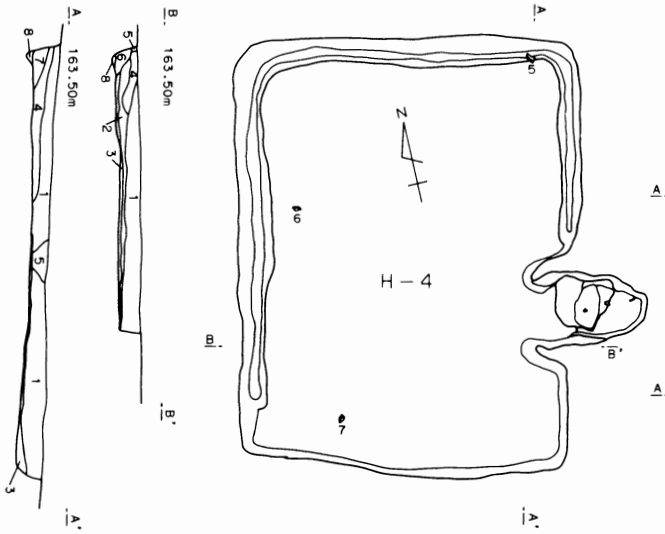
2号住居跡セクション
1　暗黄褐色　中締弱粘微砂　粗粒を含むＢＰ５％
2　暗黄褐色　中締弱粘細砂　ＢＰ３％
3　黒褐色　中締弱粘細砂　ＢＰ３％ローム粒２％
4　黒褐色　中締弱粘細砂　ＢＰ５％ローム粒２％
5　黄灰褐色　ロームブロック
6　黒褐色　弱締弱粘細砂　ＢＰ２％ローム粒２％
7　褐色　中締弱粘細砂　ＢＰ２％ロームブロック７％焼土３％
8　暗黄褐色　中締弱粘細砂　ＢＰ３％ＦＰ７％炭３％
9　暗褐色　弱締弱粘細砂　ＦＰ２％ローム粒３％
10　黒褐色　高締中粘微砂　小ＢＰ３％



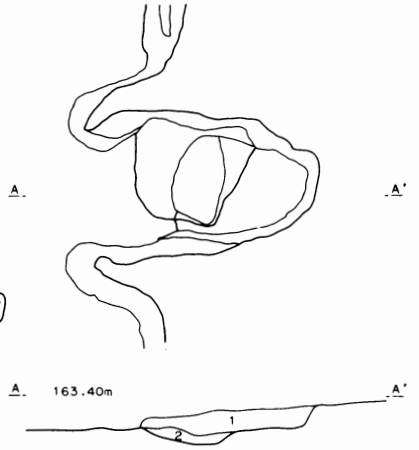
2号住居跡　カマドセクション
1　暗褐色　中締弱粘微砂　ＦＰ２％ローム粒１％
2　褐色　弱締弱粘粗砂　ローム粒３％
3　黄褐色　中締弱粘細砂　ローム
4　赤褐色　中締弱粘細砂　焼土ブロック
5　赤橙色　中締弱粘細砂　焼土ブロック
6　褐色　弱締弱粘細砂　焼土粒３％

貯蔵穴セクション
1　暗褐色　中締弱粘微砂　ＢＰ２％ＦＰ２％炭１％
2　黒褐色　弱締中粘細砂　ＦＰ２％ローム粒２％炭５％
3　暗褐色　中締中粘細砂　ロームブロック３０％
4　黄褐色　中締弱粘細砂ローム

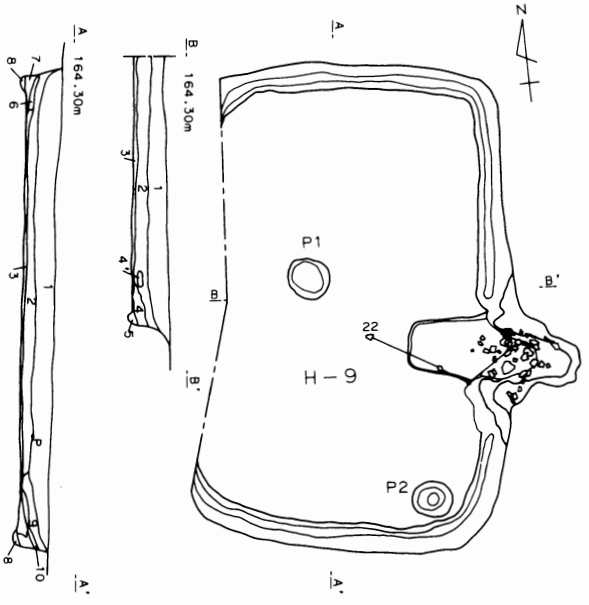
第９図　１・２号住居跡・カマド



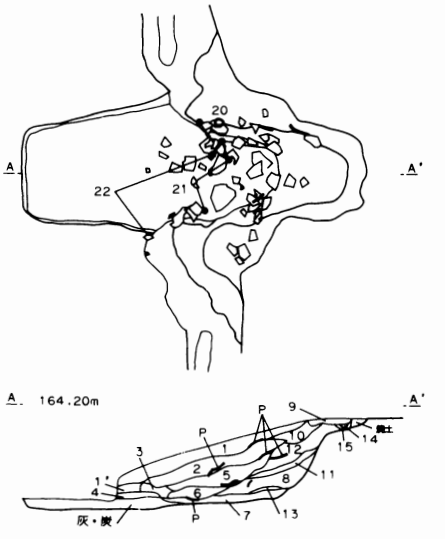
4号住居跡セクション
1　褐色　　高締弱粘細砂　ＣＰ２０％遺物粒１０％
2　暗褐色　中締弱粘コロイド細砂　小ＣＰ１５％
3　黒褐色　中締中粘微砂　ＣＰ３％
4　暗褐色　中締中粘微砂　小ＣＰ３％
5　黄褐色　中締中粘細砂
6　黒褐色　中締中粘細砂　ＣＰ５％ローム粒３０％
7　黒褐色　中締中粘細砂　ローム粒・遺物粒５％
8　黄褐色　中締弱粘細砂　ローム５０％



4号住居跡　カマドセクション
1　暗褐色　中締弱粘細砂　ＦＰ３％焼土粒・遺物粒あり
2　黒褐色　中締弱粘細砂　小ＦＰ２％灰７％

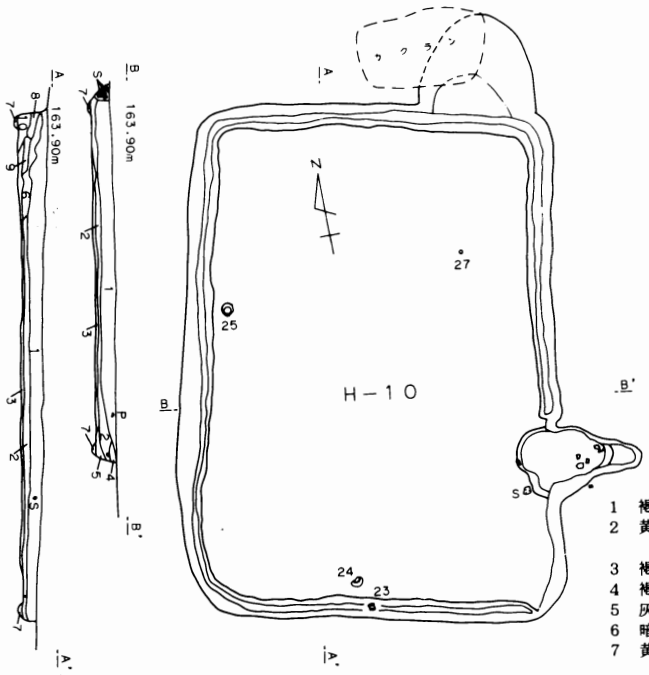


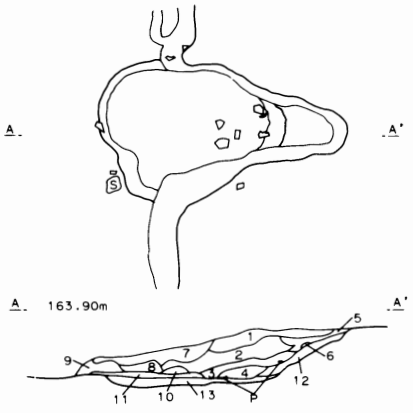
9号住居跡セクション
1　暗褐色　中締弱粘微砂　粗粒ＢＰ３％ＣＰ・ＦＰ５％ローム粒１％焼土粒１％
2　褐色　中締弱粘細砂　小ＢＰ５％ＣＰ・ＦＰ３％ローム粒１％焼土粒３％
3　暗褐色　弱締弱粘細砂　ローム粒１％炭化粒１％
4　灰褐色　弱締弱粘細砂　ＦＰ３％焼土粒１％
4'　暗橙褐色　中締弱粘細砂　焼土ブロック
5　暗赤褐色　弱締弱粘粗砂　焼土塊・ローム粒を３０％
6　黄褐色　弱締弱粘細砂　ローム
7　暗黄褐色　弱締弱粘細砂
8　暗黄褐色　弱締弱粘細砂　ロームと砂の5/5
9　暗灰褐色　中締中粘細砂　焼土粒３０％ローム粒５％ＢＰ１％
10　黒褐色　中締中粘細砂　ＦＰ３％ＣＰ１％



9号住居跡　カマドセクション
1　褐色　中締弱粘細砂　ＢＰ２％ＦＰ２％ローム粒
　５％焼土粒・小礫を含む
1'　褐色　中締弱粘細砂　ＢＰ２％ＦＰ１％焼土粒１％
2　褐色　中締中粘細砂　ＢＰ２％ＦＰ１％ローム粒
　３％遺物粒２％
3　黄褐色　中締弱粘細砂　ロームブロック
4　暗褐色　中締弱粘細砂　小ＢＰ３％
5　灰褐色　中締弱粘細砂　ＢＰ２％焼土粒５％
6　暗橙褐色　中締弱粘微砂　焼土ブロックに５を７％
7　灰褐色　中締中粘微砂　ＢＰ１％焼土粒３％
8　褐色　中締弱粘細砂　焼土粒５％
9　黄灰褐色　中締中粘粗砂　ＢＰ２％ＦＰ１％
10　灰色　中締弱粘細砂　ＢＰ２％焼土粒３％
11　暗褐色ブロック
12　灰褐色　中締弱粘細砂　ＢＰ２％焼土粒５％
13　橙褐色焼土ブロック
14　褐色　弱締弱粘細砂　ＦＰ２％焼土粒２％
15　暗赤褐色　中締弱粘細砂　焼土１０％

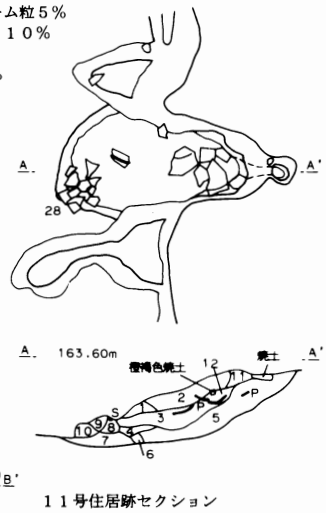
第10図　４・９号住居跡・カマド



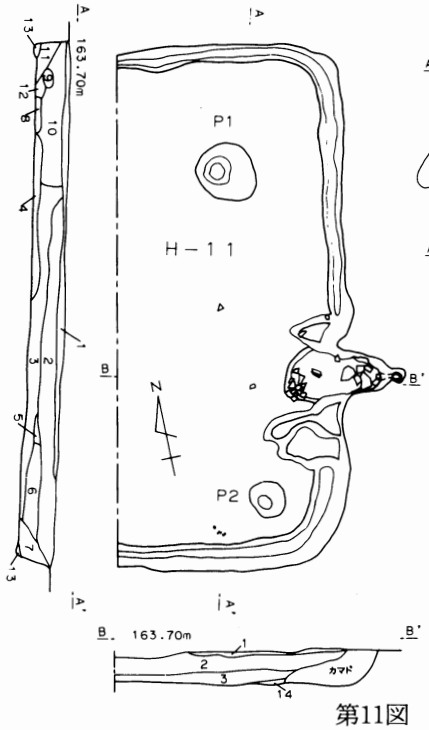


10号住居跡　カマドセクション
1　褐色　高締弱粘細砂　ＢＰ１％ローム粒３％
2　黄褐色　中締弱粘細砂　ＢＰ１％ＦＰ２％焼土粒２％ローム粒１％
3　褐色　中締弱粘細砂　ＦＰ１％焼土粒２％炭化粒１％
4　褐色　弱締中粘細砂　焼土粒２％ＦＰ１％黒色灰１０％
5　灰褐色　高締中粘細砂　ＢＰ２％ＦＰ１％焼土粒・塊７％
6　暗灰褐色　中締弱粘微砂　焼土粒２％
7　黄褐色　中締弱粘細砂　ＢＰ３％焼土粒１％黄色ロームブロック７０％
8　灰褐色　中締弱粘細砂　ＢＰ１％焼土粒５％
9　黄褐色　中締弱粘細砂　ＢＰ１％ＦＰ２％焼土粒３％
10　灰褐色　弱締弱粘微砂　焼土３％
11　灰白色　弱締弱粘微砂　青灰色灰に焼土１０％
12　赤褐色　弱締弱粘微砂　焼土と灰の混在
13　暗灰色　弱締弱粘微砂　灰と炭の混在

10号住居址セクション
1　褐色　中締弱粘微砂　ＢＰ１５％ＦＰ５％ＣＰ１％遺物粒３％炭化粒１％
2　褐色　中締弱粘細砂　ＢＰ１％ＦＰ３％遺物粒１％
3　暗灰褐色　弱締弱粘細砂　ローム粒３％
4　黄褐色　高締弱粘細砂　ＦＰ・ＢＰ１％焼土粒３０％
5　暗褐色　弱締弱粘細砂　ローム粒＋砂4/6焼土粒１％
6　黒褐色　中締中粘粗砂　ＦＰ３％ローム粒１％
7　褐色　弱締弱粘細砂　小ＦＰ１％小遺物粒１％ローム粒５％
8　暗黄褐色　中締弱粘微砂　ＦＰ１％ロームブロック１０％
9　暗褐色　中締中粘微砂　ＦＰ２％ＣＰ１％小礫あり
10　暗灰褐色　中締中粘細砂　ＦＰ１％微ローム粒３％

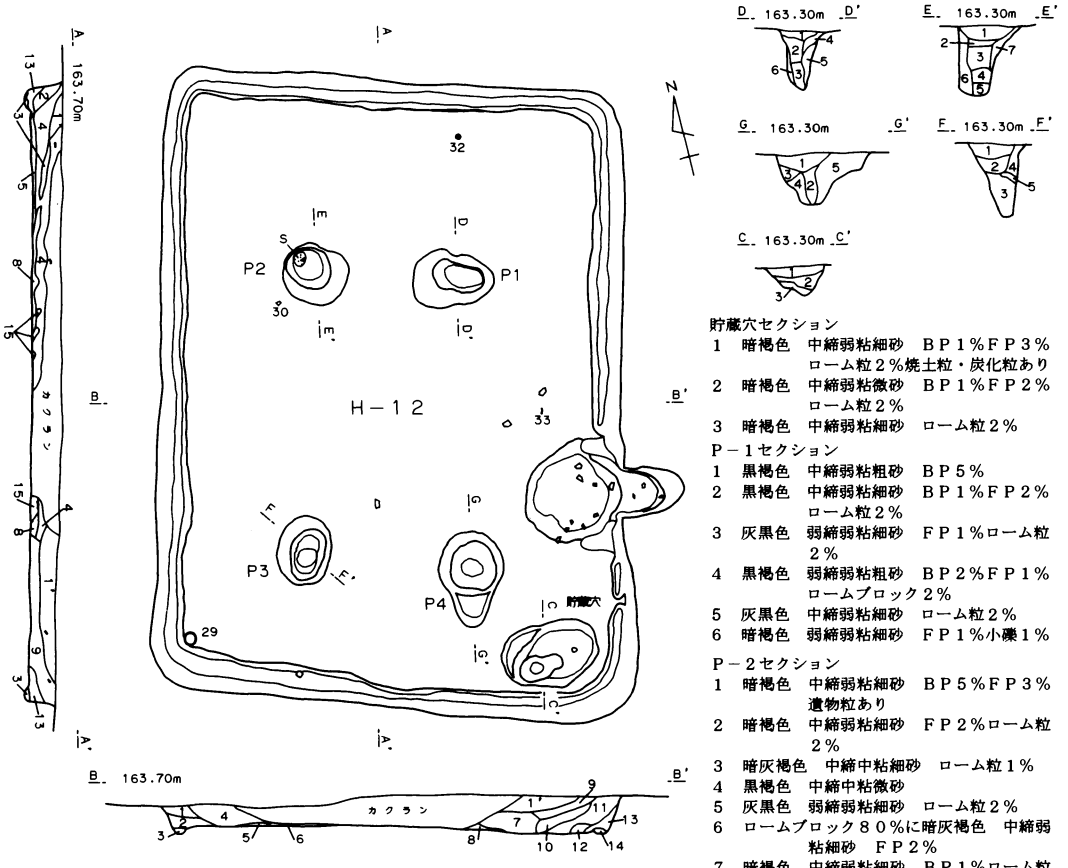


11号住居跡　カマドセクション
1　暗灰褐色　中締弱粘微砂　ＢＰ２％ローム粒３％焼土粒３％
2　灰褐色　中締弱粘細砂　ＢＰ２％ローム粒２％焼土粒３％
3　灰褐色　中締弱粘細砂　ＦＰ２％ローム粒３％焼土粒３％
4　灰白色　中締弱粘細砂　ＢＰ１％粘土と灰
5　褐色　中締中粘細砂　灰７％焼土粒３％
6　暗褐色　中締弱粘細砂　ＢＰ２％橙褐色焼土塊１０％
7　灰褐色　中締弱粘細砂　ロームブロック７％焼土塊５％
8　暗赤褐色　中締弱粘細砂　ＢＰ２％ローム粒３％焼土粒３％
9　黄褐色　中締弱粘細砂　ロームブロック
10　暗灰褐色　中締弱粘細砂と黄灰色中締弱粘ロームの4/6
11　褐色　中締弱粘細砂　ＢＰ２％小ＦＰ２％焼土粒２％
12　褐色　中締中粘微砂　ローム粒・ブロック５％



11号住居跡セクション
1　灰褐色　高締弱粘細砂　ＢＰ２％ＦＰ２％ローム粒１％
2　暗褐色　中締弱粘細砂　ＢＰ３％ＦＰ５％ローム粒３％遺物粒１％
3　褐色　中締弱粘微砂　ＢＰ３％ＦＰ３％ローム粒１％遺物粒３％炭化粒１％
4　暗褐色　中締弱粘微砂　ＢＰ１％ＦＰ３％
5　暗灰褐色　中締中粘細砂　ＢＰ１％ＦＰ２％ＣＰ１％ローム粒２％
6　褐色　中締中粘細砂　ＢＰ１％ＦＰ１％ＣＰ２％遺物粒１％ロームブロック２％
7　暗褐色　弱締弱粘細砂　ＦＰ３％ＣＰ１％遺物粒１％
8　暗褐色　中締弱粘細砂　ＢＰ２％ロームブロック１０％
9　黒褐色　中締中粘微砂　ＦＰ１％
10　暗褐色　中締中粘細砂　粗ＢＰ７％ＦＰ５％ＣＰ７％
11　暗褐色　中締弱粘細砂　ＦＰ３％小遺物粒１％
12　褐色　中締弱粘細砂　ＦＰ２％ＣＰ１％
13　黄褐色　中締中粘細砂　砂とロームの5/5
14　暗黄褐色　中締中粘細砂　ＢＰ１％ＦＰ３％ローム粒３％

第11図　10・11号住居跡・カマド



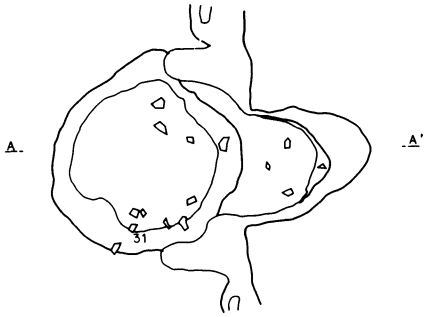
貯蔵穴セクション
1　暗褐色　中締弱粘細砂　ＢＰ１％ＦＰ３％ローム粒２％焼土粒・炭化粒あり
2　暗褐色　中締弱粘微砂　ＢＰ１％ＦＰ２％ローム粒２％
3　暗褐色　中締弱粘細砂　ローム粒２％

Ｐ－１セクション
1　黒褐色　中締弱粘粗砂　ＢＰ５％
2　黒褐色　中締弱粘細砂　ＢＰ１％ＦＰ２％ローム粒２％
3　灰黒色　弱締弱粘細砂　ＦＰ１％ローム粒２％
4　黒褐色　弱締弱粘粗砂　ＢＰ２％ＦＰ１％ロームブロック２％
5　灰黒色　中締弱粘細砂　ローム粒２％
6　暗褐色　弱締弱粘細砂　ＦＰ１％小礫１％

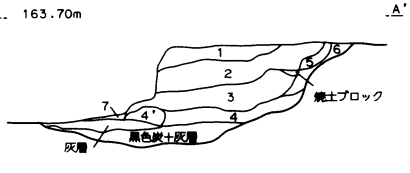
Ｐ－２セクション
1　暗褐色　中締弱粘細砂　ＢＰ５％ＦＰ３％遺物粒あり
2　暗褐色　中締弱粘細砂　ＦＰ２％ローム粒２％
3　暗灰褐色　中締中粘細砂　ローム粒１％
4　黒褐色　中締中粘微砂
5　灰黒色　弱締弱粘細砂　ローム粒２％
6　ロームブロック８０％に暗灰褐色　中締弱粘細砂　ＦＰ２％
7　暗褐色　中締弱粘細砂　ＢＰ１％ローム粒２％

Ｐ－３セクション
1　暗褐色　中締弱粘粗砂　ＢＰ３％ＦＰ３％ローム粒２％遺物粒５％
2　暗褐色　中締弱粘微砂　ＢＰ１％ＦＰ２％ローム粒３％
3　暗灰褐色　中締中粘細砂　ローム粒２％
4　暗褐色　中締弱粘細砂　ＦＰ２％ロームブロック２％
5　暗灰褐色　中締中粘粗砂　ローム粒３％

Ｐ－４セクション
1　黒褐色　中締弱粘細砂　ＢＰ１％ＦＰ３％ローム粒３％焼土粒・炭化粒あり
2　灰褐色　中締中粘細砂　ローム粒３％焼土粒あり
3　暗褐色　中締中粘細砂　ＢＰ１％ＦＰ２％ローム粒３％
4　暗灰褐色　中締弱粘細砂　ＦＰ２％ローム粒２％
5　灰褐色　中締弱粘粗砂　ロームブロック２０％焼土粒・炭化粒あり

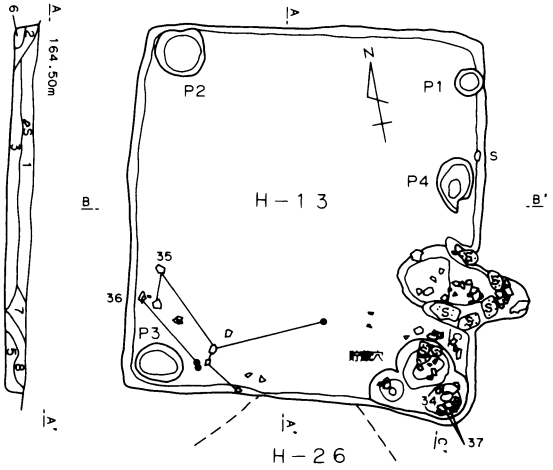


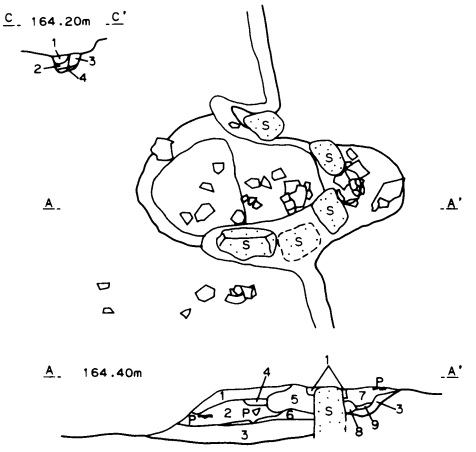
１２号住居跡セクション
1　暗褐色　中締弱粘粗砂　粗ＢＰ３％ＦＰ５％
1'　＝１にローム粒３％
2　褐色　中締中粘細砂　ＢＰ３％ＦＰ１％遺物粒・炭化粒１％
3　黄褐色　中締弱粘微砂　ＦＰ１％ロームブロック１０％
4　暗褐色　中締弱粘細砂　ＢＰ３％ＦＰ３％遺物粒・ローム粒１％
5　灰褐色　弱締弱粘細砂　ＦＰ１％遺物粒・ローム粒１％
6　明黄褐色　中締弱粘細砂　（ローム）
7　暗灰褐色　中締中粘微砂　ＢＰ５％ＦＰ５％焼土粒２０％
8　暗褐色　中締弱粘微砂　ＢＰ１％ＦＰ３％ローム粒２％
9　褐色　中締弱粘コロイド細砂　ＢＰ３％ＦＰ３％小礫・遺物粒・ローム粒を含む
10　暗赤褐色　中締弱粘細砂　ＢＰ３％ＦＰ１％焼土粒２０％
11　暗灰褐色　中締弱粘細砂　ＢＰ５％ＦＰ３％遺物粒・炭化粒１％
12　暗褐色　中締中粘コロイド細砂　ＢＰ１％ＦＰ２％
13　灰黄褐色　高締中粘細砂　ＦＰ２％ＣＰ１％細粒粘土
14　灰黄色　中締中粘細砂　ロームに炭化物１％ 13の混在
15　灰黄色ロームブロック

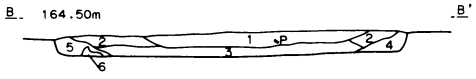


１２号住居跡　カマドセクション
1　灰褐色　中締弱粘細砂　ＢＰ５％ＦＰ３％
2　暗灰褐色　中締弱粘微砂　ＢＰ１％ＦＰ２％ローム粒２％
3　暗褐色　中締弱粘コロイド細砂　ＣＰ２％焼土粒２％
4　暗灰褐色　中締弱粘細砂　焼土粒３％
4'　暗灰褐色　中締弱粘細砂　焼土粒７％ローム粒３％
5　褐色　中締弱粘細砂　焼土ブロック７％
6　褐色　中締弱粘細砂　焼土粒２％
7　褐色　中締弱粘細砂　ＢＰ２％焼土粒３％

第12図　12号住居跡・カマド



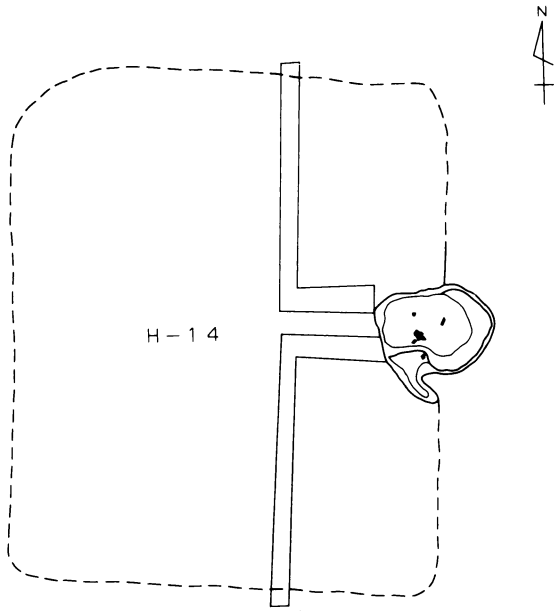


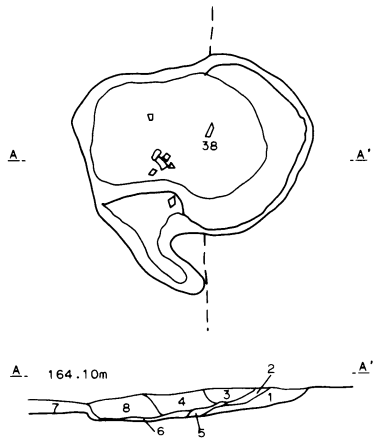


１３号住居跡セクション
1　暗褐色　中締弱粘細砂　ＦＰ５％ＢＰ２％ローム粒１％炭化粒・遺物粒あり
2　暗褐色　弱締弱粘粗砂　ＦＰ３％ＢＰ２％
3　暗褐色　中締中粘微砂　ＦＰ３％ＢＰ２％遺物粒・ロームブロック・炭化粒を含む
4　灰褐色　中締弱粘粗砂　ＦＰ１％ローム３０％混在
5　暗灰褐色　中締弱粘粗砂　ＦＰ１％
6　暗黄褐色　中締弱粘細砂　ロームブロック
7　暗褐色　中締中粘粗砂　ＢＰ２％ＦＰ１％ロームブロック３０％
8　暗灰褐色　中締中粘粗砂　ＢＰ１％白色粘土２０％ロームブロック７％

１３号住居跡　カマドセクション
1　褐色　中締弱粘コロイド細砂　ＢＰ２％焼土粒２％炭化粒１％小礫あり
2　灰褐色　中締弱粘細砂　ＦＰ２％焼土粒１％
3　暗灰褐色　弱締中粘微砂　焼土Ｂ３％
4　暗灰褐色　弱締弱粘微砂　ＦＰ２％焼土粒１％
5　灰褐色　弱締弱粘細砂　ＦＰ３％
6　灰白色　弱締中粘細砂　焼土粒３％
7　褐色　中締弱粘細砂　ＢＰ１％ＦＰ１％焼土粒２％
8　橙褐色　焼土ブロック
9　褐色　中締中粘細砂　焼土２％灰２％

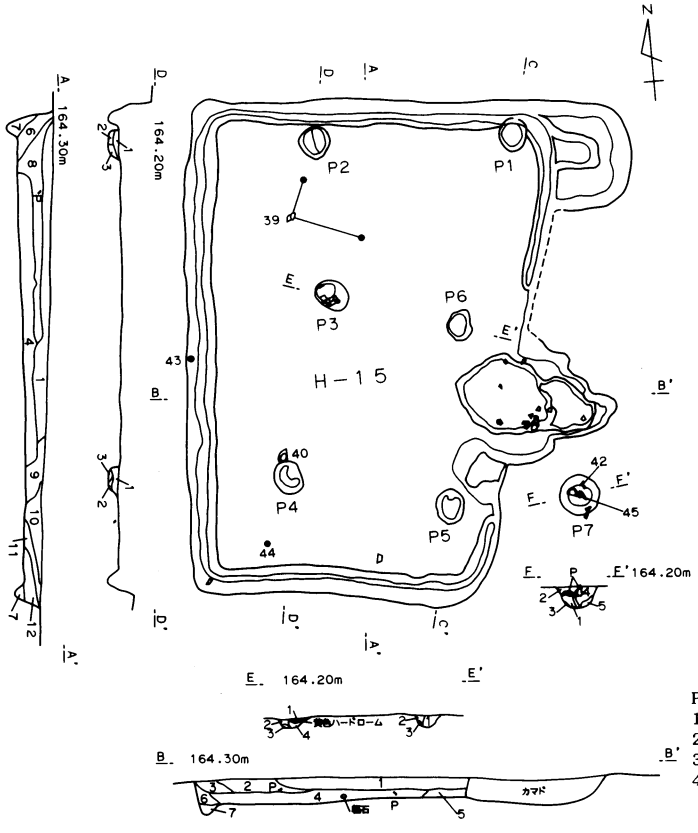
貯蔵穴セクション
1　暗灰褐色　中締弱粘細砂　ローム粒３％
2　灰褐色　中締弱粘細砂　ＦＰ２％ローム粒あり
3　灰褐色　中締弱粘微砂　焼土粒２％
4　暗褐色　中締弱粘細砂　焼土粒５％





１４号住居跡　カマドセクション
1　暗黄褐色　弱締弱粘細砂に橙色焼土ブロック・炭５０％
2　暗黄灰色　弱締弱粘細砂に焼土ブロック・粘土３０％
3　黄褐色　中締弱粘細砂に焼土粒５０％
4　黒褐色　弱締弱粘細砂に炭化粒１５％焼土粒１０％
5　黄褐色　中締弱粘微砂（ローム）焼土粒３％
6　黒灰色　中締中粘微砂　灰と砂の5/5
7　暗黄褐色　中締弱粘細砂　ＦＰ３％遺物粒１％
8　黄褐色　中締弱粘細砂に炭化粒１５％焼土粒１０％

第13図　13・14号住居跡・カマド



P－1セクション
1　暗褐色　中締中粘細砂と
　　黄褐色ローム4/6
2　暗褐色　中締弱粘細砂
　　ローム粒２％

P－2セクション
1　暗褐色　中締中粘細砂
　　ＢＰ２％
2　暗灰褐色　中締弱粘細砂と
　　ローム4/6
3　暗灰褐色　中締弱粘細砂と
　　ローム6/4

P－3セクション
1　灰褐色　中締弱粘細砂
2　褐色　中締弱粘細砂ローム
3　橙褐色　中締弱粘細砂　下部に焼土ブロック
4　黒灰色　弱締弱粘微砂とローム4/6

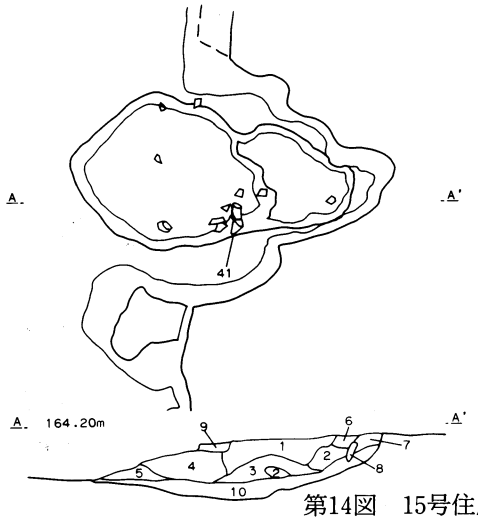
P－4セクション
1　褐色　中締弱粘細砂　ＢＰ２％
2　褐色　中締弱粘微砂とローム6/4
3　褐色　中締弱粘細砂　ハードロームブロック

P－5セクション
1　灰褐色　中締弱粘細砂
2　黄色　中締弱粘細砂
3　褐色　中締弱粘細砂　ローム粒５％
4　黄橙褐色　中締弱粘粗砂　ＹＰ混入ローム
5　褐色　中締弱粘細砂　ソフトローム
6　黄褐色　中締弱粘粗砂　ハードローム

P－6セクション
1　黄褐色　中締弱粘細砂ローム
2　褐色　弱締弱粘細砂
3　黄褐色　中締弱粘細砂　ハードロームブロック

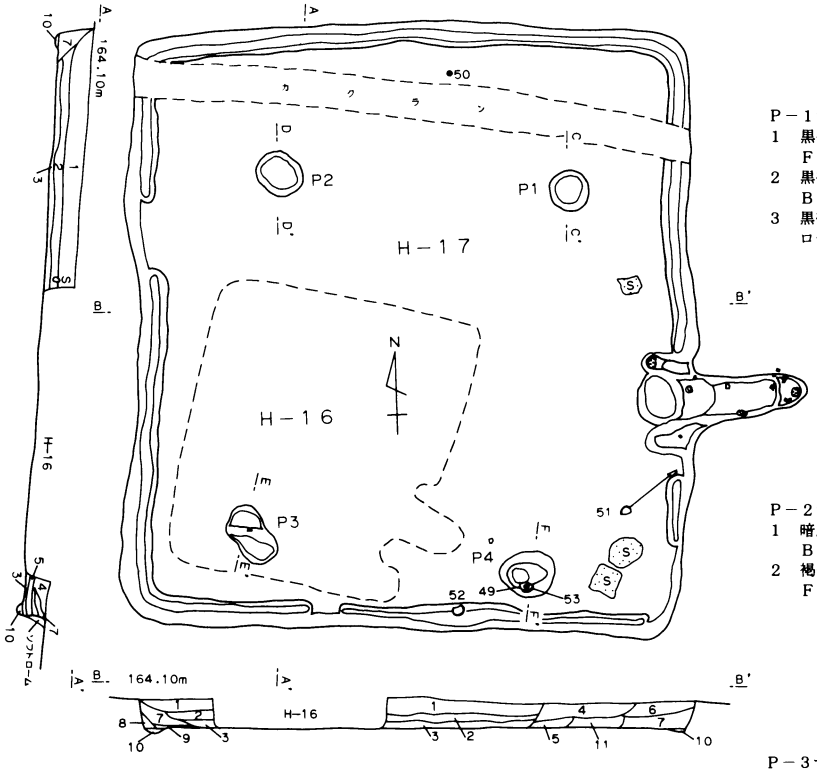
P－7セクション
1　褐色　中締弱粘細砂　ＢＰ２％
2　暗黄褐色　弱締弱粘粗砂ローム
3　黄褐色　中締弱粘細砂ローム
4　褐色　中締中粘細砂　ＢＰ２％
5　暗黄褐色　中締弱粘細砂ローム

１５号住居跡セクション
1　褐色　高締弱粘細砂　粗粒ＢＰ２０％ＦＰ３％
2　褐色　高締弱粘微砂　ＢＰ１５％ＦＰ３％炭化粒・遺物粒を含む
3　暗褐色　高締弱粘微砂　ＢＰ３％ＦＰ１０％
4　暗褐色　中締中粘細砂　ＦＰ７％ＢＰ３％遺物粒あり
5　暗褐色　弱締弱粘細砂　ＢＰ１％ＦＰ２％遺物粒あり
6　黒褐色　中締中粘微砂　小ＢＰ・小ＦＰ１０％
7　暗黄褐色　弱締中粘微砂　小ローム粒１％
8　暗褐色　中締中粘細砂　ＢＰ３％ＦＰ１０％遺物粒２％炭化粒１％
9　褐色　中締弱粘コロイド細砂　ＢＰ１％ＣＰ３％炭化粒１％
10　褐色　高締弱粘細砂　ＢＰ１％ＦＰ５％遺物粒３％
11　暗灰褐色　中締弱粘細砂　ＢＰ３％遺物粒３％
12　暗灰褐色　中締弱粘粗砂　ＢＰ１％ＦＰ３％小礫・微遺物粒を含む



１５号住居跡　カマドセクション
1　灰黄褐色　中締中粘細砂　ＢＰ１％ＦＰ１％焼土粒２％
2　橙色　中締弱粘微砂
3　灰褐色　中締弱粘細砂　焼土３％
4　黄褐色　高締中粘微砂　ＢＰ２％ＦＰ１％焼土粒３％
5　灰褐色　高締弱粘細砂　ＦＰ１％小礫１％焼土粒３％
6　橙褐色　中締弱粘細砂　ＦＰ１％焼土粒２０％
7　暗褐色　中締弱粘細砂　焼土粒７％
8　灰褐色　弱締弱粘粗砂
9　暗褐色　弱締弱粘粗砂　小礫３％
10　赤褐色　弱締弱粘細砂　焼土と灰の混在

第14図　15号住居跡・カマド



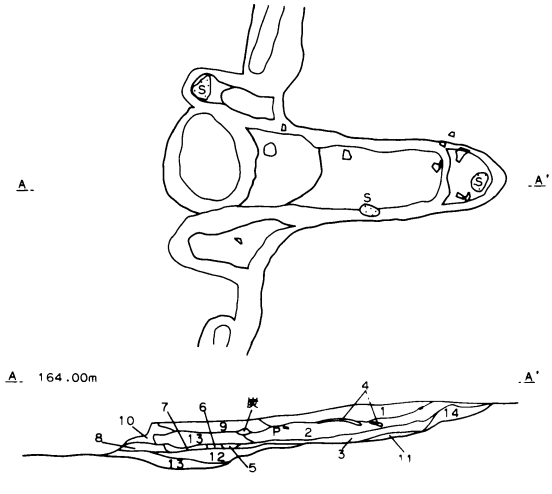
P－1セクション
1　黒褐色　中締弱粘細砂
　ＦＰ２%ローム粒２%
2　黒褐色　中締弱粘細砂
　ＢＰ２%ＦＰ１%
3　黒褐色　弱締弱粘細砂
　ローム粒２%

P－２セクション
1　暗灰褐色　中締弱粘コロイド細砂
　ＢＰ２%ＦＰ２%ローム粒５%
2　褐色　中締弱粘細砂
　ＦＰ１%ローム粒３%

P－３セクション
1　暗灰褐色　中締弱粘細砂
　ＦＰ２%ローム粒２%
2　暗褐色　中締弱粘コロイド細砂
　砂３０%ロームブロック２０%
3　暗灰褐色　中締弱粘細砂
　ＦＰ２%ローム粒２%

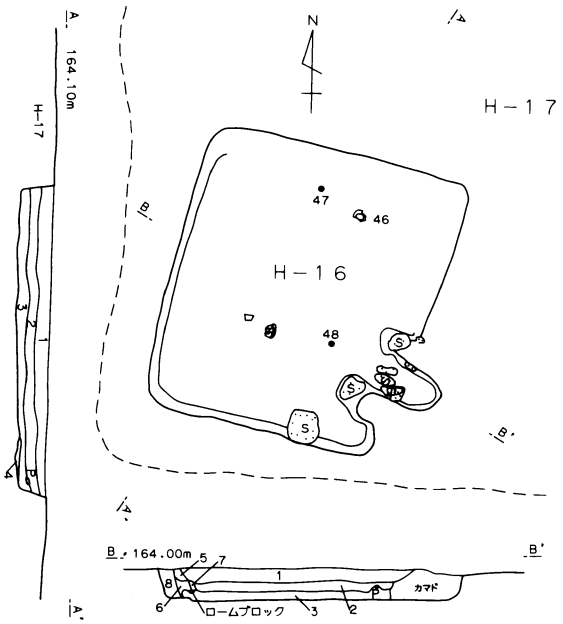
P－４セクション
1　黒褐色　中締中粘細砂　ＢＰ２%ＦＰ２%ローム粒１%
2　黒褐色　中締弱粘細砂　ＢＰ１%ローム粒２%
3　暗褐色　中締弱粘コロイド細砂　ＢＰ１%ローム粒２%

１７号住居跡セクション
1　暗褐色　中締弱粘細砂　ＢＰ１０%ＦＰ７%ローム粒１%
2　黒灰褐色　中締弱粘細砂　小ＢＰ７%ＦＰ３%遺物粒１%ローム粒１%
3　暗灰褐色　中締弱粘微砂　ＢＰ２%ＦＰ１%焼土粒・炭化粒各１%
4　暗灰褐色　中締中粘細砂　ＢＰ２%ＦＰ３%ＣＰ１%
5　暗褐色　弱締中粘細砂　ＢＰ１%ＦＰ２%
6　灰褐色　中締弱粘細砂　ＢＰ３%ＦＰ５%遺物粒２%ローム粒２%小礫１%
7　黒褐色　中締弱粘細砂　ＢＰ２%ＦＰ３%遺物粒１%
8　暗褐色　中締中粘微砂　ＢＰ１%ＦＰ１%
9　灰褐色　弱締弱粘細砂にローム粒１５%
10　黄褐色　弱締弱粘細砂　砂とローム6/4
11　暗灰褐色　中締弱粘粗砂　ＢＰ１%ＦＰ３%炭化粒３%

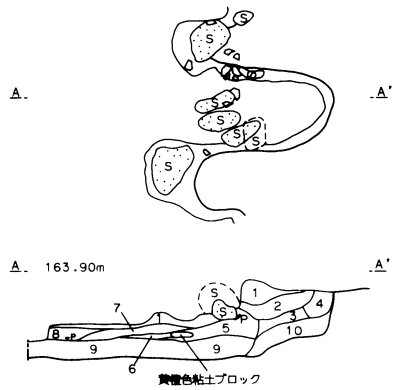


１７号住居跡　カマドセクション
1　暗灰褐色　中締弱粘細砂　ＢＰ３%焼土粒２%
2　暗灰褐色　中締弱粘コロイド細砂　ＢＰ１%ＦＰ２%
3　灰褐色　弱締弱粘コロイド細砂　ＦＰ２%焼土粒２%　灰層
4　赤褐色　中締弱粘細砂　焼土ブロック
5　灰褐色　中締中粘微砂　ＢＰ２%ローム粒１%と灰の6/4
6　暗灰褐色　中締弱粘細砂　灰３０%焼土粒１０%
7　暗褐色　中締弱粘細砂　ＦＰ２%焼土粒１５%白色灰５%
8　灰褐色　中締弱粘粗砂　ＢＰ５%灰１０%
9　暗灰褐色　中締弱粘細砂　ＢＰ３%ローム粒２%焼土粒２%
10　9に焼土ブロック４０%
11　暗褐色　中締弱粘細砂　ＢＰ１%炭化物・焼土１%
12　青灰色　弱締弱粘微砂　灰層
13　黒褐色　弱締弱粘細砂　焼土粒・炭化粒３%
14　灰褐色　中締中粘細砂　ＢＰ３%・焼土粒１%

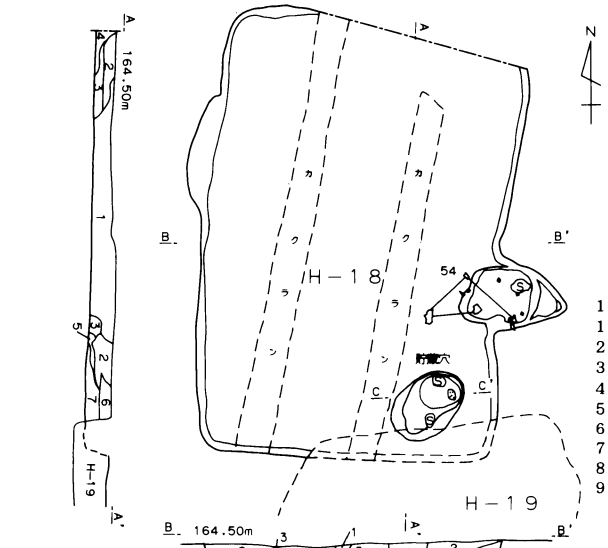
第15図　17号住居跡・カマド



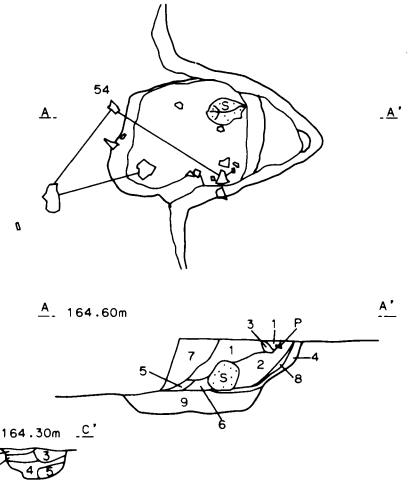
16号住居跡セクション
1　暗褐色　高締弱粘粗砂　ＢＰ７％ＦＰ１０％遺物粒・炭化粒・ローム粒各１％
2　褐色　中締弱粘細砂　ＢＰ３％ＦＰ・ＣＰ７％炭化粒・小遺物粒１％ローム粒２％
3　暗灰褐色　中締弱粘細砂　ＦＰ３％ＢＰ・ＣＰ各１％ローム粒・小遺物粒・炭化粒１％
4　暗灰褐色　中締中粘微砂　ＣＰ・ＦＰ・ＢＰ各１％焼土ブロック３％
5　褐色　弱締弱粘コロイド細砂　ＦＰ３％
6　暗褐色　中締弱粘細砂　ＦＰ３％ＢＰ１％
7　暗灰褐色　中締弱粘コロイド粗砂　ＦＰ１％
8　暗褐色　中締弱粘細砂　ＢＰ１％ＦＰ３％遺物粒１％



16号住居跡　カマドセクション
1　暗褐色　中締弱粘細砂　ＦＰ２％焼土粒２％
2　暗赤褐色　中締弱粘細砂　焼土粒５％凝灰岩片を含む
3　暗灰褐色　弱締弱粘細砂　焼土粒３％
4　暗褐色　中締弱粘細砂　ＣＰ３％焼土粒２％
5　黒色　弱締中粘微粒炭層　小ＦＰ１％焼土粒２％
6　灰黒色　中締弱粘微砂　炭を６％含む
7　灰褐色　中締中粘微砂　ＢＰ２％ＦＰ１％炭化粒２％
8　灰褐色　中締弱粘粗砂　ＢＰ５％ＦＰ１％炭化粒２％
9　青灰色　弱締弱粘微砂　灰と炭化物の混在
10　黒褐色　中締弱粘細砂　灰と炭化物に３が混在



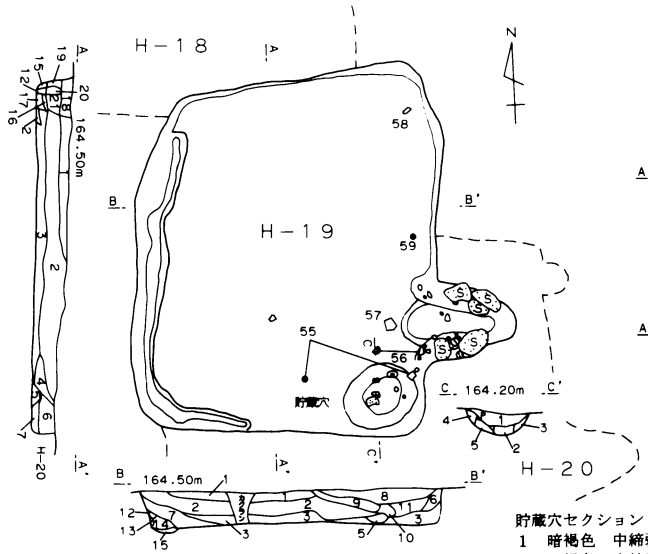
18号住居跡セクション
1　攪乱層
2　暗褐色　中締弱粘細砂　ＢＰ・ＦＰ３０％ローム粒あり
3　黒褐色　中締弱粘微砂　微粒ＢＰ・ＦＰ７％ローム粒あり
4　暗褐色　中締弱粘微砂　ＢＰ・微粒ＦＰ１％ローム粒３％
5　黄褐色　中締中粘細砂　ソフトローム
6　黒褐色　中締中粘粗砂　ＢＰ３％ＦＰ５％ロームブロック・遺物粒あり
7　暗褐色　中締中粘細砂　ＦＰ３％ＢＰ１％焼土粒１％ロームブロックあり

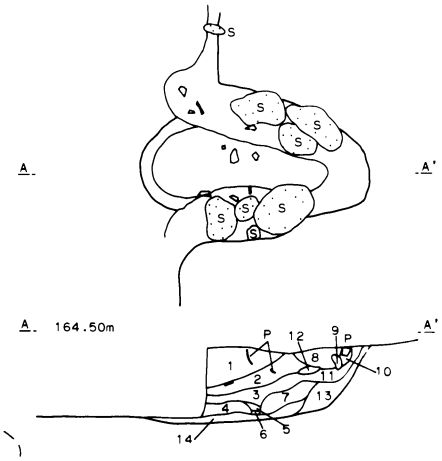


18号住居跡　カマドセクション
1　黒褐色　中締弱粘細砂　ＢＰ１％ロームブロック・焼土粒１％
2　暗黄褐色　中締弱粘細砂　焼土粒１％
3　暗赤橙色　高締弱粘焼土ブロック
4　褐色　弱締弱粘微砂　焼土粒３％
5　赤褐色　焼土ブロック
6　黄褐色　中締中粘細砂　ロームブロック
7　暗黄褐色　中締弱粘細砂　ＢＰ３％ローム粒５％小礫を含む
8　褐色　弱締中粘細砂
9　黒灰色　弱締弱粘微砂　炭化物と灰の混在

貯蔵穴セクション
1　黒灰色　中締弱粘粗砂　ＢＰ３％ローム粒・遺物粒２％
2　暗黄褐色　中締弱粘細砂　ＢＰ１％ＦＰ３％遺物粒２％
3　暗褐色　中締弱粘微砂　ロームブロック５％焼土粒３％炭化粒あり
4　暗褐色　弱締弱粘細砂　ローム粒３％礫あり
5　暗褐色　中締弱粘細砂　ローム粒３％

第16図　16・18号住居跡・カマド





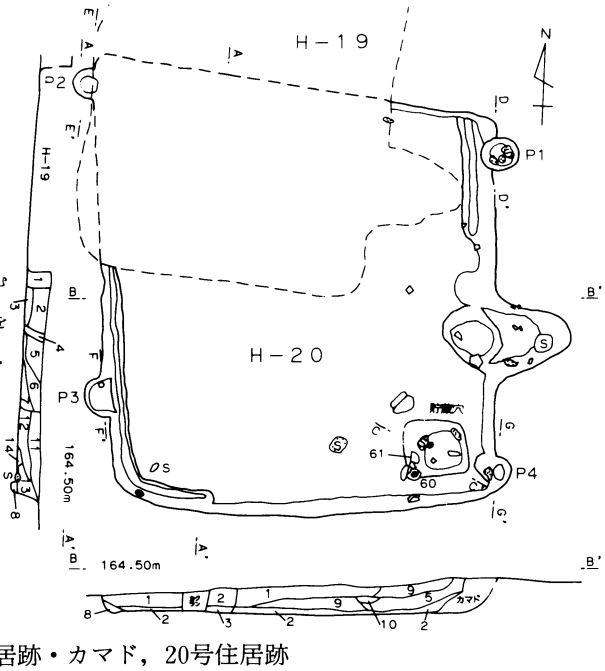
19号住居跡セクション
1　灰褐色　中締弱粘粗砂　BP1%FP3%小礫5%遺物粒1%炭を含む
2　暗褐色　弱締弱粘細砂　BP7%FP3%ローム粒を含む
3　黒褐色　中締弱粘コロイド細砂　BP3%微遺物粒3%
4　暗褐色　中締弱粘コロイド細砂　FP3%遺物粒・小礫・ローム粒・BPを含む
5　暗褐色　中締中粘微砂　微FP1%
6　褐色　高締弱粘細砂　BP5%
7　褐色　中締弱粘粗砂　小BP3%ローム粒3%
8　暗褐色　中締弱粘細砂　BP3%FP5%遺物粒あり
9　灰褐色　中締弱粘細砂　BP3%焼土粗粒20%
10　暗灰褐色　中締中粘細砂　BP2%FP1%焼土ブロック
11　暗褐色　弱締弱粘細砂　BP1%FP3%
12　黄褐色　弱締弱粘細砂（砂質ローム）
13　灰黄色ロームブロック
14　褐色　中締弱粘細砂　BP2%FP1%ローム粒3%
15　褐色　弱締弱粘細砂　FP1%
16　暗灰褐色　弱締中粘微砂FP・BP1%微遺物粒1%
17　灰褐色　中締中粘コロイド細砂
18　暗灰褐色　中締弱粘細砂　BP・FP・CP1%遺物粒1%
19　暗灰褐色　中締中粘微砂　BP・FP1%
20　暗灰褐色　弱締弱粘コロイド細砂　BP・微遺物粒あり
21　灰褐色　高締中粘細砂　FP3%BP・遺物片あり

20号住居跡セクション
1　暗褐色　弱締弱粘コロイド細砂　小BP3%ローム粒3%
2　暗褐色　中締弱粘粗砂　BP3%FP5%遺物粒を含む
3　褐色　中締弱粘細砂　BP3%ローム粒30%
4　褐色　中締弱粘微砂　上部にBP3%下部にFP1%ローム粒1%
5　褐色　中締弱粘微砂　BP3%FP5%
6　褐色　中締弱粘コロイド細砂　小FP5%ローム粒1%BP1%炭化粒あり
7　黄褐色　中締中粘微砂　小ローム粒3%ロームブロックを含む
8　暗褐色　弱締弱粘微砂　FP3%ローム粒3%
9　灰褐色　中締弱粘細砂　FP3%BP・ローム小B・遺物粒を含む
10　黒灰褐色　中締弱粘粗砂　BP1%FP7%ローム粒20%・炭化粒3%
11　暗褐色　中締弱粘粗砂　BP3%FP2%ローム粒3%
12　暗褐色　中締弱粘細砂　BP1%FP2%ロームブロック5%
13　黒褐色　中締弱粘細砂　BP5%FP2%
14　暗褐色　中締弱粘粗砂　ローム粒3%

貯蔵穴セクション
1　暗褐色　中締弱粘細砂　BP2%FP2%ローム粒3%
2　暗褐色　中締弱粘細砂　小BP2%小FP3%ローム粒3%
3　黒灰褐色　中締弱粘細砂　小FP3%ローム粒2%
4　灰黄褐色　中締中粘微砂　ロームブロック7%

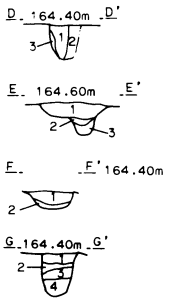
貯蔵穴セクション
1　暗褐色　中締弱粘細砂　BP3%ローム粒2%
2　灰褐色　中締弱粘細砂　FP2%ローム粒5%炭化粒2%焼土粒あり
3　暗黄灰色　中締弱粘細砂　ローム粒3%
4　暗灰褐色　弱締弱粘細砂　ローム粒2%焼土粒あり
5　黄灰色　高締弱粘粗砂　ハードロームブロック

19号住居跡　カマドセクション
1　灰褐色　中締弱粘細砂　BP1%FP3%ローム粒1%焼土粒2%
2　黒褐色　中締弱粘細砂　FP2%小礫3%ローム粒・遺物粒1%
3　暗褐色　中締弱粘コロイド細砂　小BP・小FP1%小礫1%焼土粒1%
4　灰褐色　弱締弱粘細砂　焼土粒7%炭10%
5　暗褐色　中締弱粘細砂　FP1%焼土粒3%
6　灰褐色　中締弱粘細砂　焼土粒7%灰20%
7　暗灰褐色　中締弱粘コロイド細砂　BP1%FP2%焼土粒1%
8　黄褐色　中締中粘細砂　BP1%FP1%焼土粒3%
9　黒褐色　弱締弱粘コロイド細砂　焼土粒3%
10　黒褐色　中締弱粘細砂　焼土粒3%炭化粒2%
11　灰褐色　中締弱粘微砂　焼土粒5%
12　橙色焼土ブロック
13　褐色　中締弱粘細砂　BP1%焼土粒10%
14　黒褐色　中締弱粘細砂　炭と灰の混在



第17図　19号住居跡・カマド，20号住居跡

２０号住居跡　カマドセクション
1　暗灰褐色　中締弱粘細砂　ＢＰ２％ＦＰ２％ローム粒５％
2　灰褐色　中締弱粘細砂　ＢＰ１％ＦＰ２％ローム粒２％
3　黄褐色　中締弱粘細砂　ＣＰ２％焼土粒３％
4　灰黄褐色　中締弱粘細砂　ローム焼土粒２％炭化粒１％
5　灰褐色　中締弱粘細砂　ＢＰ・ＣＰ各１％焼土粒２％
6　暗灰黄褐色　中締弱粘微砂　ロームと焼土塊・灰の混在
7　４に暗橙褐色焼土を２０％
8　暗灰色　弱締弱粘コロイド細砂　ロームブロック１０％
焼土粒２％炭化粒２％
9　黒灰色　中締中粘微砂（灰層）
10　暗褐色　中締弱粘細砂　ＦＰ２％焼土粒２％

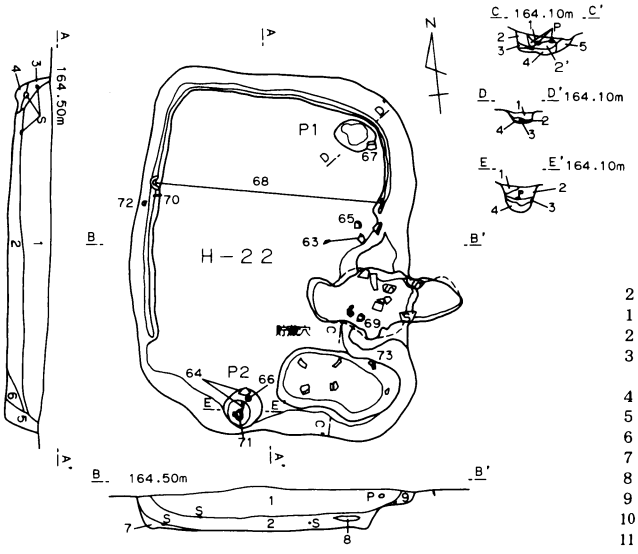


Ｐ－１セクション
1　暗褐色　中締弱粘細砂　ＦＰ２％ローム粒３％
2　暗褐色　中締弱粘細砂　ＢＰ２％ＦＰ１％
3　暗褐色　中締弱粘細砂　ＦＰ１％ローム粒２％

Ｐ－２セクション
1　暗灰褐色　中締弱粘細砂　ＢＰ５％ＦＰ２％遺物粒あり
2　灰褐色　中締弱粘細砂　小ＢＰ３％
3　灰黄褐色　弱締弱粘細砂　ＢＰ２％

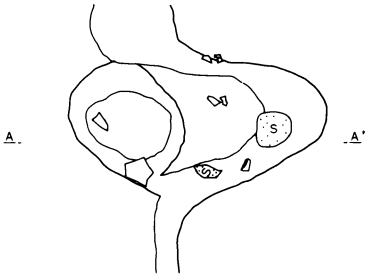
Ｐ－３セクション
1　灰褐色　中締弱粘細砂　ＢＰ３％ローム粒２％
2　暗灰褐色　中締弱粘コロイド微砂　ＢＰ３％ローム粒２％

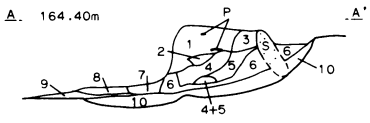
Ｐ－４セクション
1　暗灰褐色　中締弱粘細砂　ＢＰ５％
2　暗黄褐色　中締弱粘細砂　ＢＰ２％ローム粒３％
3　暗褐色　中締中粘細砂　ＢＰ１％ＦＰ２％
4　暗褐色　弱締弱粘細砂　ＦＰ３％ローム粒２％

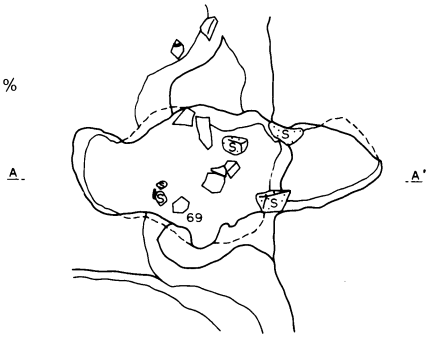


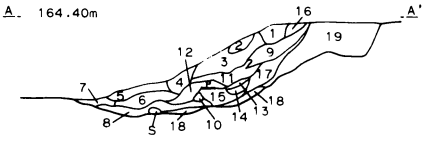
２２号住居跡セクション
1　暗褐色　中締弱粘粗砂　ＦＰ３％ＢＰ１％礫・遺物粒・ローム
ブロックを含む
2　褐色　中締弱粘細砂　小ＦＰ・ＢＰ１％小礫・ローム粒を含む
3　黒褐色　中締弱粘微砂　小ＦＰ１％遺物・礫を含む
4　暗灰褐色　中締弱粘細砂
5　暗黄褐色　中締中粘細砂　ＢＰ１％ロームブロック１０％
6　黒褐色　中締中粘微砂　微ＢＰ１％遺物粒・ローム粒・炭化粒あり
7　褐色　弱締弱粘細砂　ローム粒１％礫を含む
8　暗褐色　中締弱粘細砂　ＦＰ３％ローム粒１％
9　灰褐色　中締弱粘細砂　砂質ローム・礫あり

貯蔵穴セクション
1　黒灰色　中締弱粘細砂　ローム粒３％焼土粒２％下部に２㎝の炭層
2　灰褐色　中締弱粘微砂　焼土粒７％ローム粒３％
2'　黒灰色　弱締中粘微砂　灰と黄色ロームのラミナ３枚
3　黄色　中締中粘ローム
4　黄灰色　弱締弱粘細砂ロームと黄灰褐色　中締弱粘細砂砂質ロームの6/4
5　暗褐色　弱締弱粘細砂　ＢＰ１％ローム粒２％







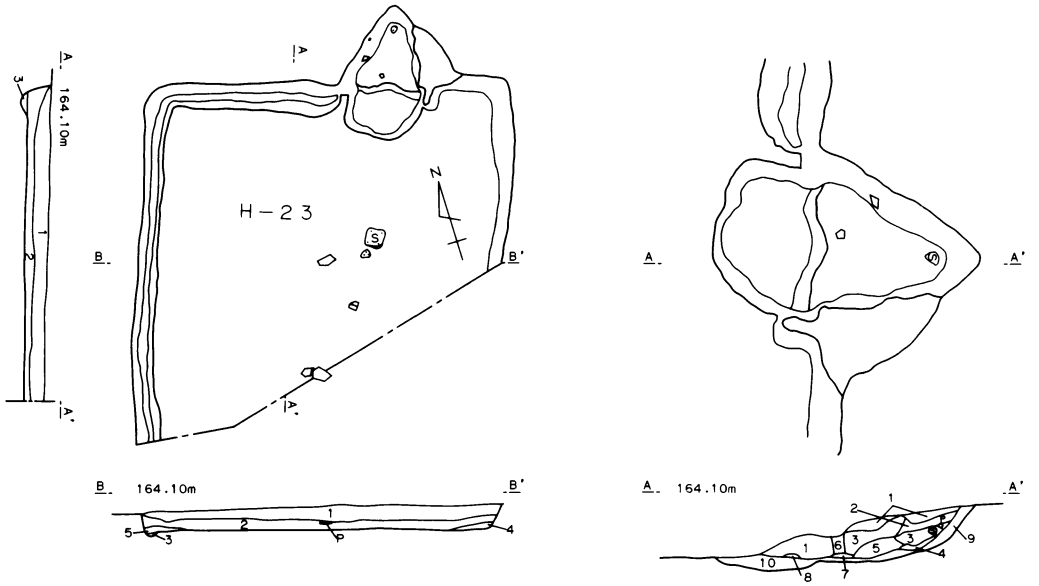


２２号住居跡　カマドセクション
1　灰褐色　中締弱粘細砂　ＣＰ２％焼土粒２％ローム粒２％
2　灰色　中締弱粘コロイド細砂　ローム粒７％炭化粒１％
3　灰黄色　中締弱粘細砂ロームに暗褐色弱締弱粘細砂１０％
焼土ブロック５％
4　黒灰褐色　中締弱粘微砂　ＦＰ２％ローム粒３％
5　灰褐色　中締弱粘細砂　ＦＰ２％ロームブロック３％
6　黄褐色　中締弱粘細砂　ハードローム
7　暗褐色　中締弱粘細砂　ロームブロック２％
8　黒灰色　中締弱粘微砂　焼土粒２％
9　暗灰褐色　中締弱粘細砂　ＢＰ１％ＦＰ１％
10　暗橙褐色　中締弱粘細砂　焼土ブロック
11　灰褐色　弱締弱粘細砂　焼土粒３％灰３％
12　黄灰色　弱締弱粘細砂　焼土粒３％
13　灰白色　弱締中粘微粒　灰層
14　暗褐色　弱締弱粘細砂　焼土粒２％
15　褐色　弱締弱粘細砂　焼土粒２％
16　褐色　弱締弱粘細砂　ＢＰ２％焼土粒２％
17　灰褐色　弱締弱粘細砂　灰と炭化物≒１１
18　黒灰色　弱締弱粘微砂　灰と炭化物
19　褐色　中締弱粘細砂　ＢＰ・ＦＰ１％焼土粒３％
炭化物２％灰３％

Ｐ－１セクション
1　灰黄褐色　弱締弱粘粗砂　ローム粒５％
2　黄灰色　中締弱粘細砂
3　２に炭化物を１０％含む
4　暗黄褐色　中締弱粘細砂　ローム粒３％

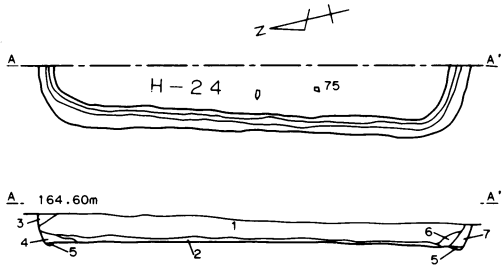
Ｐ－２セクション
1　黒灰褐色　弱締弱粘粗砂　ローム粒３％
2　黒灰褐色　中締弱粘粗砂　ＦＰ３％ローム粒２％
3　暗黄褐色　弱締弱粘細砂　ローム粒３％
4　暗黄灰色　弱締弱粘細砂　ロームブロック３％

第18図　20号住居跡カマド・柱穴，22号住居跡カマド



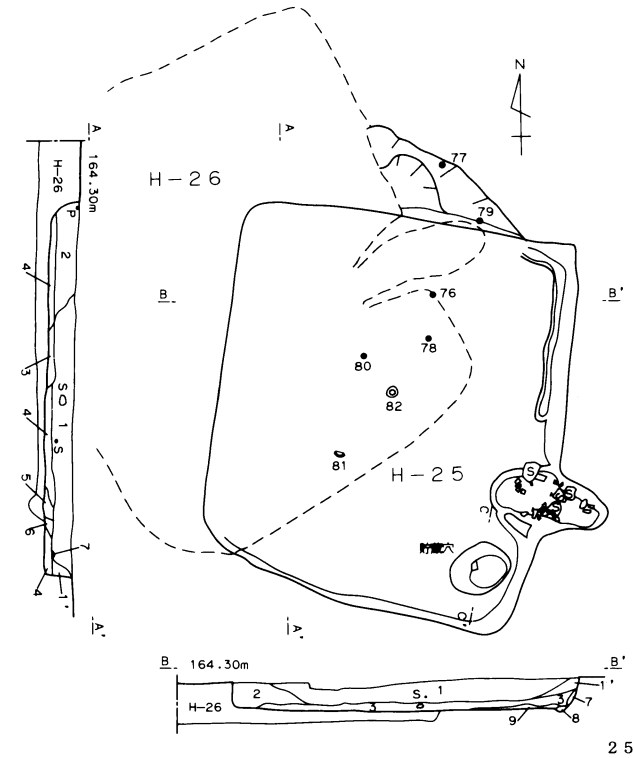
２３号住居跡セクション
1　暗褐色　中締弱粘粗砂　ＢＰ３％ＦＰ３％
2　黒褐色　中締弱粘細砂　ＢＰ３％ローム粒
3　暗褐色　弱締弱粘細砂　小ＦＰ２％
4　黒褐色　中締中粘微砂　ＦＰ１％黄橙色粘土ブロック２０％
5　黄褐色　弱締弱粘細砂　砂質ロームブロックと砂

２３号住居跡　カマドセクション
1　暗褐色　中締弱粘細砂　ＢＰ・ＦＰ１％焼土粒２％
2　褐色　中締弱粘細砂　ＢＰ１％ＦＰ２％
3　暗褐色　中締弱粘細砂　ＢＰ１％ＦＰ２％焼土粒５％
4　暗褐色　中締弱粘細砂　ＢＰ２％ＦＰ１％焼土粒２％
5　黄褐色　弱粘微砂にロームブロック２０％混在
6　暗灰褐色　中締中粘細砂　ＦＰ３％焼土粒２％ロームブロック３％
7　暗褐色　弱締弱粘コロイド細砂
8　黒褐色　弱締弱粘微砂　炭３０％焼土粒５％
9　灰褐色　中締弱粘細砂　ＦＰ３％焼土粒１％
10　黒灰色　弱締弱粘細砂　炭化粒と灰の混在



２４号住居跡セクション
1　黒褐色　中締弱粘コロイド細砂　ＢＰ５％ＦＰ３％ローム粒・小礫２％桑根あり
2　黒褐色　中締弱粘細砂　ＢＰ２％ＦＰ３％
3　１と暗褐色　弱締弱粘細砂　ソフトロームの3/7
4　暗灰褐色　弱締弱粘細砂　ＦＰ３％ローム粒２％とソフトロームの4/6
5　灰黄色　弱締弱粘粗砂と暗褐色　弱締弱粘細砂の7/3
6　暗灰褐色　弱締弱粘細砂　ＢＰ１％ＦＰ２％ローム小粒１％
7　褐色　中締弱粘細砂　小ＦＰ３％小ローム粒２％

第19図　23号住居跡・カマド，24号住居跡



25号住居跡セクション
1 褐色 中締中粘細砂 ＢＰ３％ＦＰ３％ＣＰ２％遺物粒・ローム粒１％
1' 褐色 中締弱粘微砂 ＢＰ３％ＦＰ３％ＣＰ２％
2 褐色 中締中粘粗砂 ＢＰ３％ＦＰ７％ＣＰ１％
3 褐色 中締弱粘粗砂 小ＢＰ・ＦＰ１％遺物粒・炭化粒１％
4 褐色 中締中粘細砂 ＢＰ１％ＦＰ１％ＣＰ２％遺物粒１％
5 灰褐色 中締中粘微砂 ＢＰ・小ＦＰ各１％ロームブロック２０％
6 灰褐色 弱締弱粘細砂 ＢＰ１％ローム粒１％下部黄色ローム
7 明褐色 中締中粘細砂 ローム
8 黄灰色 中締中粘粗砂 ローム粒１５％
9 暗褐色 中締中粘微砂 ローム１５％

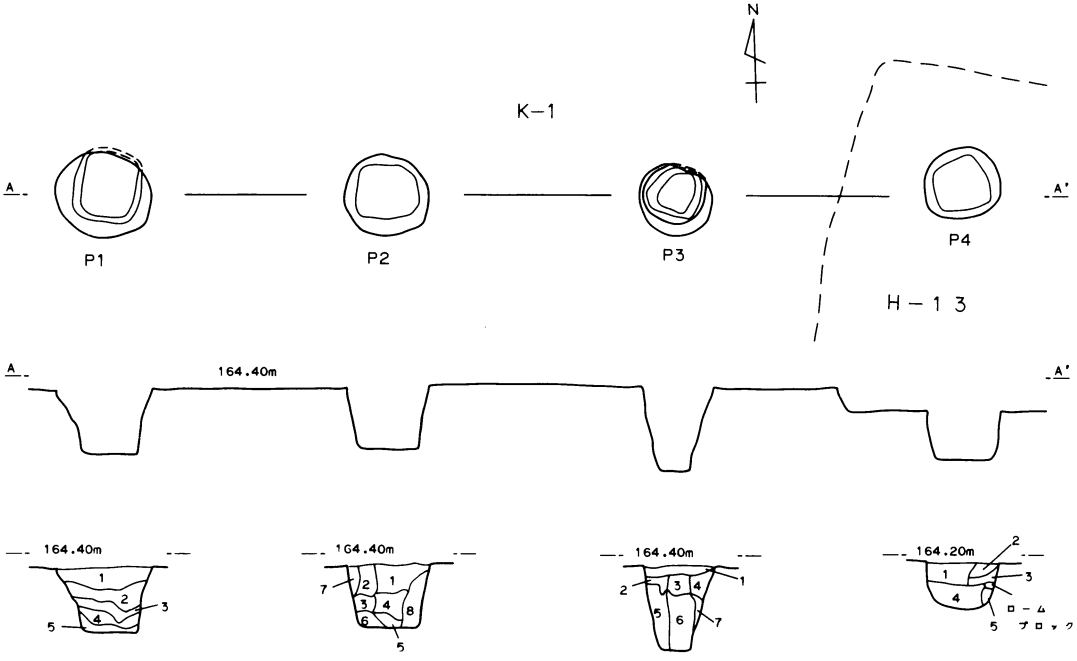
25号住居跡 カマドセクション
1 褐色 中締弱粘細砂 ＢＰ２％ＦＰ２％遺物粒２％
ローム粒２％
2 黄褐色 中締中粘細砂 ＦＰ２％
3 ２より粘性弱いローム粒２％遺物粒・炭化粒１％
4 暗黄褐色 中締中粘細砂 焼土粒３％
5 灰褐色 中締中粘細砂 焼土粒３％炭化粒１％ＦＰ２％
6 灰黄色 中締中粘細砂 粘土に焼土粒を含む
7 暗褐色 中締弱粘微砂 ＦＰ１％焼土粒３％
8 暗黄灰色 粘土ブロック
9 暗褐色 中締中粘細砂 ＦＰ３％遺物粒１％

25号住居跡 貯蔵穴セクション
1 暗灰褐色 中締中粘微砂 ＢＰ１％ＦＰ１％
2 暗褐色 中締中粘細砂 ＦＰ３％
3 褐灰色 中締中粘細砂 ロームブロック３％（下部炭層0.5cm）

T－1 竪穴状遺構セクション
1 灰黄褐色 中締弱粘細砂 ＢＰ２％遺物粒２％ローム粒２％
2 暗褐色 中締弱粘微砂 ＢＰ２％ロームブロック１０％礫あり
3 暗褐色 中締中粘細砂 ＢＰ２％ＦＰ３％ローム粒２％焼土粒２％灰２％
4 黒灰色 中締中粘細砂 ＦＰ２％ＣＰ１％炭２％
5 暗灰褐色 弱締弱粘微砂 ロームブロック１５％ＣＰ１％焼土粒２％炭３％
6 暗灰褐色 中締中粘微砂 ロームブロック６０％焼土粒２％炭２％
7 黒灰色 中締中粘微砂 ＣＰ１％ＦＰ２％ローム粒３％焼土粒・灰２％
8 灰黒色 弱締弱粘コロイド粗砂 ＦＰ５％ロームブロックあり
9 褐色 中締中粘細砂 灰２％
10 灰黄色 中締中粘細砂 ローム
11 灰褐色 中締中粘細砂と９の4/6
12 黒灰色 中締中粘細砂 ＣＰ１％ＦＰ２％ローム粒１％
13 暗褐色 中締中粘微砂 ローム帯５％
14 灰褐色 中締中粘細砂 ロームブロック３０％
15 褐色 中締中粘細砂 ソフトローム
16 灰褐色 中締弱粘細砂 ＢＰ３％ＦＰ５％遺物粒２％ローム粒２％炭化粒１％
17 灰褐色 中締弱粘コロイド細砂 ＢＰ１％黄色ロームブロック１０％
18 暗褐色 中締中粘細砂 ＢＰ３％ＦＰ５％遺物粒１％炭化粒１％ローム粒２％
19 暗灰褐色 中締中粘細砂 ＢＰ２％ＦＰ２％遺物粒１％
20 褐色 中締中粘細砂 ＦＰ２％ＢＰ１％ソフトローム粒５％
21 黒褐色 中締中粘コロイド粗砂 ローム粒７％ＢＰ３％ＦＰ２％
22 暗褐色 中締中粘細砂 ＢＰ２％ＦＰ１％小遺物粒２％ローム粒３％
23 暗褐色 中締弱粘細砂 ＢＰ２％ＦＰ３％
24 暗灰褐色 中締弱粘コロイド細砂 ＦＰ２％
25 暗褐色 中締弱粘コロイド細砂 小礫２％ローム粒２％

T－1 Ｐ－1セクション
1 黒灰色 弱締弱粘コロイド細砂 ＢＰ１％遺物粒２％ローム
2 灰褐色 弱締弱粘細砂 粒２％
3 暗灰色 弱締弱粘微砂 ロームブロック１０％

第20図 25号住居跡・カマド，１号竪穴状遺構

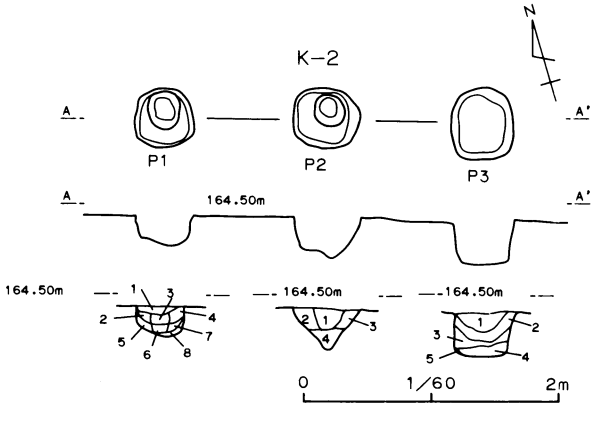


P－1　セクション
1　暗褐色　中締弱粘細砂　ＢＰ５％ロームブロック２％
2　褐色　中締弱粘細砂　ＢＰ３％ローム粒２％
3　暗褐色　中締弱粘細砂　ＢＰ２％
4　暗褐色　中締弱粘細砂　ＦＰ１％
5　暗褐色　中締弱粘粗砂　ローム粒２％ＢＰ１％

P－2　セクション
1　褐色　弱締弱粘粗砂　ＢＰ５％
2　暗褐色　中締弱粘細砂　ＢＰ７％ローム粒２％ＦＰ２％
3　黒褐色　中締弱粘細砂　ＦＰ１％
4　暗褐色　中締弱粘細砂　ＢＰ２％ローム粒１％
5　暗灰褐色　中締中粘細砂　ローム粒・ＦＰ１％
6　黄色　中締弱粘粗砂　ロームブロック
7　灰褐色　弱締弱粘細砂
8　黒褐色　中締弱粘細砂　ＢＰ３％下部にロームブロック２％

P－3　セクション
1　暗灰褐色　弱締弱粘粗砂　ＢＰ３％小礫１％ＦＰ３％
2　黒褐色　中締弱粘細砂　ＢＰ２％ＦＰ２％
3　暗灰褐色　弱締弱粘粗砂　ＢＰ２％ＦＰ１％
4　暗褐色　弱締弱粘細砂　ＢＰ５％ＦＰ２％
5　黒褐色　中締中粘微砂　ＦＰ３％
6　暗灰褐色　弱締弱粘細砂　ＦＰ３％ローム粒２％
7　暗褐色≒５

P－4　セクション
1　暗褐色　弱締中粘コロイド細砂　ＢＰ２％ＦＰ３％ローム粒２％
2　暗褐色　中締中粘細砂　ＦＰ２％ＢＰ１％ローム粒１％
3　暗褐色　中締弱粘細砂　ＦＰ１％ＢＰ１％ローム粒１％
4　黒褐色　弱締中粘コロイド細砂　ＦＰ２％ローム粒３％
5　暗褐色　弱締中粘細砂(砂質土)にローム粒３％

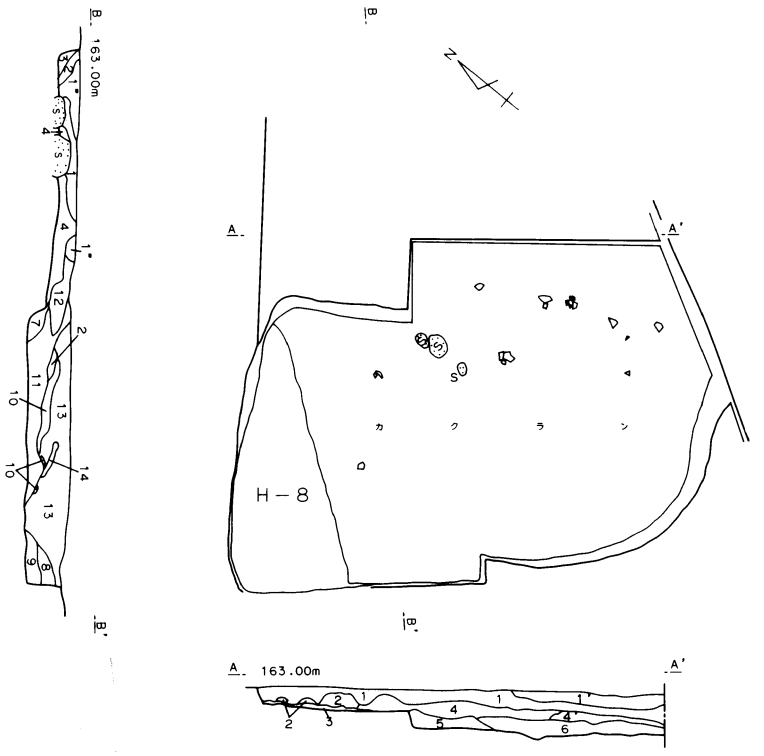


P－1　セクション
1　暗褐色　中締弱粘細砂　ＦＰ１％
2　褐色　中締弱粘細砂　ＦＰ２％
3　褐色　弱締弱粘細砂　ローム粒２％
4　褐色　中締弱粘細砂　ローム粒３％ＦＰ３％
5　褐色　弱締弱粘ソフトローム
6　暗褐色　中締弱粘細砂　ローム粒１％
7　暗褐色　中締弱粘細砂　ＢＰ２％ローム粒２％
8　褐色　中締弱粘細砂ローム

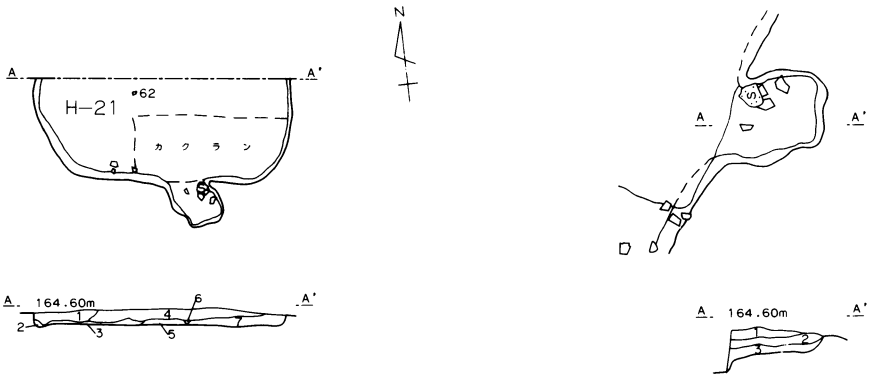
P－2　セクション
1　暗褐色　中締弱粘細砂　ＢＰ２％ＦＰ２％
2　褐色　中締弱粘細砂　ＢＰ２％
3　褐色　中締弱粘微砂　ＢＰ１％ＦＰ２％ローム粒１％
4　黒褐色　中締弱粘微砂　ＢＰ１％ＦＰ１％微小礫２％

P－3　セクション
1　暗褐色　弱締弱粘粗砂　ＢＰ３％ローム粒３％
2　暗褐色　弱締弱粘細砂　ＦＰ２％ローム粒１％
3　暗褐色　弱締弱粘コロイド細砂　ＦＰ１％ローム粒２％
4　黒褐色　中締弱粘細砂　ＦＰ・ＣＰ２％
5　灰褐色　弱締弱粘細砂と黄褐色ローム4/6

第21図　１号掘立柱建物跡，２号掘立柱建物跡



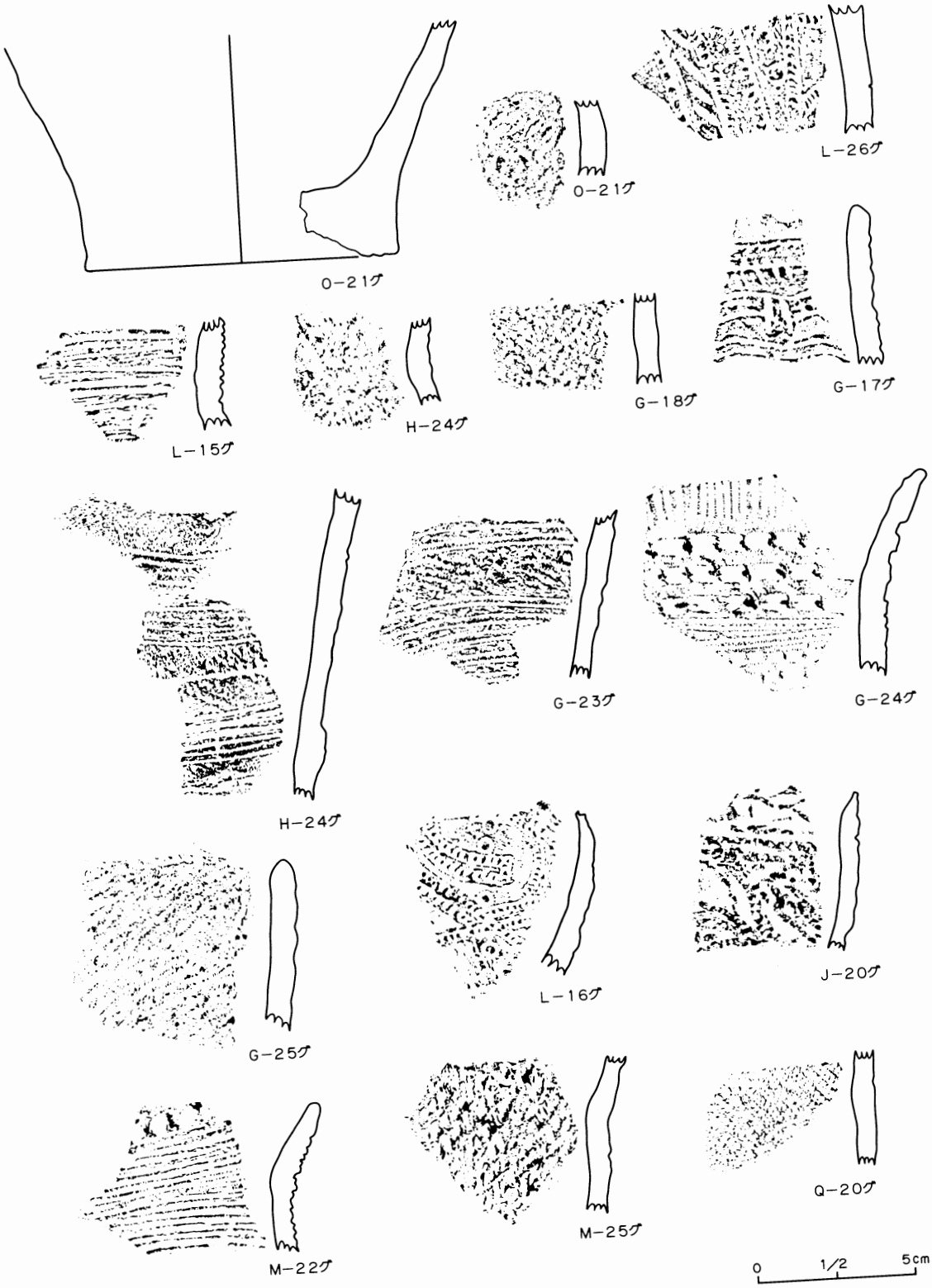
8号住居跡セクション
1　暗灰褐色　中締弱粘細砂　ＢＰ３％小礫あり
1’暗褐色　弱締弱粘微砂とＢスコリア2/8の混在
1”１にＢスコリア１０％
2　暗灰褐色　中締弱粘粗砂　小ＢＰスコリア７％
3　暗褐色　中締中粘細砂　ＢＰ２％ＦＰ２％斑文・遺物粒あり
4　暗褐色　弱締弱粘細砂とＢスコリアの混在
4’Ｂアッシュ下部灰色上部あずき色
5　黒灰褐色　中締弱粘細砂　ＢＰ２％斑文２０％
6　黒灰褐色　中締中粘細砂　ＢＰ２％
7　黒灰色　弱締弱粘微砂とＢスコリア7/3
8　暗灰色　中締弱粘細砂　ＢＰ３％ローム粒２％
9　暗灰褐色　中締弱粘細砂　ＢＰ２％ＦＰ１％
10　Ｂスコリアと黒灰色弱締弱粘微砂7/3 ロームブロックあり
11　灰褐色　中締弱粘細砂　ＢＰ２％小礫３％
12　灰褐色　弱締弱粘微砂　粗礫１０％
13　1”にロームブロック
14　ロームブロック



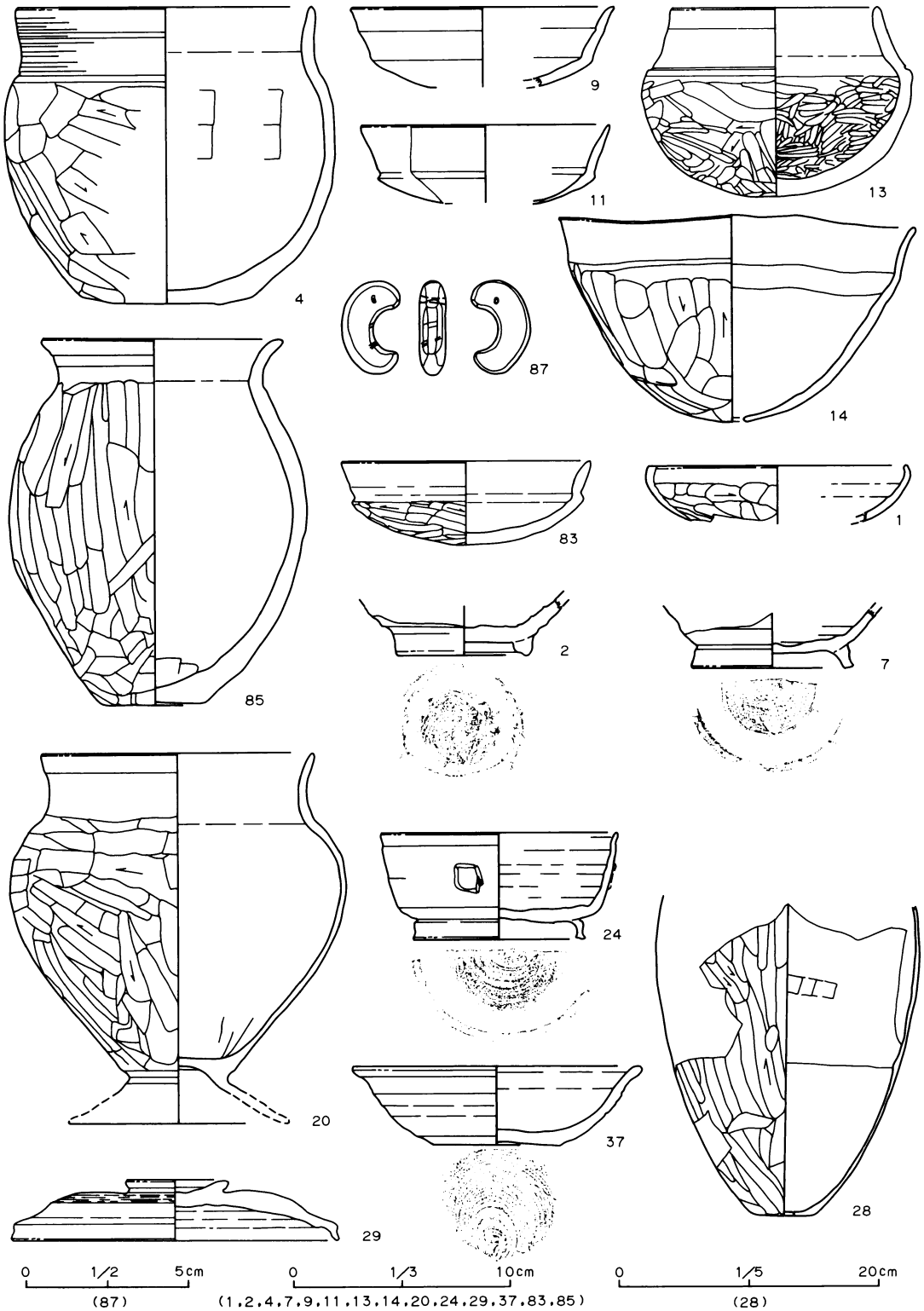
H－２１　住居跡セクション
1　暗褐色　中締弱粘細砂　ＢＰ２％ロームブロック５％
2　黄褐色　中締弱粘細砂　ロームブロック
3　暗褐色　中締弱粘細砂　ＣＰ１％遺物粒１％ロームブロック３％
4　灰褐色　中締弱粘細砂　ＢＰ２％ＦＰ２％ロームブロック２％
5　黒褐色　中締弱粘細砂　ＦＰ２％炭化粒１％と橙褐色ロームの3/7
6　灰褐色　中締弱粘細砂
7　灰褐色　中締弱粘細砂と橙褐色ロームの4/6

H－２１　カマドセクション
1　暗褐色　弱締弱粘細砂　ローム粒３％
2　暗褐色　中締弱粘細砂　ＢＰ１％遺物粒１％
3　暗灰褐色　中締弱粘細砂　ＢＰ１％ローム粒２％遺物粒１％

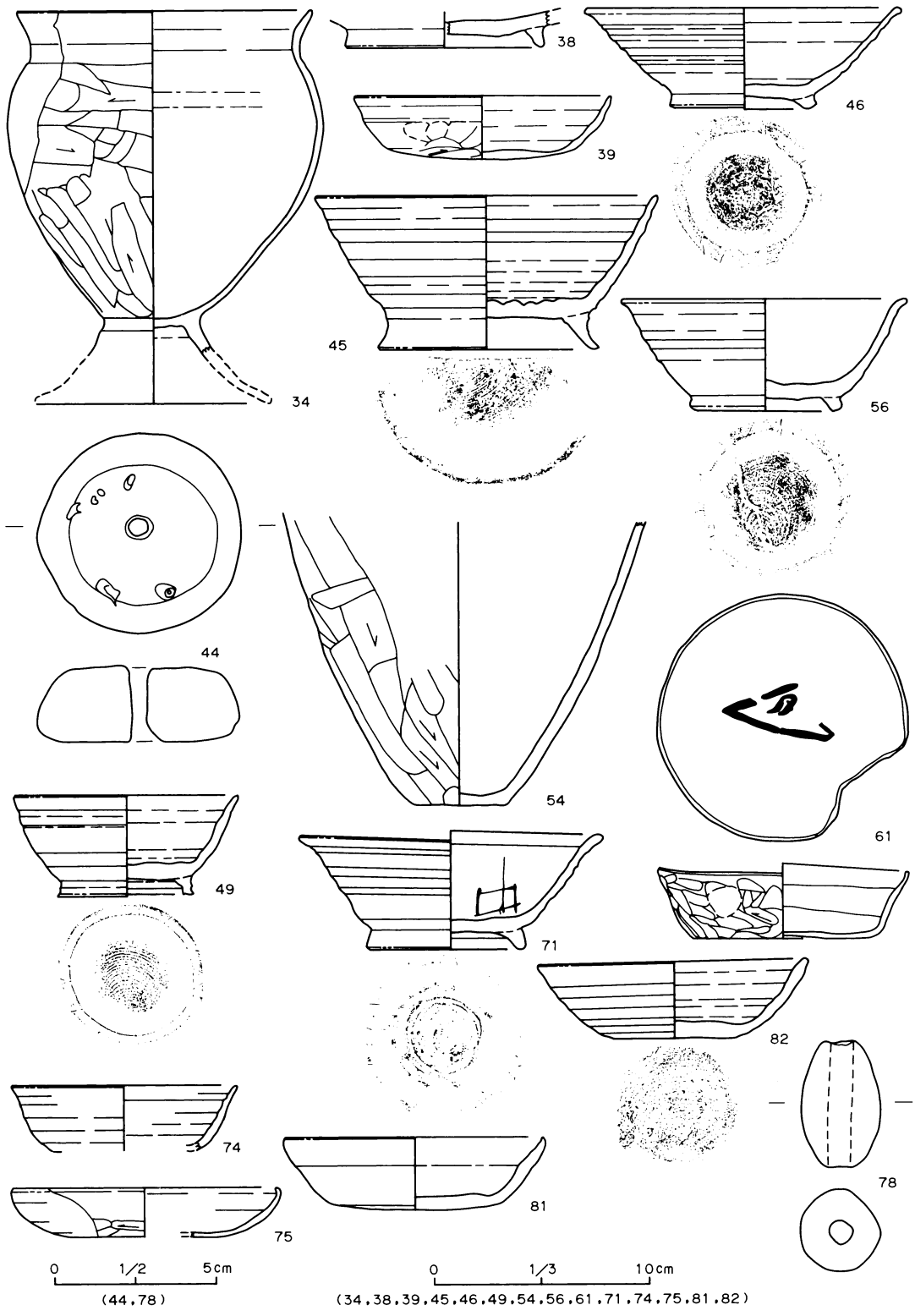
第22図　８号住居跡・21号住居跡・カマド


O−21グ
O−21グ
L−26グ
L−15グ
H−24グ
G−18グ
G−17グ
H−24グ
G−23グ
G−24グ
G−25グ
L−16グ
J−20グ
M−22グ
M−25グ
Q−20グ
0
1/2
5cm

縄文時代の遺物

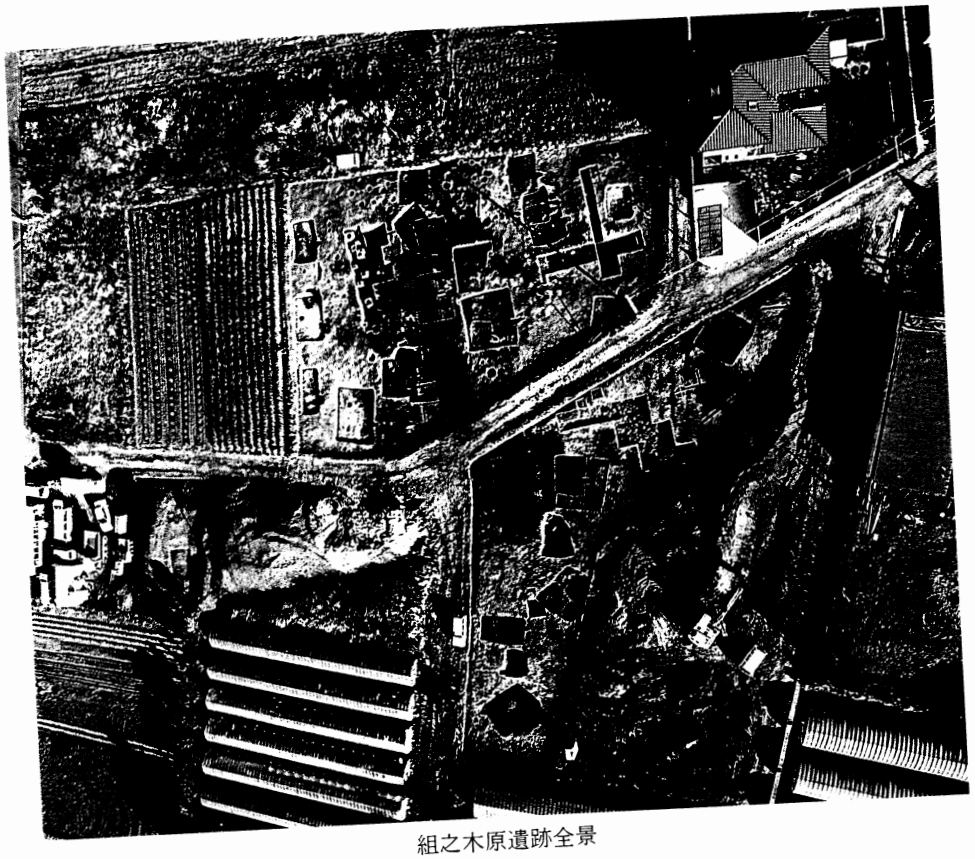

4
9
11
13
87
14
83
1
85
2
7
24
20
37
29
28
0 1/2 5cm
(87)
0 1/3 10cm
(1,2,4,7,9,11,13,14,20,24,29,37,83,85)
0 1/5 20cm
(28)

遺物実測図　1


34
38
39
45
46
56
44
54
61
49
71
82
74
75
81
78
0 1/2 5cm
(44,78)
0 1/3 10cm
(34,38,39,45,46,49,54,56,61,71,74,75,81,82)

遺物実測図　2

写　真　図　版



組之木原遺跡全景

1 号竪穴状遺構，27号住居跡

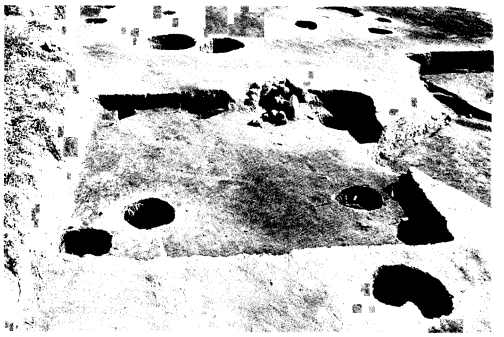
7 号住居跡

9 号住居跡

10号住居跡

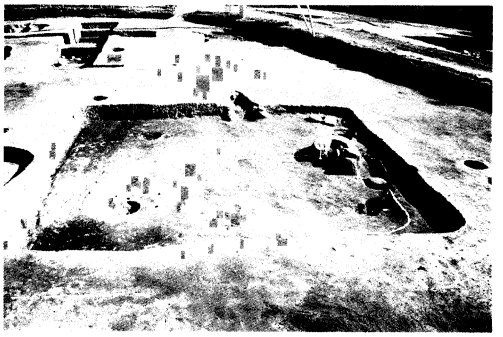
図版　2

12号住居跡

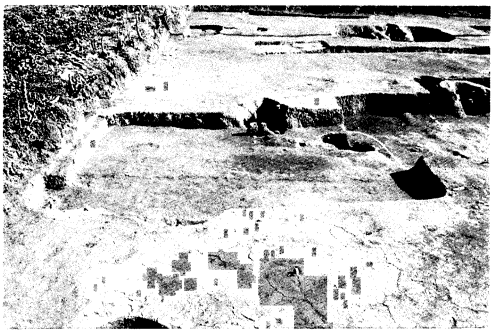


13号住居跡

15号住居跡

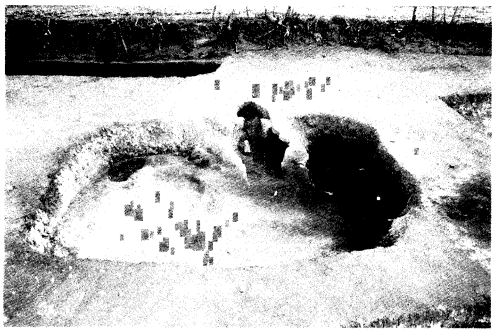


16・17号住居跡



18・19号住居跡

19・20号住居跡



22号住居跡

1号掘立柱建物跡

3

15

16

17

24

40

42

51

52

53

55

57

60

63

65

67

68

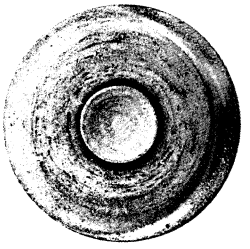
89

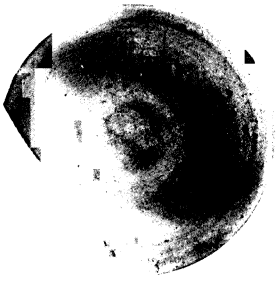
90

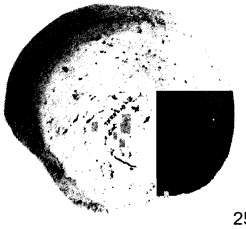
91

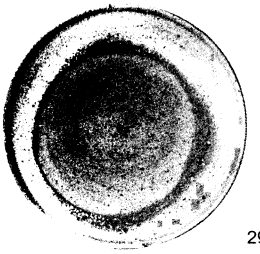
88

30

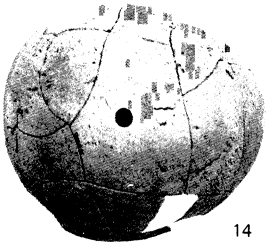


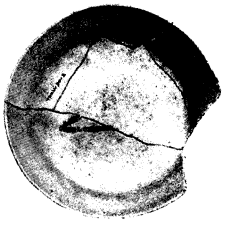


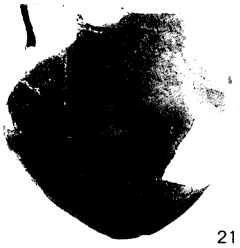

25

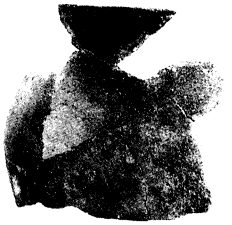

29

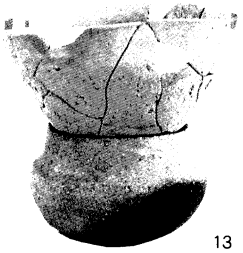
71


14




21


22


13

61

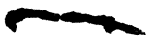
33

47

48

76 77 78 79 80

19


50

59

70

26

32

41

18

72

43

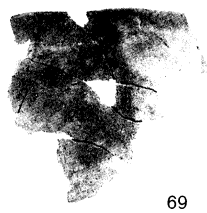
27

87

73

8

58


69

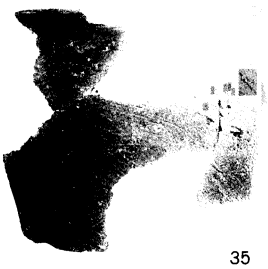
12

23

31

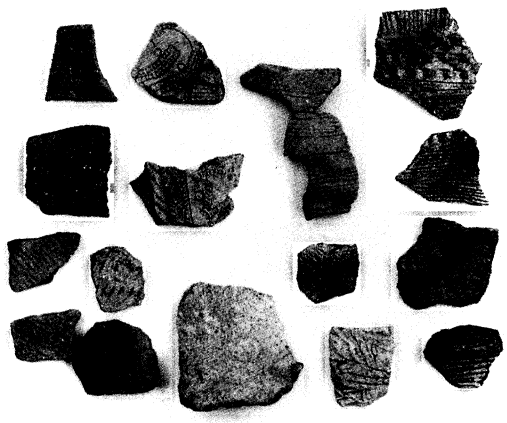
64

84


35

36

86



縄文時代の遺物

抄　　録

フ リ ガ ナ	クミノキハライセキ
書　　名	組之木原遺跡
副 書 名	民間開発（宅地造成）に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻　　次	
シ リ ー ズ	
編 著 者 名	スナガ環境測設株式会社　新保一美
編 集 機 関	勢多郡富士見村遺跡調査会
編集機関所在地	〒371－01　群馬県勢多郡富士見村大字田島866－1番地
発 行 年 月 日	西暦1996年4月30日

フリガナ 所収遺跡名	フリガナ 所在地	コード		位置		調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号	北緯	東経			
クミノキハライセキ 組ノ木原遺跡	セタグンフジミムラ 勢多郡富士見村 オオワザトキザワ 大字時沢		TKKU	36°25′25″	139°05′53″	19950921 19960430	2,200m²	民間開発行為 （宅地造成）

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
組之木原遺跡	集落跡	古墳時代	竪穴住居跡　6軒	土師器甕、甑、坏、埦	
〃	集落跡	奈良・平安時代	竪穴住居跡　21軒	土師器甕・坏・埦，須恵器蓋・把手付高台・紡錘車・土錘など	
〃	集落跡	奈良時代	掘立柱建物跡　2棟	なし	
〃	土坑	不明	土坑　1基	なし	
〃	ピット	不明	ピット　71基	なし	

組之木原遺跡

1996年4月22日印刷
1996年4月30日発行

発　行　勢多郡富士見村遺跡調査会
勢多郡富士見村大字田島866－1番地
編　集　スナガ環境測設株式会社
前橋市青柳町211番地の1
印　刷　朝日印刷工業株式会社